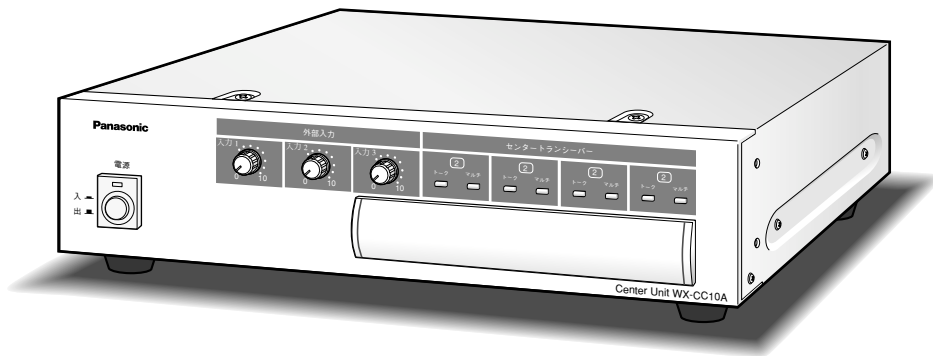


取扱説明書

工事説明付き

ワイヤレスインターカムシステム
センターユニット

品番 **WX-CC10A**



上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびは、ワイヤレスインターカムシステム センターユニットをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

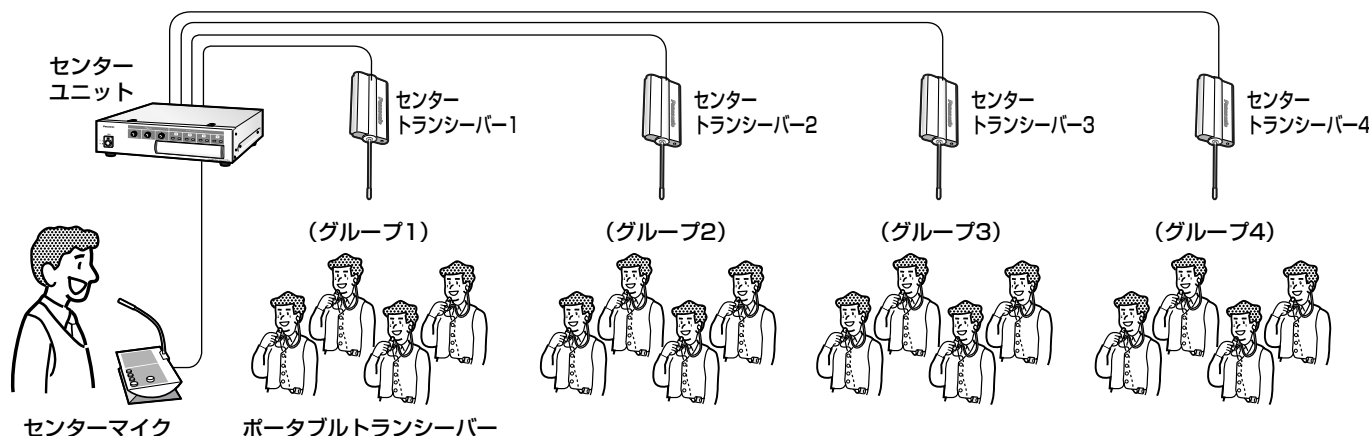
- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(6～7ページ)は、**ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。**お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

はじめに

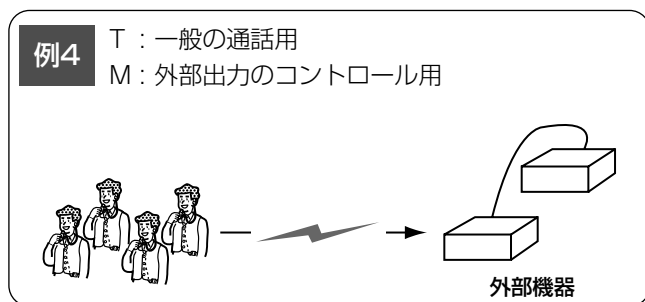
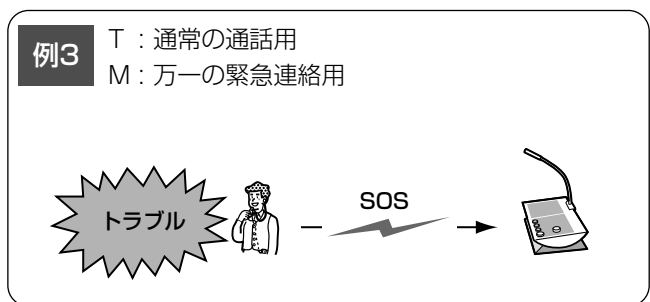
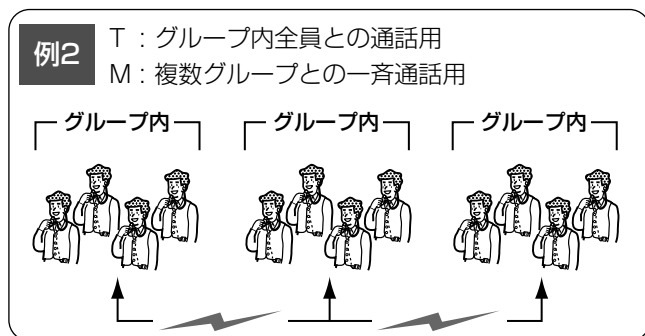
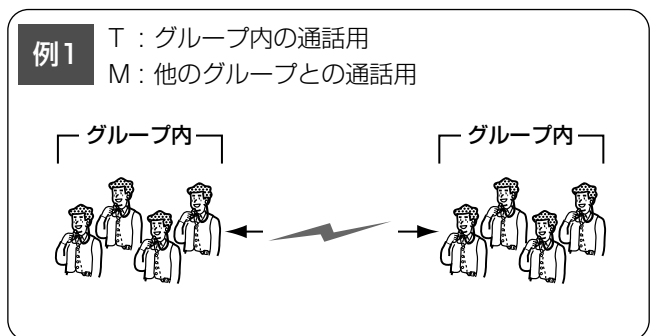
商品概要

本機は、ワイヤレスインターカムシステムに使用するセンターユニットです。本機およびセンタートランシーバーを中継局として、ポータブルトランシーバー相互間での双方向通話やセンターマイクなどの外部機器との双方向通話を行います。

●システム例



次のような通話設定が行えます。(T：トークボタン、M：マルチボタン)



付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）……………1
保証書……………1

以下の付属品は取付工事に使用します。

チャンネル設定用小型ドライバー……………1
ラックマウント金具……………2
ラックマウント金具取付ねじ（M4×10）……………4
ラック取付ねじ（M5×12）……………4
ねじ隠しラベル……………4

本書について

本書は、本機の説明について説明しています。センターマイク、センタートランシーバー、ポータブルトランシーバーの取扱説明書も合わせてお読みください。

免責について

- 弊社は如何なる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - ② お客様の誤使用や不注意による損害または本商品の破損等
 - ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
 - ④ 本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、通話できないことによる不便・損害・被害
 - ⑤ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
 - ⑥ 第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

電波法に義務づけられている、「キャリアセンス機能」（第三者が同じ周波数帯を使用中の間は、通話を開始できない）により、通話に制限を受けることがあります。
 - ⑦ 故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害

本商品の無線通話はアナログ方式を採用しており、傍受を抑制する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

用語・記号について

本書では、以下の用語および記号を用いて説明しています。

グループ

ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。グループは、ポータブルトランシーバーが通信するセンタートランシーバーにより構成されます。

エリア

1つのグループが通信可能な範囲（広さ）をあらわします。

エリア拡大

複数のセンタートランシーバーを用いて、1つのグループが通信可能な範囲（広さ）を拡大すること、もしくはそのシステム構成をあらわします。

カスケードシステム

センターユニットを2台または3台接続し、センタートランシーバーの台数（12台まで）を増やすことで、「エリア拡大」よりもさらに広いエリアを1つのグループで運用できるシステムです。

ID

センターマイクから任意のポータブルトランシーバーを個別に選択して通話する際に必要な、個々のポータ

ブルトランシーバーに割り当てる番号です。

交互通話

ポータブルトランシーバーまたはセンターマイクと、別のポータブルトランシーバー間の通話において、一方の通話が終了してから、もう一方が通話を開始する（交互に通話する）ことです。

同時通話

ポータブルトランシーバーまたはセンターマイクが通話をしているときに、別のポータブルトランシーバーなどが割り込んで同時に通話をすることです。ポータブルトランシーバーが同時に通話できる人数は、システムの構成により異なります（最大4人）。本システムでは、同時通話できる人数は1人分制限されることがありますが、いったん全員の通話が終わると、最大人数まで通話できるようになります。



重要 : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



: 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

ご
使
用
前
に

ご使用前に

安全上のご注意	6
取扱上のお願	7
各部のなまえ（前面パネル部）	8

操
作

操作

基本的な通話のしかた	9
ポータブルトランシーバーでグループ内の通話をする	9
センターマイクでグループ指定の通話をする	10
ポータブルトランシーバーで全てのグループと通話する	11
センターマイクで全てのグループと通話する	12
指定したポータブルトランシーバーとの通話	13
センターマイクからの通話（カスケードシステム）	15
外部出力への通話のしかた	16
外部入力の音量を調節する	17
緊急連絡のしかた	18
グループ間を移動する	20
通話状態を解除する	21

設
置
・
工
事

設置・工事

設定を始める前に	22
はじめに	22
設定・設置手順	22
設定上のお願	24
システム構成について	24
周波数を設定する	26
送信先を設定する	27
センタートランシーバーの設定	27
外部出力の設定	28
設定例	29
各種機能を設定する	30
送信出力の設定	30

そ
の
他

スケルチの設定	30
エリア拡大の設定	32
従来システムとの接続設定をする	33
システム構成を設定する	35
システム構成設定例	36
設置を始める前に	37
設置上のお願い	37
設置例	39
設置のしかた	41
ラックへの取り付けかた	41
据置型として使用する場合	41
接続のしかた	42
センタートランシーバーを接続する	42
センターマイクを接続する	43
外部入力を接続する	44
外部入力を使用する	46
スピーカーを接続する（外部出力）	48
外部制御出力を使用する	49
システム構成例	50
カスケードシステムについて	58

その他

故障かな！？	70
ユーザー通知一覧	73
仕様	74
保証とアフターサービス	裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

ご使用前に

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店にご依頼ください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

不安定な場所に置かない



禁止

落下によるけがの原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない



禁止

(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

⚠ 警告

電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

取り扱い上のお願ひ

●ご使用の電源は

AC100 V (50 Hz/60 Hz) です。ご使用後は、必ず電源スイッチを“切”にしてください。

●電源スイッチについて

電源スイッチを“切”にしても電源からは遮断されません。(電源表示灯が消灯していても電源が遮断されているとは限りません。)

電源を遮断する場合は、ACコンセントから本機の電源プラグを抜くか、電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

●使用温度範囲は

-10 °C ~ +50 °C です (ラック取付時 -10 °C ~ +45 °C)。この温度範囲外で使用すると、内部の部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となることがあります。

●通信に異常があるときは

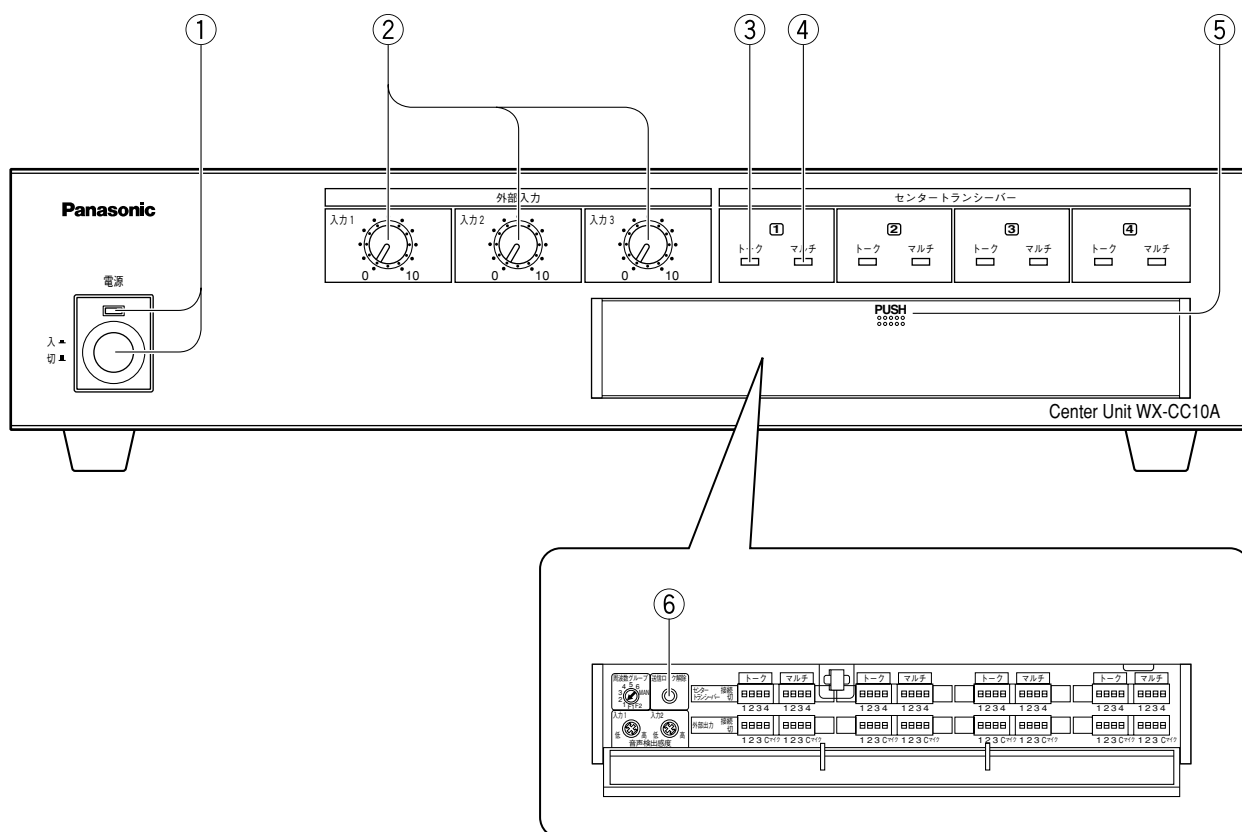
機器の使用環境(ノイズなど)によって、通信できないなどの不具合が生じることがあります。その場合は、センターユニットの送信ロック解除ボタンを押してから、センターユニットの電源を再投入してください。

●お手入れは

- 電源を切り乾いた布でふいてください。汚れが取れにくいときは、薄めた台所用洗剤(中性)をやわらかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽く拭いてください。その後、乾いたやわらかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

各部のなまえ (前面パネル部)

ご使用前に



① 電源スイッチ、電源表示灯

電源を入/切します。電源“入”時は電源表示灯が点灯します。電源を入れると、本機はセンタートランシーバーとセンターマイクとの接続状態をトーク表示灯とマルチ表示灯であらわします(73ページ)。接続の確立が終了すると、システムが運用できるようになります。

② 外部入力1, 2, 3音量調節つまみ

本機に接続した外部入力(CDプレーヤー、有線マイクなど)の音量を調節します。

③ トーク表示灯

ポータブルトランシーバーのトークボタンによる通話状態を表します。

点滅：トークボタンによる通話中

点灯：センターマイクなどからの放送中
(マルチ表示灯も同時に点灯)

消灯：未通話

④ マルチ表示灯

ポータブルトランシーバーのマルチボタンによる通話状態を表します。

点滅：マルチボタンによる通話中

点灯：センターマイクなどからの放送中
(トーク表示灯も同時に点灯)

消灯：未通話



● トーク表示灯とマルチ表示灯は、異常状態も表します。詳しくは、73ページをお読みください。

⑤ 設定部

● ふたを開けると各種設定を行うスイッチがあります。

● “PUSH” と表示されているところを押すと開きます。



● 前面パネルの設定部と背面パネル部の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

⑥ 送信ロック解除ボタン

通話状態を強制的に解除するボタンです。

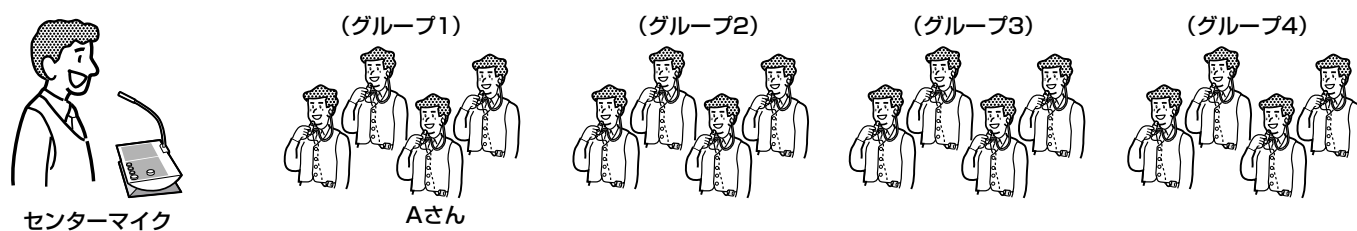
基本的な通話のしかた

ポータブルトランシーバーでグループ内の通話をする

下記システム構成のAさん（グループ1に所属）を例に、本機でトークボタンとマルチボタンの送信先を次のように設定した場合の通話方法を説明します。（ご使用前にお買い上げの販売店に設定状態をご確認ください。）

トークボタン：グループ内とセンターマイクとの通話ができるように設定

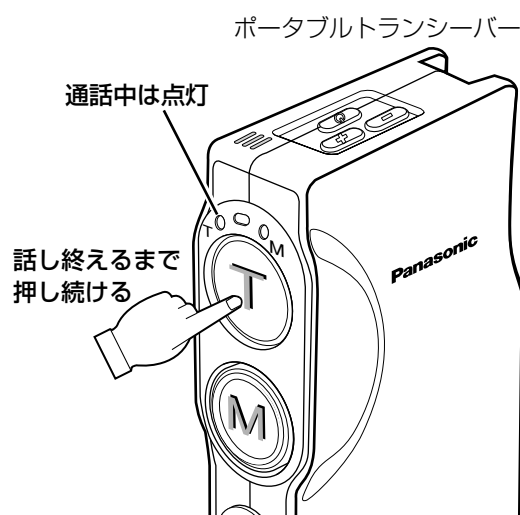
マルチボタン：全てのグループとセンターマイクとの通話ができるように設定



操作

1 トークボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でお話してください。グループ1のメンバーおよびセンターマイクに音声が届きます。このとき、本機前面パネルのグループ1のトーク表示灯が点滅します。
- 話すときは、マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- “ブブブッ”と鳴ったときは、他のメンバーが話し中などのため、やり直してください。
- カスケードシステムでご使用の場合、“ピピッ”と鳴った後、1秒程度間をあけてから話してください。はじめの約1秒間は音声がない場合があります。



2 話し終わったらトークボタンを離す

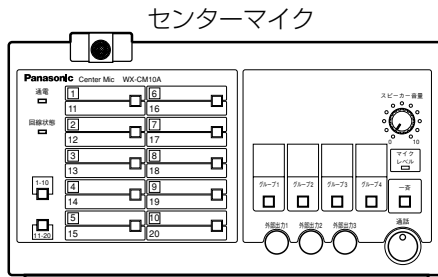
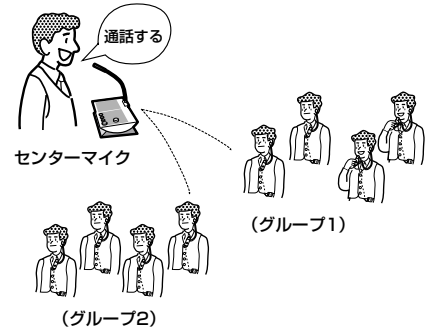


- 複数のポータブルトランシーバーが、同時にトークボタンまたはマルチボタンを押して送信すると、耳障りなビートノイズが発生します。その場合は、一度送信を中止して1秒程度間をあけてからやり直してください。
- トークボタンの動作状態が“トークロック”の場合は、一度押すと通話が開始されます。話し終わるときに、再度トークボタンを押してください。トークボタンの動作状態については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 同時通話の場合の手順も同様です。同時通話の設定状態については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- エリア拡大でご使用の場合、ポータブルトランシーバーが通話中に移動しているとき、ノイズが入ったり通話が切断されたりすることがあります。このときは、3秒程度間をあけてから再度通話を開始してください。
- カスケードシステムまたはエリア拡大でご使用の場合、ポータブルトランシーバーの電源を入れた直後から最大10秒程度通話できない場合があります。トークボタンやマルチボタンを押したときに“ブブブッ”と鳴ったときは、しばらくしてからもう一度通話を開始してください。

センターマイクでグループ指定の通話をする

グループ（1～4）を指定して通話することができます。

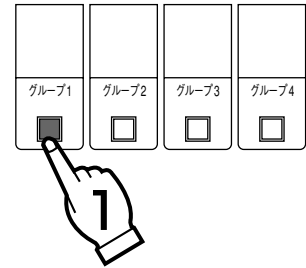
センターマイクから、グループ1に通話する場合の操作方法を説明します。



1

グループ1選択ボタンを押す

表示灯が点灯し、グループ1が指定されます。



2

通話ボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でお話してください。このとき、本機前面パネルのグループ1のトーク表示灯、マルチ表示灯が点灯します。
- マイクレベル表示灯が、時々“赤”に点灯する程度を目安にご使用ください。
- マイクの音量は、センターマイク前面にあるマイク音量調節つまみで調節してください。



3

話し終わったら通話ボタンを離す

- 通話が終了しても5秒程度は、再度通話ボタンを押すことで続けて通話が可能です。



- 通話ボタンの動作状態が“トークロック”の場合は、一度押すと通話が開始されます。話し終わるときに、再度通話ボタンを押してください。通話ボタンの動作状態については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 複数のグループから話しかけられているときに、選択しているグループのポータブルトランシーバーとだけ通話することができます。
- 通話中は、通話ボタン以外のボタン操作は無効となります。ただし、個別選択1～10／11～20切換ボタンは有効ですので、通話先として選択しているIDの確認ができます。

ポータブルトランシーバーで全てのグループと通話する

下記システム構成のAさん（グループ1に所属）を例に、本機でトークボタンとマルチボタンの送信先を次のように設定した場合の通話方法を説明します。（ご使用前にお買い上げの販売店に設定状態をご確認ください。）

トークボタン：グループ内とセンターマイクとの通話ができるように設定

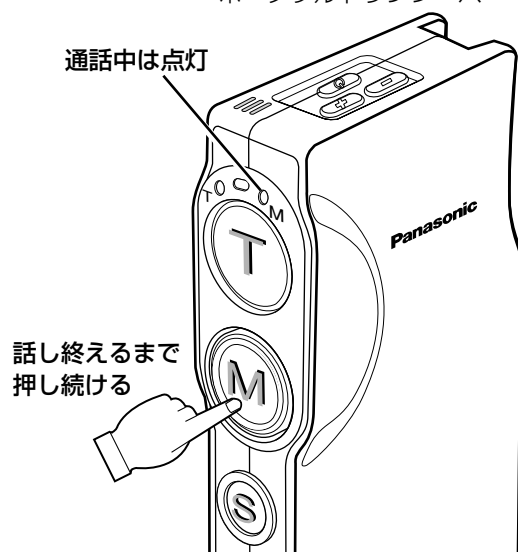
マルチボタン：全てのグループとセンターマイクとの通話ができるように設定



1 マルチボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でお話してください。グループ1,2,3,4のメンバーおよびセンターマイクに音声が届きます。このとき、本機前面パネルのグループ1のマルチ表示灯が点滅します。
- 話すときは、マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- “ブブブッ”と鳴ったときは、他のメンバーが話し中などのため、やり直してください。
- カスケードシステムでご使用の場合、“ピピッ”と鳴った後、1秒程度間をあけてから話してください。はじめの約1秒間は音声がない場合があります。

ポータブルトランシーバー



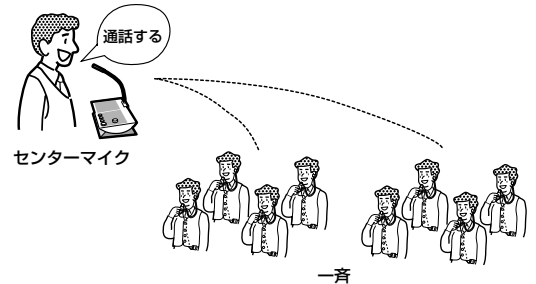
2 話し終わったらマルチボタンを離す



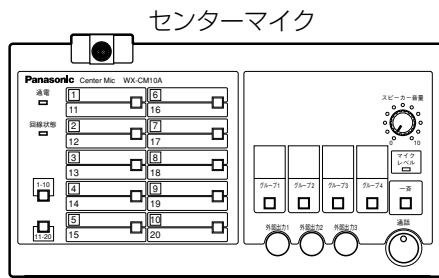
- 複数のポータブルトランシーバーが、同時にトークボタンまたはマルチボタンを押して送信すると、耳障りなビートノイズが発生します。その場合は、一度送信を中止して1秒程度間をあけてからやり直してください。
- マルチボタンの動作状態が“トークロック”の場合は、一度押すと通話が開始されます。話し終わるときに、再度マルチボタンを押してください。マルチボタンの動作状態については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 同時通話の場合の手順も同様です。同時通話の設定状態については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- エリア拡大でご使用の場合、ポータブルトランシーバーが通話中に移動しているとき、ノイズが入ったり通話が切断されたりすることがあります。このときは、3秒程度間をあけてから再度通話を開始してください。
- カスケードシステムまたはエリア拡大でご使用の場合は、ポータブルトランシーバーの電源を入れた直後から最大10秒程度通話できない場合があります。トークボタンやマルチボタンを押したときに“ブブブッ”と鳴ったときは、しばらくしてからもう一度通話を開始してください。

センターマイクで全てのグループと通話する

接続されているポータブルランシーバ全々と、通話することができます。



センターマイクから、一斉に放送（通話）する場合の操作方法を説明します。



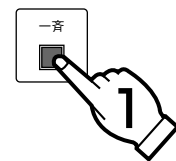
操作

1

一斉選択ボタンを押す

表示灯が点灯し、接続先全部が指定できます。

- このとき、グループ選択ボタンは、全て点灯します。



2

通話ボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でお話してください。このとき、本機前面パネルのグループ1～4のトーク表示灯、マルチ表示灯が点灯します。
- マイクレベル表示灯が、時々“赤”に点灯する程度を目安にご使用ください。
- マイクの音量は、センターマイク前面にあるマイク音量調節つまみで調節してください。



3

話し終わったら通話ボタンを離す

- 通話が終了しても5秒程度は、再度通話ボタンを押すことで続けて通話が可能です。



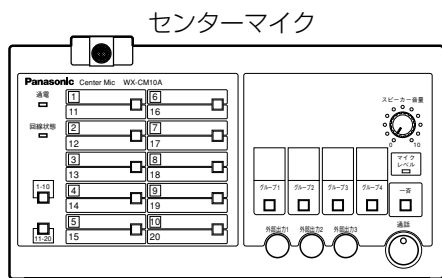
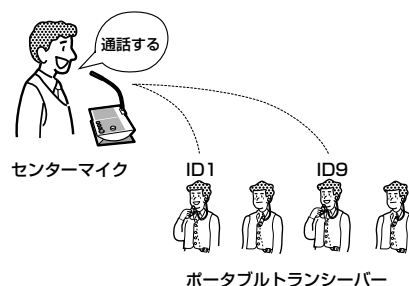
- 通話ボタンの動作状態が“トークロック”の場合は、一度押すと通話が始まります。話し終わるときに、再度通話ボタンを押してください。通話ボタンの動作状態については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 通話中は、通話ボタン以外のボタン操作は無効となります。ただし、個別選択1～10／11～20切換ボタンは有効ですので、通話先として選択しているIDの確認ができます。

指定したポータブルトランシーバーとの通話

ポータブルトランシーバーを指定（20台まで）して通話することができます。ポータブルトランシーバー側でそれぞれID（1～20）が設定されている必要があります。IDは、センターマイクの個別選択ボタン（1～20）に対応しています。

IDの設定状態については、お買い上げの販売店にご確認ください。

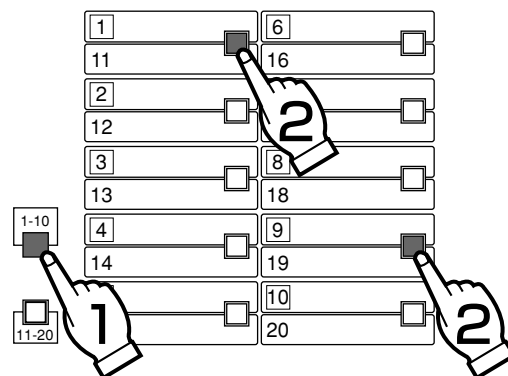
センターマイクから、ポータブルトランシーバーID1とID9に通話する場合の操作方を説明します。



1 個別選択1～10切換ボタンを押す

表示灯が点灯し、個別選択ボタン1～10が指定できます。

- 工場出荷時は1～10が選択された状態に設定されています。



2 個別選択ボタンの1と9を押す

押したボタンが点灯します。

- 続けて11～20を選択する場合は、個別選択11～20切換ボタンを押してから、選択します。

3 通話ボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

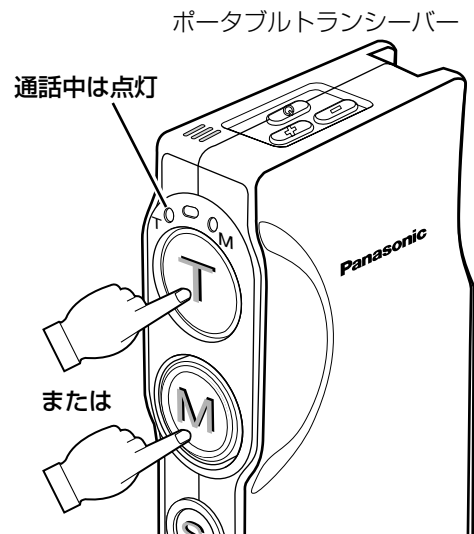
- 押したままの状態でお話してください。このとき、本機前面パネルの指定したグループのトーク表示灯、マルチ表示灯が点灯します。
- “ブブブッ”と鳴ったときは、やり直してください。
- マイクレベル表示灯が、時々“赤”に点灯する程度を目安にご使用ください。
- マイクの音量は、センターマイク前面にあるマイク音量調節つまみで調節してください。



指定したポータブルトランシーバーとの通話（つづき）

4 指定されたポータブルトランシーバーは、トークボタンまたはマルチボタンで応答できます

- このとき、本機前面パネルの応答したポータブルトランシーバーと通信しているグループのトーク表示灯またはマルチ表示灯が点滅します。
- トークボタンを使用するか、マルチボタンを使用するかは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



5 話し終わったら通話ボタンを離す

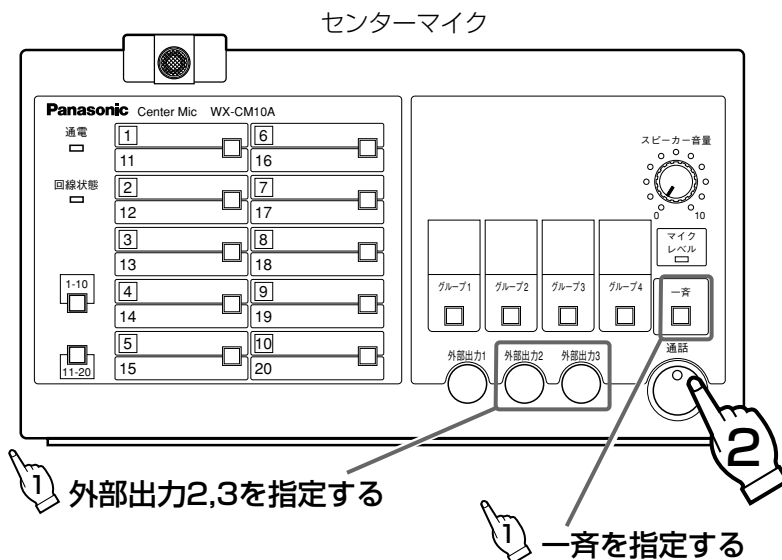


- IDを指定して通話した場合、他のポータブルトランシーバーは通話できなくなります。
- ポータブルトランシーバーがどのグループにいるかわかっている場合は、IDとグループの両方を指定してください。指定されなかったグループのポータブルトランシーバーはグループ内で通話できるようになります。
- IDを指定して通話している場合でも、同じ周波数に設定されていると、市販のトランシーバーなどで受信できてしまいますので、通話内容にはご注意ください。
- 選択されているIDは、個別選択切換ボタンを押して切り換えることで確認できます。個別選択1～10切換ボタンを押すと、1～10のうち選択されている表示灯が点灯します。個別選択11～20切換ボタンを押すと、11～20のうち選択されている表示灯が点灯します。個別選択切換ボタンが消灯していても、上記のように確認してください。点灯している表示灯のポータブルトランシーバーには全て通話できます。
- すでにポータブルトランシーバーが通信を行っている状態では、個別選択を行うことはできません。通信が終了してから行ってください。
- カスケードシステム（☞58ページ）では、この通話のしかたはできません。

センターマイクからの通話 (カスケードシステム)

カスケードシステムでセンターマイクから通話する場合の操作方法を説明します。

センターユニットを3台接続するカスケードシステムでの操作方法を説明します。センターユニットの接続台数はお買い上げの販売店にご確認ください。



操作

1

一通話選択ボタンと外部出力2,3選択ボタンを指定する

指定する通話先のボタンを押します。押したボタンが点灯します。

- 一通話選択ボタンを押して、表示灯を点灯させます。
- 外部出力2,3選択ボタンを押して、表示灯を点灯させます。

2

一通話ボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でお話してください。
- マイクレベル表示灯が、時々“赤”に点灯する程度を目安にご使用ください。
- マイクの音量は、センターマイク前面にあるマイク音量調節つまみで調節してください。



3

話し終わったら一通話ボタンを離す

- 通話が終了しても5秒程度は、再度一通話ボタンを押すことで続けて通話が可能です。

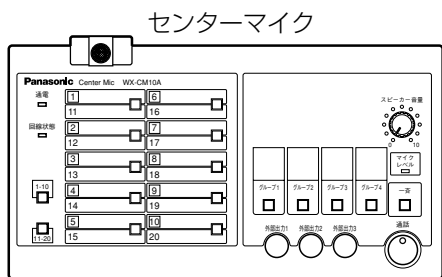
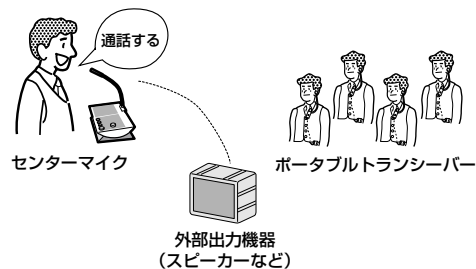


- カスケードシステム (※58ページ) では、センターマイクとポータブルトランシーバーは交互通話になります。
- カスケードシステムでは、ポータブルトランシーバーのIDを指定して通話することはできません。
- カスケードシステムでは、グループを指定する通話はできません。
- センターユニットを2台接続するシステムの場合は、上記手順1で、一通話選択ボタンと外部出力3選択ボタンを押して通話してください。

外部出力への通話のしかた

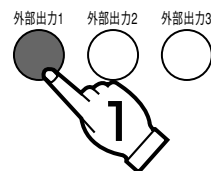
外部出力（1～3）を指定（スピーカーなど）して通話することができます。

センターマイクから、外部出力1のスピーカーに通話する場合の操作方法を説明します。



1 外部出力1選択ボタンを押す

表示灯が点灯し、外部出力1が指定されます。



2 通話ボタンを押し続け、“ピピッ”と鳴ったらマイクに向かって話す

- 押したままの状態でご話してください。
- マイクレベル表示灯が、時々“赤”に点灯する程度を目安にご使用ください。
- マイクの音量は、センターマイク前面にあるマイク音量調節つまみで調節してください。



3 話し終わったら通話ボタンを離す

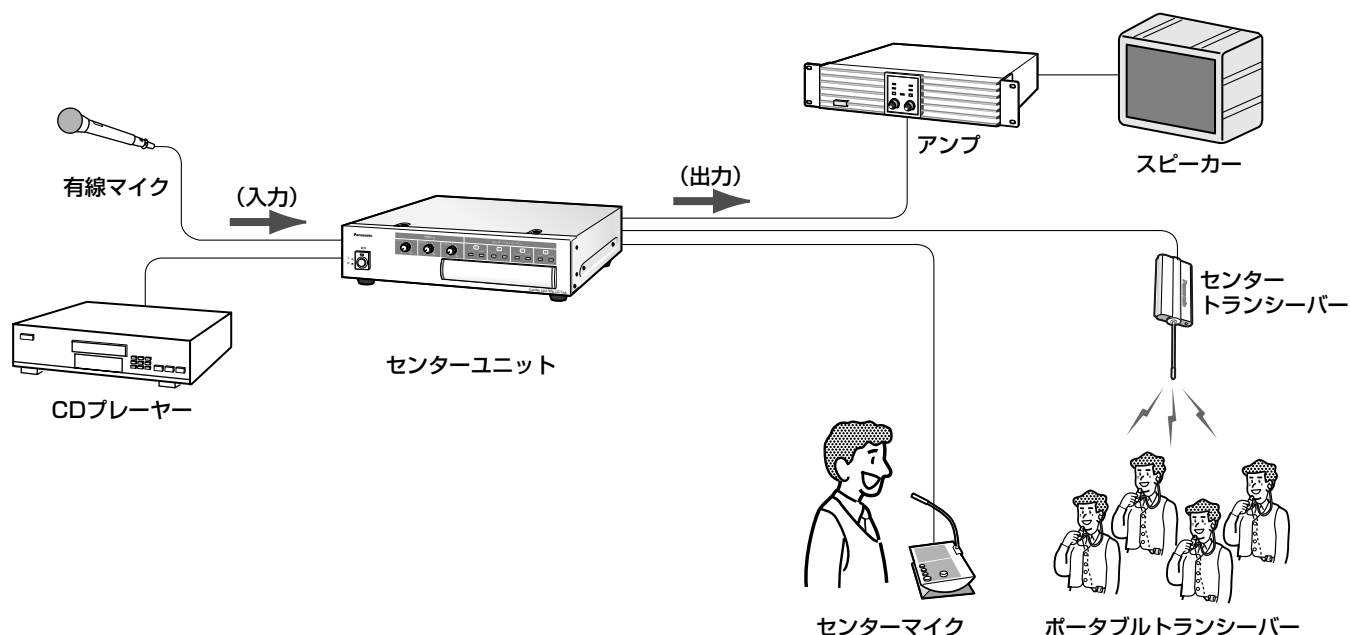
- 通話が終了しても5秒程度は、再度通話ボタンを押すことで続けて通話が可能です。



- センターマイクから外部出力への通話を設定しているかどうかは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

外部入力音量を調節する

本機の外部入力（入力1, 2, 3）にCDプレーヤーやマイクなどを接続すると、その音声をポータブルトランシーバーやセンターマイク、スピーカーなどへ出力することができます。



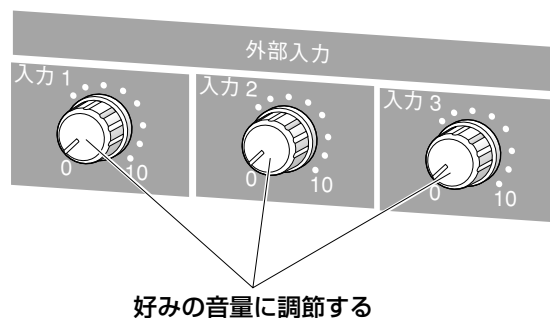
操作

1 CDプレーヤーなどを操作して音を出す

- 本機の外部入力に接続した機器を操作します。

2 外部入力音量調節つまみを回し、音量を調節する

- 好みの音量に調節してください。



- 外部入力の出力先（スピーカーやポータブルトランシーバーなど）は設定により異なります。ご使用前にお買い上げの販売店に設定状態をご確認ください。
- 送信出力の設定を“10 mW”で使用する場合、法律の規定により3分間通話をするると自動的に通信が切断されます。外部入力も3分間通話をするると自動的に通信が切断され、2秒間通信が禁止されます。

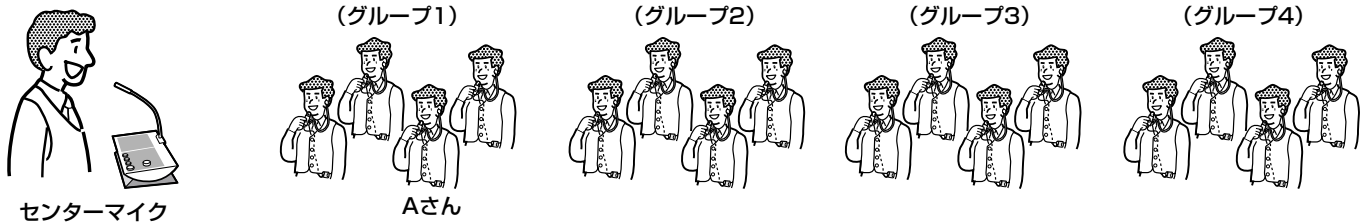
緊急連絡のしかた

緊急連絡とは、ポータブルトランシーバーのマルチボタン動作を“緊急”に設定したときの通話状態です。この機能は、トラブルが発生したときの緊急連絡用として使用するものです。

下記システム構成のAさん（グループ1に所属）を例に、トークボタンとマルチボタンの送信先を次のように設定した場合の通話方法を説明します。（ご使用の前にお買い上げの販売店に設定状態をご確認ください）

トークボタン：グループ内とセンターマイクとの通話ができるように設定

マルチボタン：全てのグループとセンターマイクとの通話ができるように設定



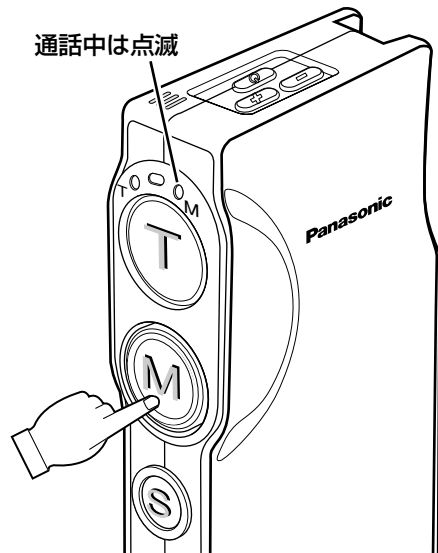
操作

1 マルチボタンを約1秒押し続ける

- 各送信先とつながるまでビープ音（ブピブピブピ…）を送り続けます。

ポータブルトランシーバー

通話中は点滅



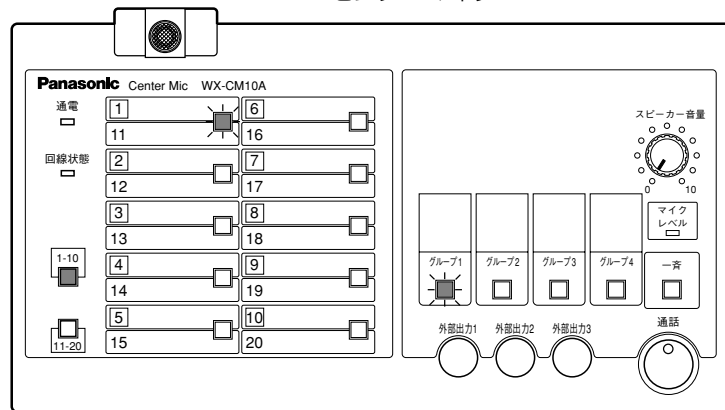
2 ビープ音が鳴り終わったらマイクに向かって話す

- 通話中は、5秒間隔で“ブピブピ”と緊急態を示すビープ音が鳴ります。このとき、本機前面パネルのグループ2～4のトーク表示灯、マルチ表示灯が点灯します。グループ1はマルチ表示灯が点滅します。
- 全てのグループとセンターマイクに音声が届きます。

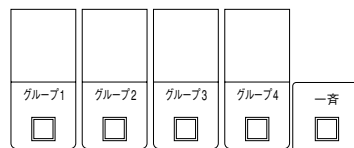
3 ポータブルトランシーバーからの緊急連絡を受信すると

- 緊急連絡を行ったポータブルトランシーバーのID、グループの表示灯が点滅します。
- 下図では、グループ1のポータブルトランシーバー ID 1から緊急連絡を受信した場合を示します。

センターマイク



4 緊急連絡中に、緊急連絡を行ったポータブルトランシーバーを呼び出すときは、通話したいグループのグループ選択ボタンか、一斉選択ボタンを押す



5 通話ボタンを押す
通話ボタンが点灯します。

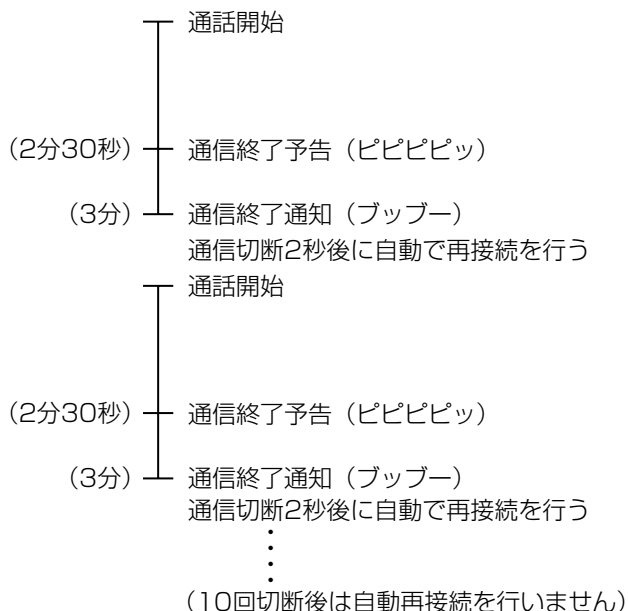


6 緊急連絡を終了するときは

- ポータブルトランシーバーから終了する場合は、再度マルチボタンを1秒間押し続けるか、電源を切ってください。
- センターユニットまたはセンターマイクから終了する場合は、送信ロック解除ボタンを押します。



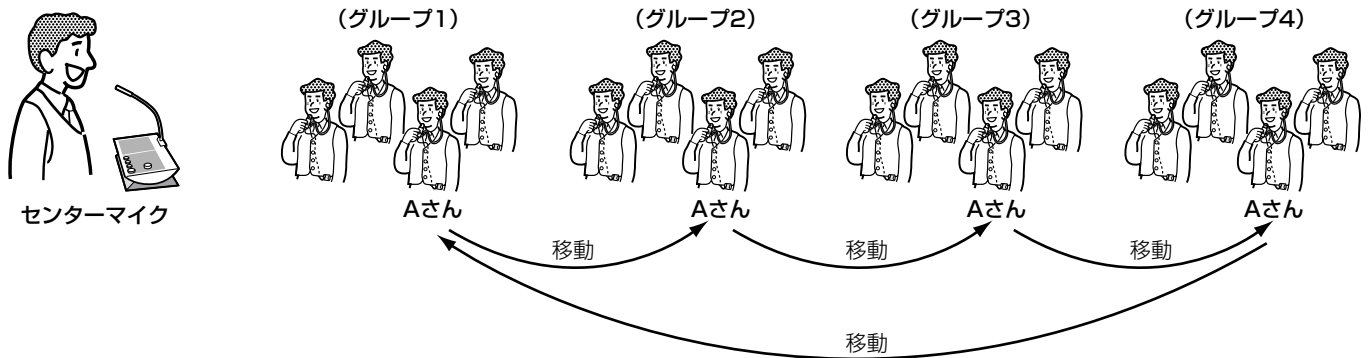
- カスケードシステム (58ページ) では、この通話のしかたはできません。
- ポータブルトランシーバーの送信出力を“10 mW”で使用する場合、法律の規定により3分間通話をするとう自動的に通信を切断し、2秒間通信が禁止されます。
1~9回目の切断時にはポータブルトランシーバーが自動で再接続を行います。10回目以降の切断時には再度ポータブルトランシーバーの操作が必要です。
- 接話マイクロホンのマルチボタンで操作するときも同様に1秒間押し続けることで、緊急連絡の開始(または解除)になります。
- カスケードシステムまたはエリア拡大でご利用の場合は、ポータブルトランシーバーの電源を入れた直後またはシフトボタンを操作した後で、最大10秒程度緊急連絡ができない場合があります。マルチボタンを押したときに“ブブブッ”と鳴りますが、ポータブルトランシーバーが自動的に接続を繰り返します。



グループ間を移動する

ポータブルトランシーバーのシフトボタンを使用して、複数のグループ間を移動することができます。

下記システム構成のAさん（通常はグループ1に所属）を例に、全てのグループに移動できるように設定した場合の操作方法を説明します。（ご使用前にお買い上げの販売店に設定状態をご確認ください）

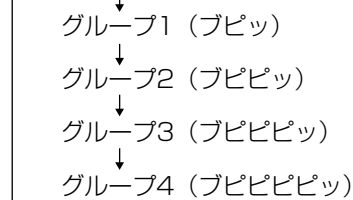


操作

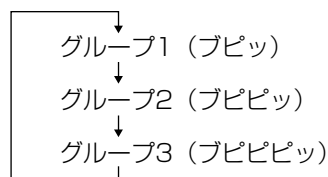
1 シフトボタンを押し、移動先のグループを選択する

- ボタンを押すたびにグループを移動します。エリア拡大またはカスケードシステムでご使用の場合、シフトスイッチを操作した後は、少し間をあけてから通話を開始してください。受信状態の検出に最大10秒程度かかります。
- どのグループに移動したかは音でお知らせします。
- 移動の順番はシフトボタンの動作状態により異なります。上記システム構成の場合、次のようになります。

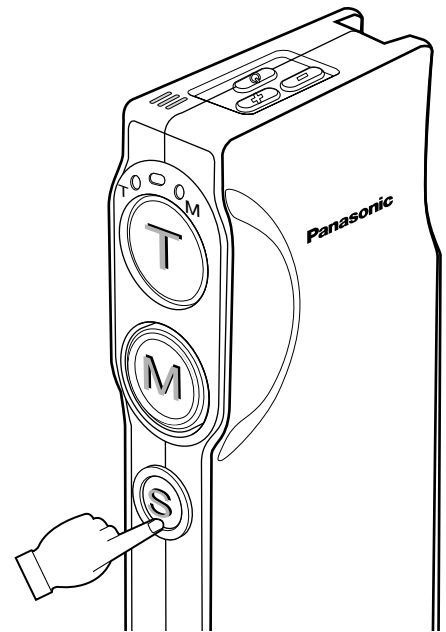
4シフト：グループ2、グループ3、グループ4、グループ1という順番で移動していきます。（WX-CT11Aのみ）



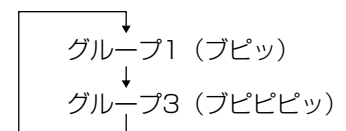
3シフト：グループ2、グループ3、グループ1という順番で移動していきます。



ポータブルトランシーバー



2シフト：グループ3、グループ1という順番で移動していきます。（WX-CT11Aのみ）

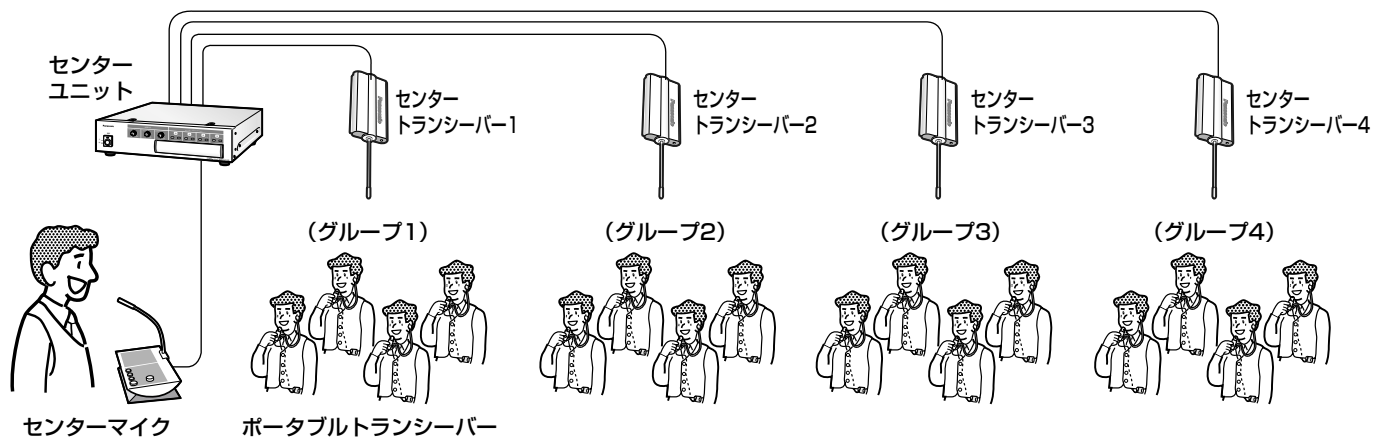


無効：グループ移動できません。（工場出荷時設定）

通話状態を解除する

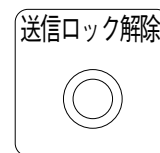
ポータブルトランシーバー間やセンターマイク間の通話状態を強制的に解除します。次のような場合にご使用ください。

- ポータブルトランシーバーがトークロックのまま、通話状態を解除しなかったとき。(送信出力が1 mWの場合^{※1})
例えば、ポータブルトランシーバーのトークボタン動作が“トークロック”に設定されている場合、トークボタンを一度押すと通話状態になります。誤って通話解除をしなかった場合は、電池がなくなるまで通話状態が続けられる可能性があります。
- ポータブルトランシーバーから緊急連絡^{※2}を行ったとき。



1 送信ロック解除ボタンを押します

- 通話状態が強制的に解除され、トーク表示灯またはマルチ表示灯が消灯します。



※1：送信出力には1 mWと10 mWがあり、設定により切り換えることができます。10 mWの場合は法律の規定により、約3分間通話をするると自動的に通信が切断されます。

※2：緊急連絡とは、ポータブルトランシーバーにあるマルチボタンの動作を“緊急”に設定したときの通話状態です。トラブルが発生したことを通知するとともに、現場でのやりとりなどを伝えることができます。

設定を始める前に

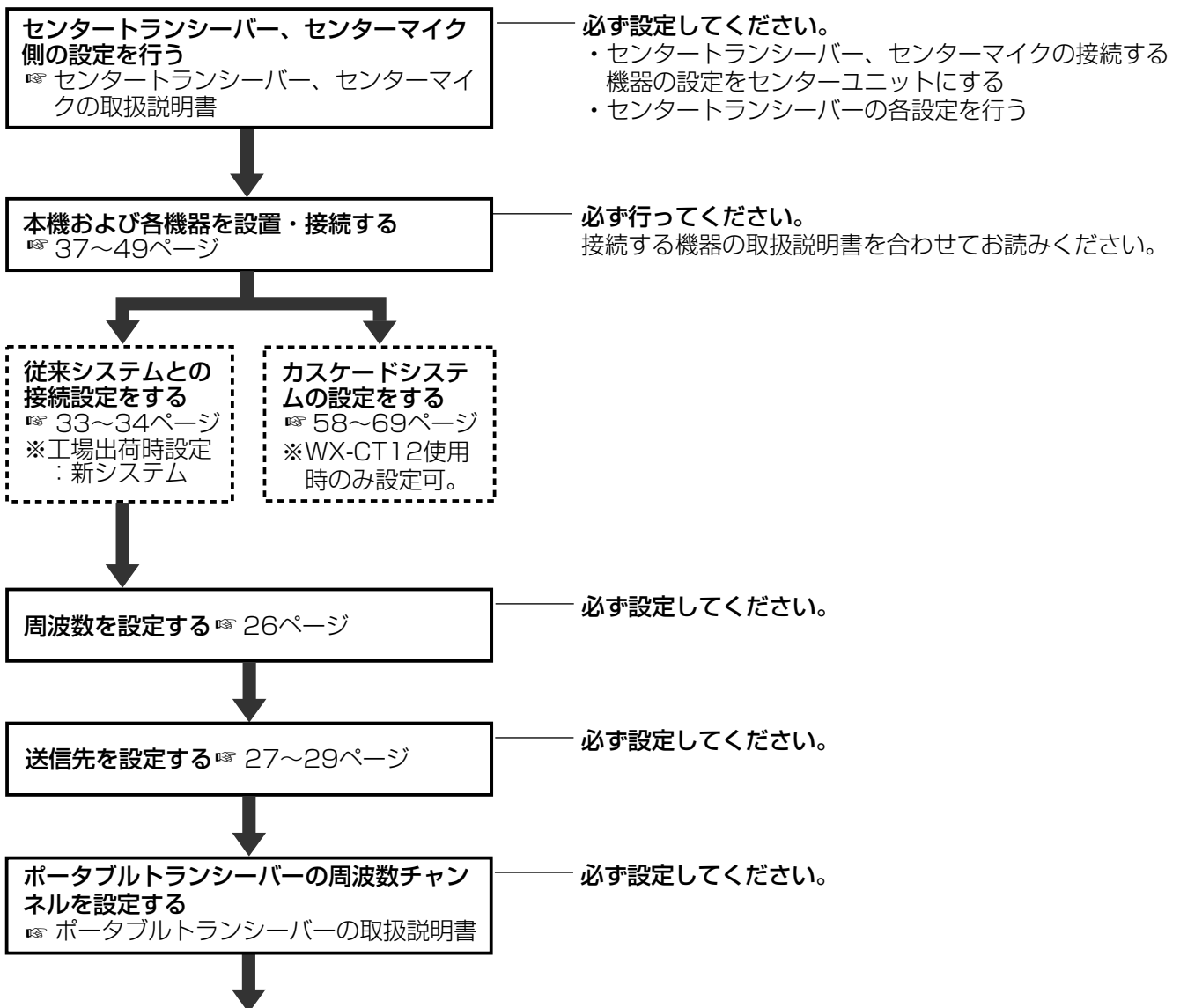
設定した内容は、お客様へ正しくお伝えください。

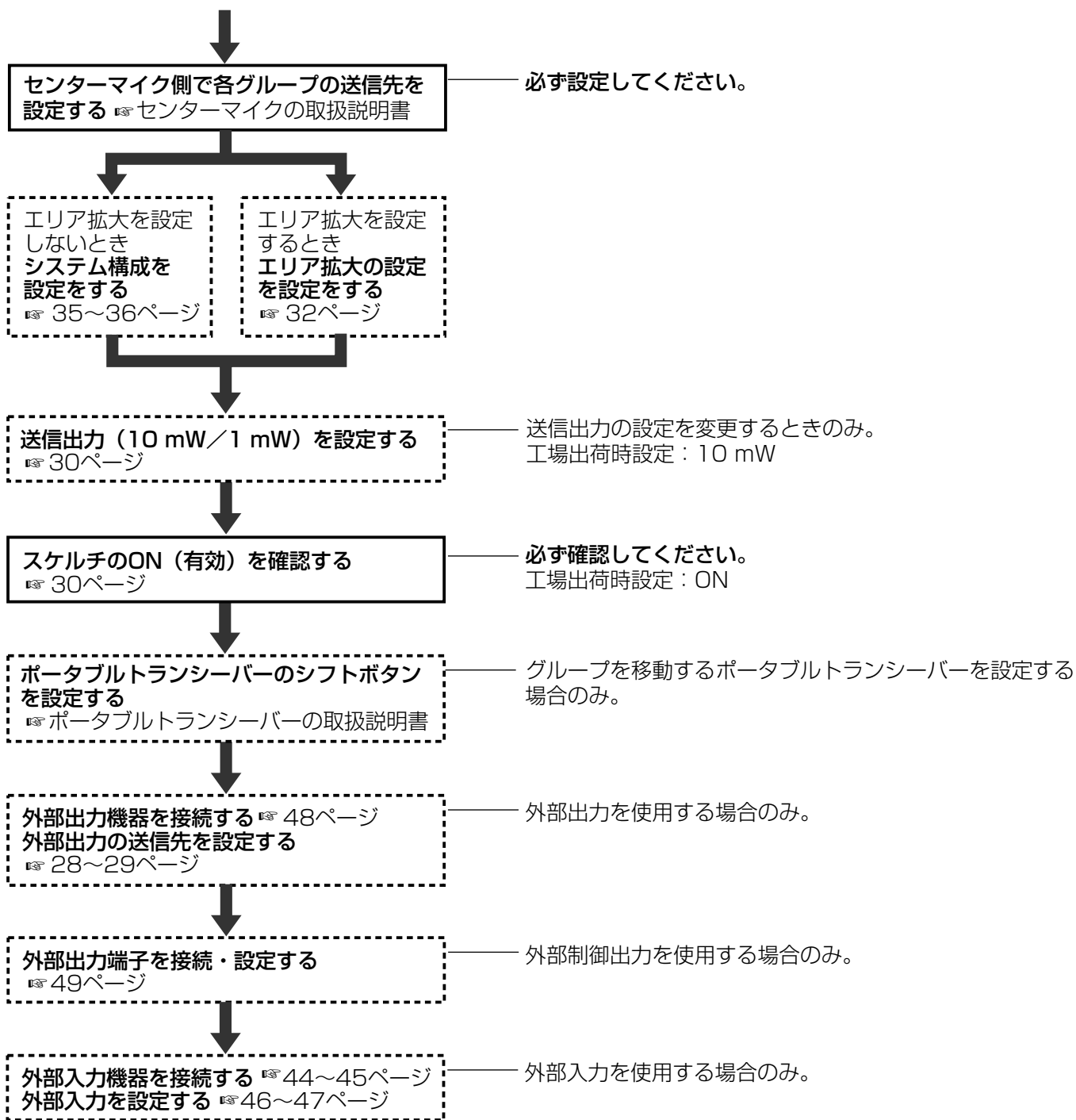
はじめに

ここから始まる設置・工事（設置編、設定編）の説明は、お買い上げの販売店の方を対象としています。設置・工事につきましては必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

設定・設置手順

本機の設定・設置は、以下の手順に従って行ってください。
なお、本機に接続する機器の取扱説明書も合わせてお読みください。





☐ は、必ず行ってください。
☐☐ は、必要に応じて行ってください。

設定上のお願ひ

●周波数の設定について

通話ができなくなったり混信が発生している場合は、設定した周波数の近くに外来の電波がある可能性があります。このような場合は、故障ではありませんので、周波数の設定を変更してください（☞26ページ）。

システム構成について

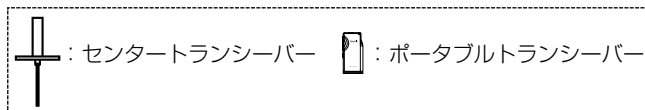
ワイヤレスインターカムシステムのシステム構成は、大きく分けて下記のものがあります。使用環境に合わせてお選びください。

また、24～25ページのイラストはイメージ図です。設置例などは次のページを合わせてお読みください。

- 設定を始める前に（☞37～40ページ）
- システム構成例（☞50～57ページ）

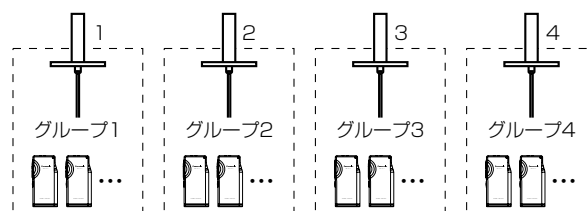


- センターユニット（本機）には4台までセンタートランシーバーを接続できます。
- ポータブルトランシーバーの使用台数に制限はありません。



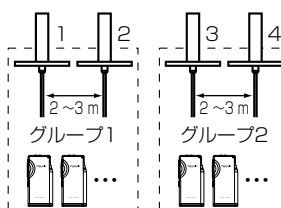
●4グループシステム

- センタートランシーバー1台で1グループを構成。
- ポータブルトランシーバー間は交互通話。
- 1グループの通話範囲は通常。



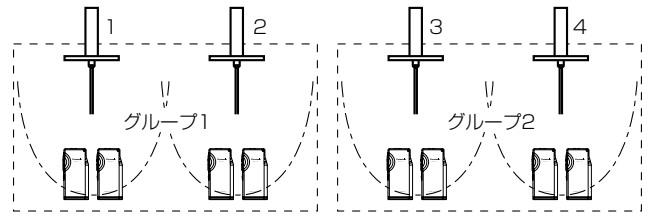
●2グループシステム

- センタートランシーバー2台で1グループを構成。
- ポータブルトランシーバー間は2人まで同時通話。
- 1グループの通話範囲は通常。
- 1と2、3と4のセンタートランシーバー間は、2 m～3 mにしてください。



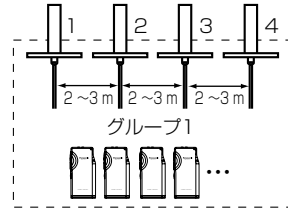
[エリア拡大に設定したとき]

- ポータブルトランシーバー間は交互通話。
- 1グループの通話範囲は広い。



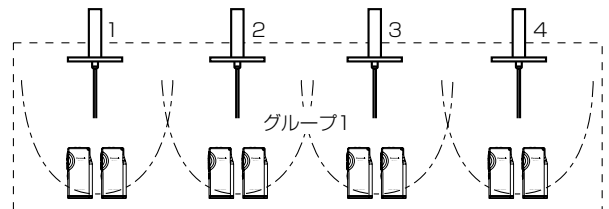
●1グループシステム

- センタートランシーバー4台で1グループを構成。
- ポータブルトランシーバー間は4人まで同時通話。
- 1グループの通話範囲は通常。
- 1～4の各センタートランシーバー間は、2 m～3 mにしてください。



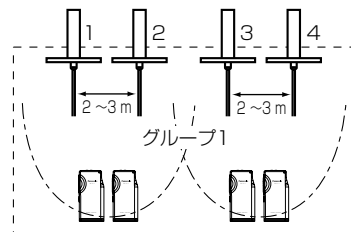
[エリア拡大に設定したとき]

- ポータブルトランシーバー間は交互通話。
- 1グループの通話範囲は広い。



[エリア拡大と同時通話に設定したとき]

- ポータブルトランシーバー間は2人まで同時通話。
- 1グループの通話範囲は広い。
- 1と2、3と4のセンタートランシーバー間は、2 m～3 mにしてください。

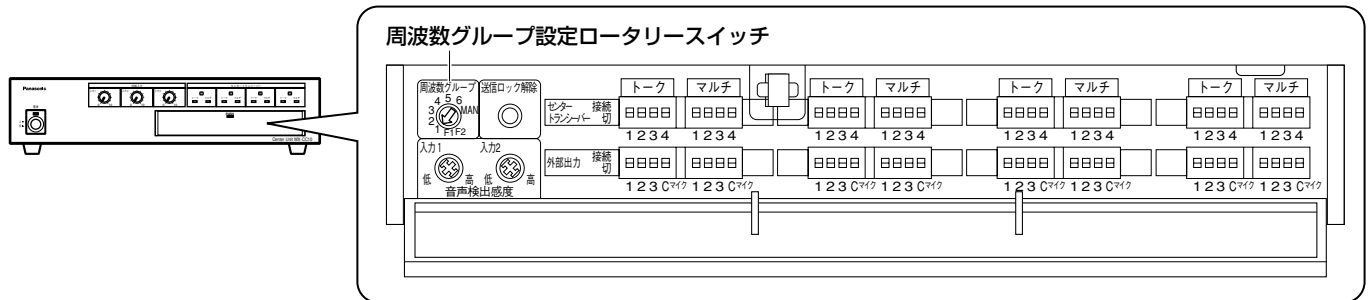


周波数を設定する

周波数グループ設定ロータリースイッチで、ワイヤレスインターカムシステムとして使用する周波数を設定します。工場出荷時の設定は“1”です。



- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



1

周波数を設定する

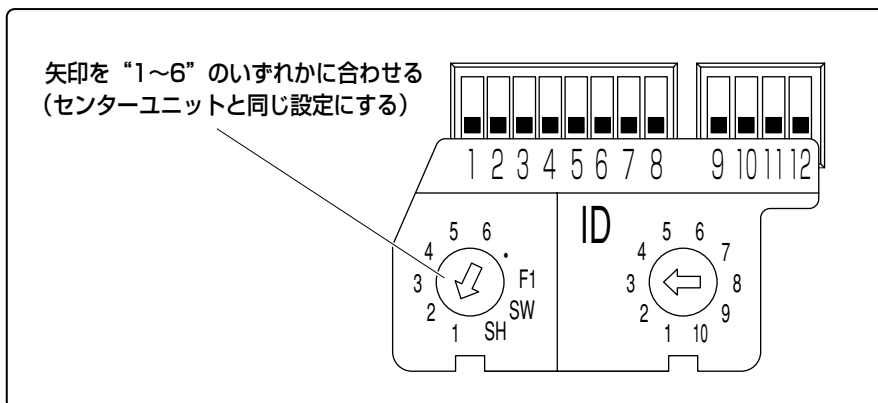
- 周波数グループ設定ロータリースイッチを“1～6”のいずれかに設定してください。
- センタートランシーバーの周波数設定を有効にする場合は、“MAN”に設定してください。



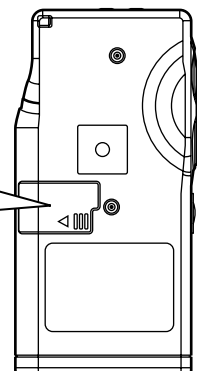
矢印を“1～6”または“MAN”のいずれかに合わせる



- 通話ができなくなったり混信が発生している場合は、設定した周波数の近くに外来の電波がある可能性があります。このような場合は、故障ではありませんので、周波数の設定を変更してください。
- 周波数を“1～6”に設定した場合、センタートランシーバーの周波数は周波数表（75ページ）に従って自動的に割り振られるため、センタートランシーバーで設定した周波数設定は無効になります。
- 周波数表（75ページ）の組み合わせで混信が発生する場合などに任意の組み合わせで周波数を設定したいときは、“MAN”をお使いください。
- ポータブルトランシーバーの周波数は、必ず本機の周波数と合わせてください。本機の周波数を“MAN”に設定したときは、所属するセンタートランシーバーの周波数と合わせてください。



ポータブルトランシーバー裏面



送信先を設定する

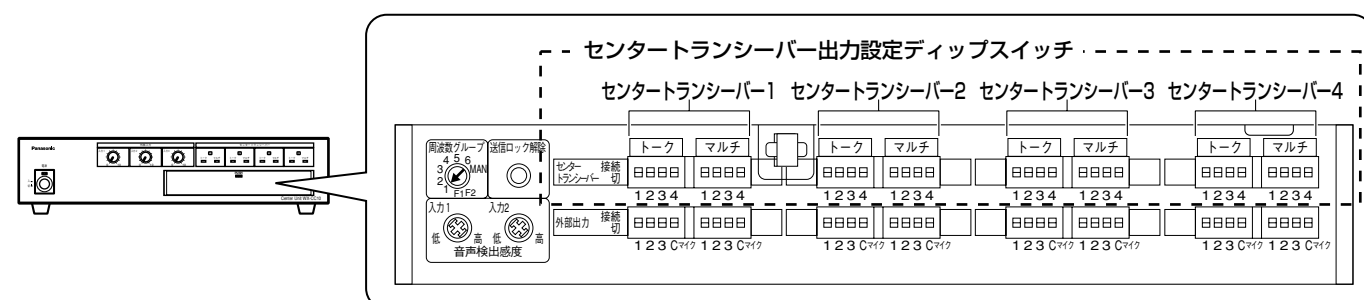
各センタートランシーバーから送られる音声の送信先（センタートランシーバー、外部出力）を設定します。

センタートランシーバーの設定

- 各センタートランシーバー（グループ）に所属するポータブルトランシーバーのトークボタンおよびマルチボタンを操作したときに送られる音声をどのセンタートランシーバーに送信するかを設定します。
- センタートランシーバー出力設定ディップスイッチ（トーク、マルチ）で設定を行います。工場出荷時の設定は全て“切”です。



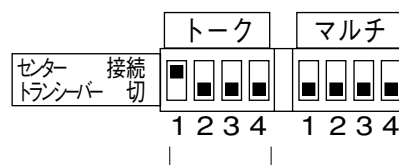
- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



1

トークボタンを操作したときの送信先を設定する

- 例えば、センタートランシーバー1だけでグループにするときは、1番のスイッチを“接続”にします。センタートランシーバー1～4でグループにするときは、1～4のスイッチを“接続”にします。



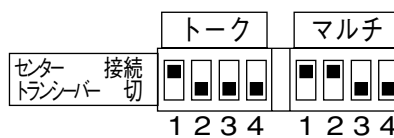
トーク設定スイッチ

- 1番：センタートランシーバー1
- 2番：センタートランシーバー2
- 3番：センタートランシーバー3
- 4番：センタートランシーバー4

2

マルチボタンを操作したときの送信先を設定する

- 例えば、センタートランシーバー1のグループとセンタートランシーバー2のグループに送信するときは、1と2番のスイッチを“接続”にします。全てのセンタートランシーバーに送信するときは1～4のスイッチを“接続”にします。



マルチ設定スイッチ

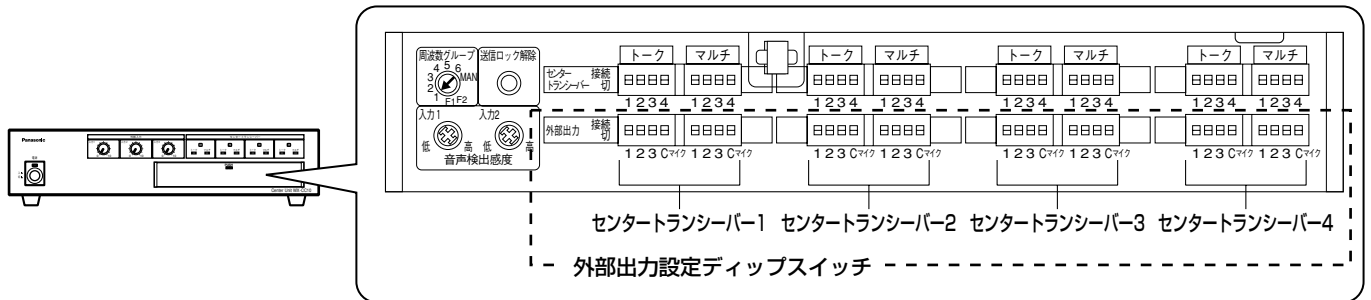
- 1番：センタートランシーバー1
- 2番：センタートランシーバー2
- 3番：センタートランシーバー3
- 4番：センタートランシーバー4



- システム構成により設定内容は異なります。設定の際は、50ページ以降のシステム構成例もお読みください。また、29ページにも簡単な設定例を載せていますのでお読みください。
- 使用しないセンタートランシーバーのディップスイッチは全て“切”にしてください。正常に通信できなくなります。例えば、センタートランシーバー4を接続しない（購入していない）場合、センタートランシーバー4のトーク・マルチディップスイッチ（計8個）とセンタートランシーバー1～3の4番のディップスイッチおよび背面の外部入力1～3の4番のディップスイッチを全て“切”にします。
- センターマイクのグループ設定ディップスイッチは、システム構成に合わせて設定する必要があります。上記のトーク設定スイッチで構成しているグループと合わせて設定してください。詳しくは、センターマイクの取扱説明書をお読みください。

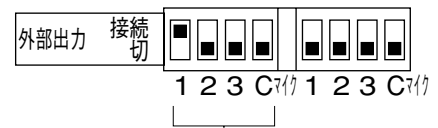
外部出力の設定

- 各センタートランシーバー（グループ）に所属するポータブルトランシーバーのトークボタンおよびマルチボタンを操作したときに送られる音声をどの外部出力およびセンターマイクに出力するかを設定します。
- 外部出力設定ディップスイッチ（トーク、マルチ）で設定を行います。工場出荷時の設定は全て“切”です。



1 トークボタンを操作したときの出力先を設定する

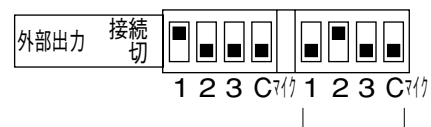
- 例えば、センタートランシーバー1の音声を外部出力1端子に接続した機器へ出力するときは、1番のスイッチを“接続”にします。



- トーク設定スイッチ
- 1番 : 外部出力1端子
 - 2番 : 外部出力2端子
 - 3番 : 外部出力3端子
 - Cマイク : センターマイク

2 マルチボタンを操作したときの出力先を設定する

- 例えば、センタートランシーバー1の音声を外部出力2端子に接続した機器へ出力するときは、2番のスイッチを“接続”にします。



- マルチ設定スイッチ
- 1番 : 外部出力1端子
 - 2番 : 外部出力2端子
 - 3番 : 外部出力3端子
 - Cマイク : センターマイク

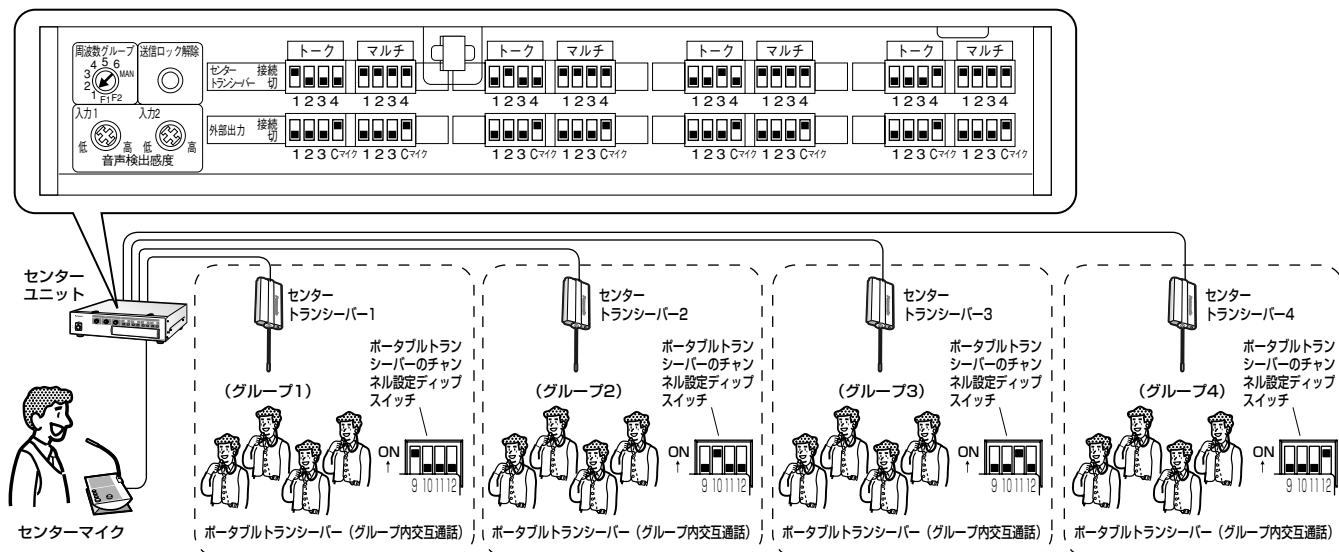


- システム構成により設定内容は異なります。設定の際は、50ページ以降のシステム構成例もお読みください。また、29ページにも簡単な設定例を載せていますのでお読みください。
- センターマイクを使用しない場合は、センターマイクのディップスイッチは全て“切”にしてください。正常に通信できなくなります。
- マルチボタンを“緊急”にして使用するときは、センターマイク（Cマイク）を“接続”にしてください。“切”に設定するとセンターマイクに緊急連絡が行えません。

設定例

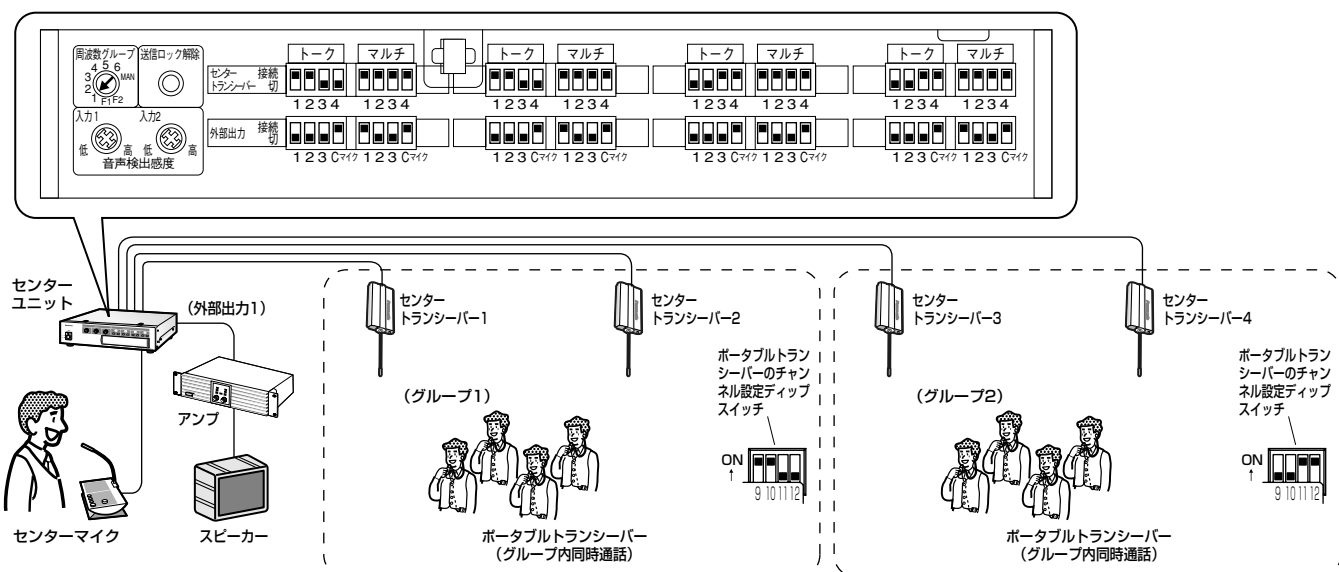
●4グループシステムの設定例

ポータブルトランシーバーのトークボタンおよびマルチボタンの送信先を次のように設定する場合の設定例です。
 トークボタン：所属するグループ内とセンターマイクに音声を送信。（外部出力への出力なし）
 マルチボタン：全てのグループとセンターマイクに音声を送信。（外部出力への出力なし）



●2グループシステム2人同時通話の設定例

ポータブルトランシーバーのトークボタンおよびマルチボタンの送信先を次のように設定する場合の設定例です。
 トークボタン：所属するグループ内とセンターマイクに音声を送信。（外部出力への出力なし）
 マルチボタン：全てのグループとセンターマイクと外部出力1に音声を送信。

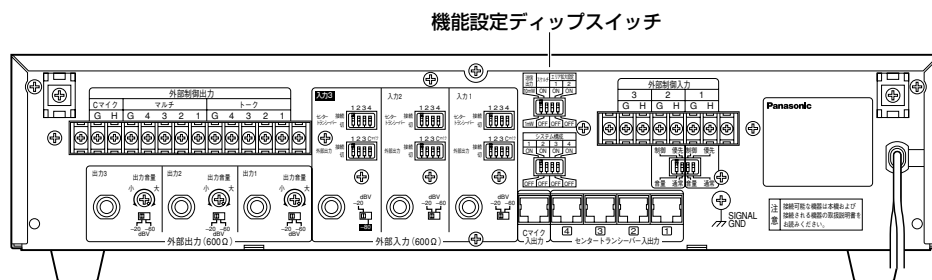


各種機能を設定する

機能設定ディップスイッチで“送信出力設定” “スケルチ設定” “エリア拡大の設定”を行います。



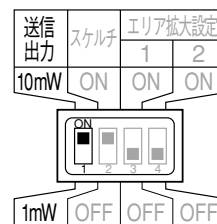
- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



送信出力の設定 機能設定ディップスイッチ「1番」[送信出力]

送信出力 (10 mW / 1 mW) を設定します。

- ON : 10 mW (工場出荷時設定)
- OFF : 1 mW

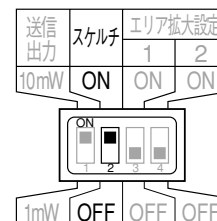


- “10 mW” を使用する場合、法律の規定により、3分間通話をするると自動的に通信を切断し、2秒間通信が禁止されます。
- 本機とポータブルトランシーバーの送信出力設定は同じにしてください。
- 周波数グループ設定ロータリースイッチを“MAN” に設定している場合は、センタートランシーバーとポータブルトランシーバーの送信出力設定は同じにしてください。

スケルチの設定 機能設定ディップスイッチ「2番」[スケルチ]

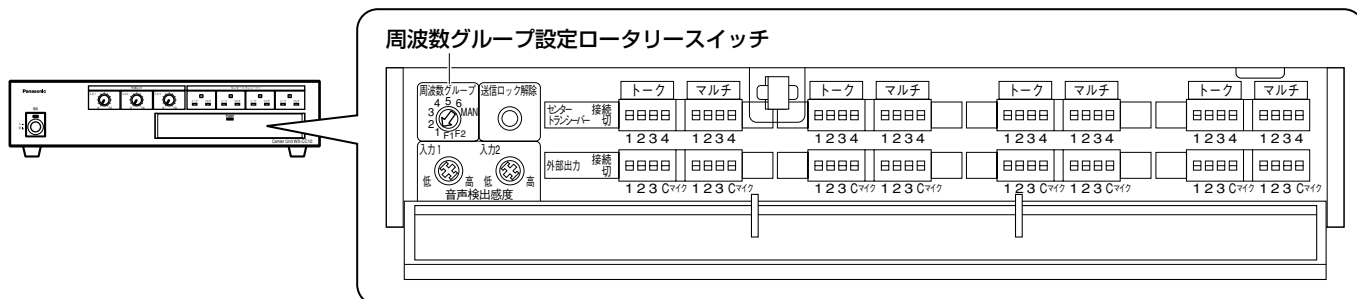
設置時のテストに使用するものです。通常は“ON (有効)” の位置でお使いください。“OFF (無効)” に設定するとチャンネルモニター機能として動作し、通信が行われているか確認できます。

- ON : 有効 (工場出荷時設定)
- OFF : チャンネルモニター機能 (☞ 31 ページ)



●チャンネルモニター機能

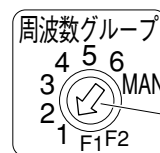
スケルチを“OFF”にして設定した周波数をセンターマイクのスピーカーと外部出力3でモニターすることにより、使用しようとしている周波数に混信がないかどうかをあらかじめ調べることができます。



1

電源スイッチが“切”の状態、周波数を設定する

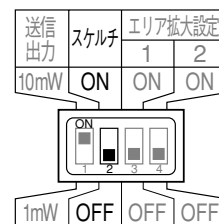
- 周波数グループ設定ロータリースイッチを“1～6”のいずれか、モニターする周波数グループに設定してください。



矢印を“1～6”のいずれかに合わせる

2

機能設定ディップスイッチの2番スイッチを“OFF”にする



3

本機の電源スイッチを“入”にする

- 接続されているセンタートランシーバーのうち、最も若い番号の受信音声、センターマイクのスピーカーと、外部出力3から出力されます。このとき、モニターしているセンタートランシーバーのトーク表示灯とマルチ表示灯が点灯状態になります。
- 複数のセンタートランシーバーが接続されているときは、送信ロック解除ボタンを押す毎に、次のセンタートランシーバーのモニターに変更されます。



4

チャンネルモニター機能を終了する

- 本機の電源スイッチを“切”にして、機能設定ディップスイッチの2番スイッチを“ON”にします。



- センターマイクのスピーカー、センターユニットの外部出力3端子に大きな音が出力されますので、あらかじめセンターマイクのスピーカー音量つまみ、外部出力音量調節ボリューム3を絞ってから行ってください。

エリア拡大の設定

エリア拡大とは、複数のセンタートランシーバーを用いて、1つのグループが通信可能な範囲（広さ）を拡大するシステム構成です。

ここではエリアの区切りかたを指定するための設定について説明します。工場出荷時の設定は“エリア拡大なし”です。

また、下記のイラストはイメージ図です。設置例などは次のページを合わせてお読みください。

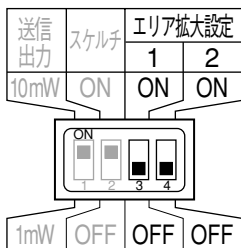
- 設定を始める前に（☞37～40ページ）
- システム構成例（☞50～57ページ）

1 エリア拡大を設定する

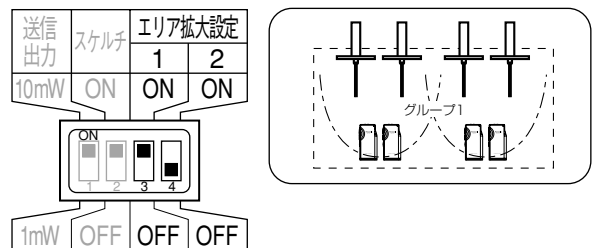
- 機能設定ディップスイッチの3番スイッチ（エリア拡大設定1）、4番スイッチ（エリア拡大設定2）で設定してください。

- 3番OFF、4番OFF：エリア拡大なし
- 3番OFF、4番ON：1グループシステム エリア拡大
- 3番ON、4番OFF：1グループシステム エリア拡大+同時通話
- 3番ON、4番ON：2グループシステム エリア拡大

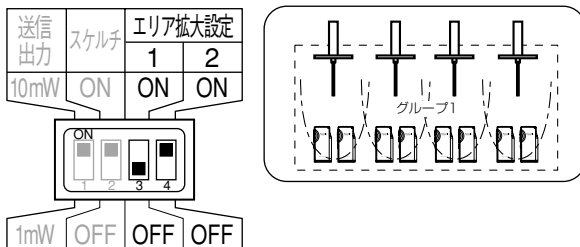
【エリア拡大なし】



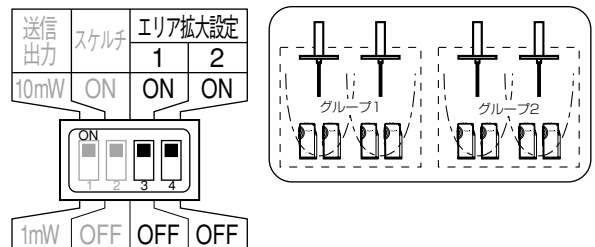
【1グループシステム エリア拡大+同時通話】



【1グループシステム エリア拡大】

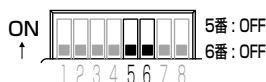


【2グループシステム エリア拡大】

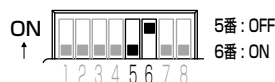


- エリア拡大の設定を行う場合は、ポータブルトランシーバーのエリア拡大の設定も行ってください。WX-CT11Aの場合：機能設定ディップスイッチの5番、6番スイッチで設定を行います（下図参照）。WX-CT12の場合：☞58～69ページ

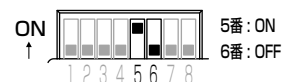
【エリア拡大なし】



【1グループシステム エリア拡大】



【1グループシステム エリア拡大+同時通話】



【2グループシステム エリア拡大】



従来システムとの接続設定をする

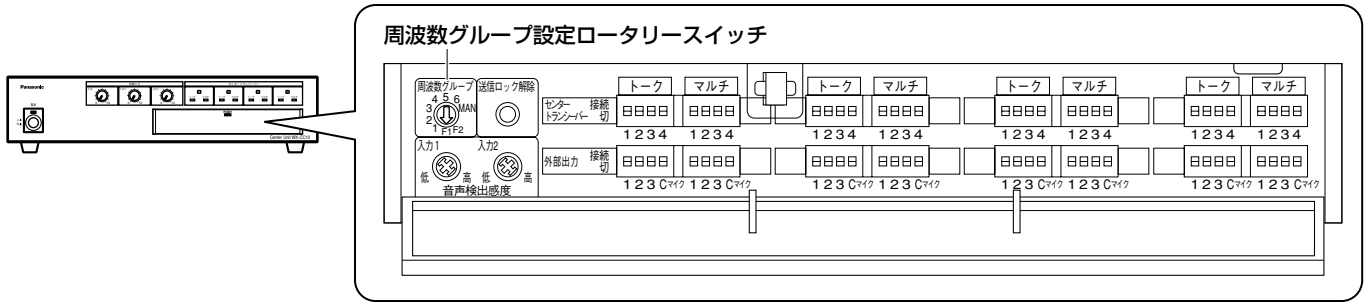
本機と組み合わせるシステムに合わせて設定します（WX-CT11Aのみ）。

従来システム：システム中にWX-C10シリーズ（WX-CC10、WX-CM10、WX-CT10、WX-CT11）がある場合

新システム：システム中の機器が全てWX-C10Aシリーズ（WX-CC10A、WX-CM10A、WX-CT10A、WX-CT11A）の場合（工場出荷時設定）

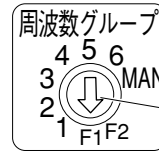


● 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



1

電源スイッチが“切”の状態、周波数グループ設定ロータリースイッチを“F1”に設定する



矢印を“F1”に合わせる

2

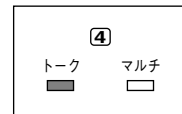
送信ロック解除ボタンを押しながら、電源スイッチを“入”にする



3

設定する

- 送信ロック解除ボタンを押して従来システムを選択してください。押すたびに従来システム→新システム→従来システム→…と切り換わります。
- 設定状態は、トーク表示灯またはマルチ表示灯で確認できます。
 トーク表示灯点灯：新システム
 マルチ表示灯点灯：従来システム



4

電源スイッチを“切”にする



5

周波数を設定する

- 26ページ

従来システムとの接続設定をする（つづき）

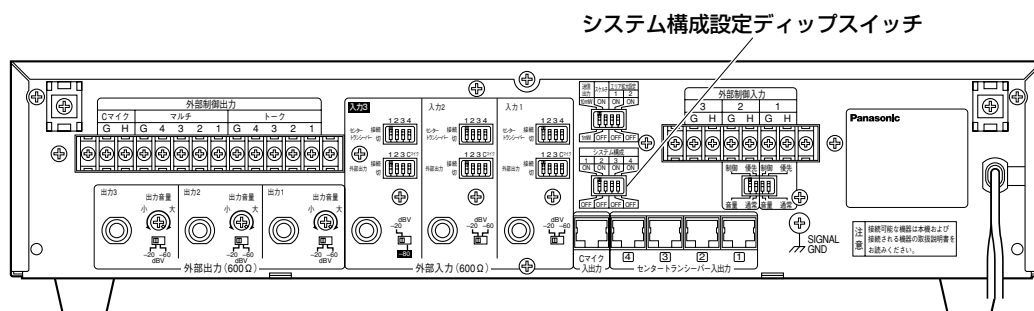


従来システムに対応した設定にした場合、WX-C10シリーズと下記の動作が異なります。

- サブグループの設定が無効になり、サブグループAもサブグループBも、サブグループA+Bで動作しません。
- 同時通話を実施しているとき、最初に通話を開始したユニットが切断しても、後から通話を始めたユニットが通話していれば、通信は切断されません。（WX-CC10シリーズでは、最初に通話を開始したユニットが切断すると、同時通話していたユニットも通信が切断されます）
- 外部出力設定ディップスイッチのいずれのCマイクディップスイッチが“切”になっていても、本機の電源投入時にセンターマイク（WX-CM10、WX-CM10A）が接続されていれば、センターマイクとの通信が可能になります。
- ご使用になるセンタートランシーバー（WX-CT10、WX-CT10A）のセンタートランシーバー出力設定ディップスイッチに対して、そのセンタートランシーバーの番号のディップスイッチを“接続”にしないと、そのセンタートランシーバーのが有効になりません。
- エリア拡大の設定にすると、外部制御入力端子の設定スイッチ（優先／通常）での設定は無効となり、“優先”の動作になります。

システム構成を設定する

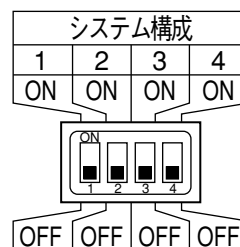
- ワイヤレスインターカムシステムのシステム構成上で、グループの分けかた、同時通話などの設定をします。設定はシステム構成ディップスイッチで行い、工場出荷時の設定は“全てOFF”です。
- この設定は、エリア拡大の設定が行われているときは無効となります。



1

システム構成を設定する

- システム構成ディップスイッチの1～4番は、セントラートランシーバーの1～4を示しています。
- 次ページの設定例を参考に、該当するセントラートランシーバーのスイッチを“ON”に設定してください。



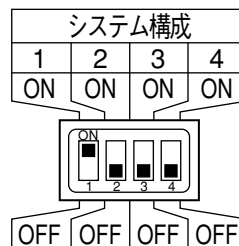
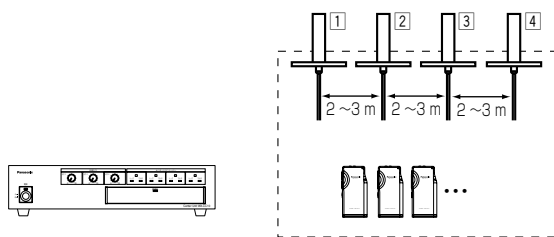
- 次ページのシステム構成設定例を参照ください。また、システム構成例 (P.44ページ) にも記載していますのでお読みください。

システム構成を設定する（つづき）

システム構成設定例

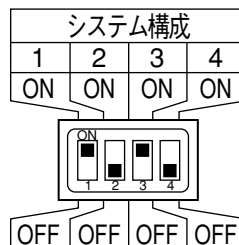
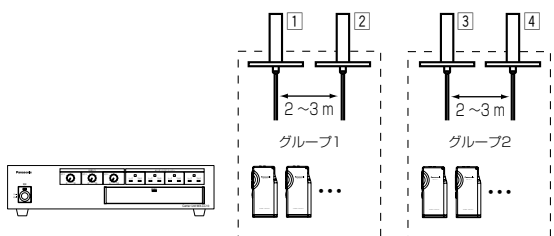
各グループのポータブルトランシーバーが使用する最も若い番号のセントラートランシーバーのディップスイッチを“ON”にします。

●1グループシステムの設定例



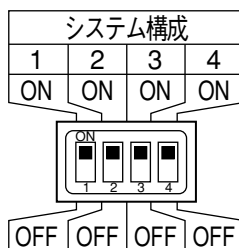
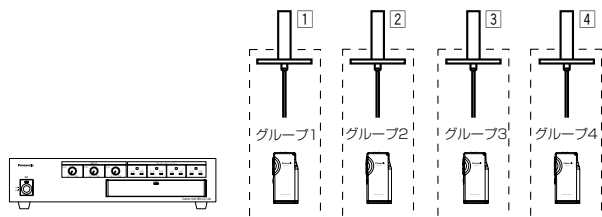
ポータブルトランシーバーは、通常セントラートランシーバー1を使用して電波の送受信を行い、セントラートランシーバー1が使用中のときにセントラートランシーバー2を、同様に若い番号のセントラートランシーバーが使用中のときにセントラートランシーバー3、さらに4を使用するため、本機のシステム構成ディップスイッチの1番を“ON”、2~4番を“OFF”にします。

●2グループシステムの設定例（2人同時通話）



グループ1のポータブルトランシーバーは、通常セントラートランシーバー1を使用して電波の送受信を行い、セントラートランシーバー1が使用中のときに、セントラートランシーバー2を使用するため、本機のシステム構成ディップスイッチの1番を“ON”、2番を“OFF”にします。グループ2も同様に、本機のシステム構成ディップスイッチの3番を“ON”、4番を“OFF”にします。

●4グループシステムの設定例



各グループのポータブルトランシーバーは、各々のセントラートランシーバーを使用するため、本機のシステム構成ディップスイッチを全て“ON”にします。

設置を始める前に



警告

工事は必ず販売店に依頼してください。

工事を行う前に、本機に電源を供給する機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。接続する機器の取扱説明書も合わせてお読みください。

設置上のお願ひ

●以下の場所には設置しないでください

- ①直射日光の当たる場所
- ②振動の多い場所や衝撃が加わる場所
- ③スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- ④結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿気）の多い場所
- ⑤厨房など蒸気や油分の多い場所
- ⑥傾斜のある場所

●雑音源を避けてください

電灯線など雑音源にケーブルを近づけると、ノイズが発生する場合があります。そのときは雑音源からできるだけ離すように配線する、または本機の位置を変えてください。

●横置き（水平）に設置してください

縦置きや傾けて設置しないでください。故障の原因となります。

●ラックに取り付けるときは

- 本機をラックに取り付ける場合は、必ずEIA規格相当のラック（奥行き450 mm以上）をご使用ください。
- ラック内の温度が+45℃以上にならないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。
- 本機は、できるだけラック下側に取り付けてください。詳しくは、41ページをお読みください。

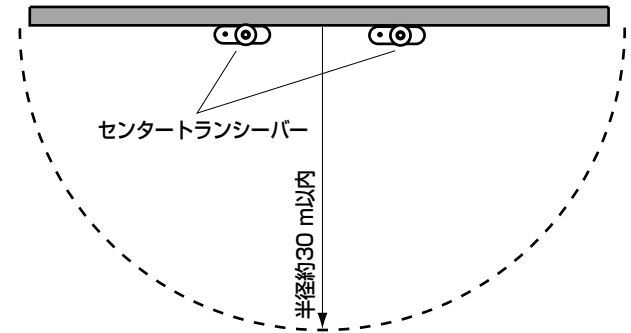
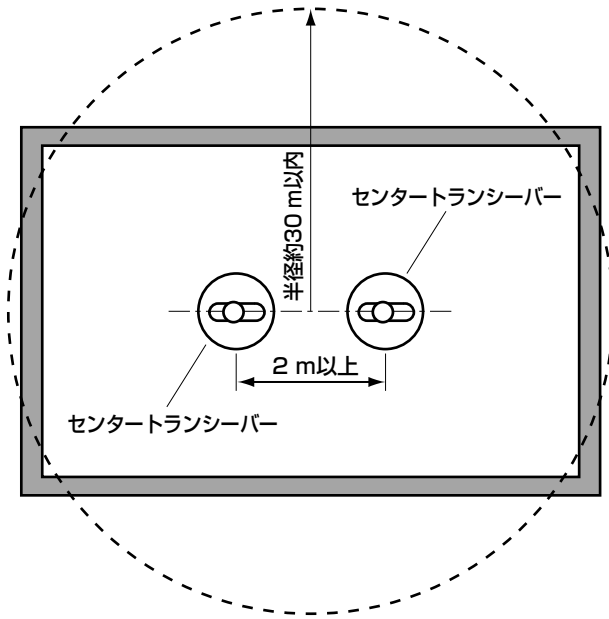
設置を始める前に（つづき）

●エリア（通信可能範囲）について

センタートランシーバー1台の通信可能範囲は、センタートランシーバーから半径約30 mです（送信出力10 mW時）。（ただし、設置環境により変わります）

●天井に取り付ける場合（天井から見た図）

●壁に取り付ける場合（天井から見た図）



●センタートランシーバーの取付位置について

- 複数のセンタートランシーバーを設置するときは、間隔を2 m以上空けてください。2 m以内に設置すると、相互の電波が干渉して、混信の原因になります。
- 天井高が低い場合や使用場所の環境により、到達距離が短くなる場合があります。センタートランシーバーは、できるだけ見通しの良い場所に設定してください。
- センターユニットからセンタートランシーバーまでのケーブルの長さは300 m以内にしてください。また、ケーブルの長さが100 m以上の場合は、ACアダプター（別途調達）を接続してください。
推奨LANケーブル：LD-CT10シリーズ相当（ELECOM製）
推奨ACアダプター：RP-AC61B（パナソニック株式会社製）、DC6 V（400 mA）
- 次のような場所の近くには設置しないでください。誤動作やノイズの影響を受ける可能性があります。また、エリアが狭くなる恐れがあります。
 - ・水銀灯やネオン灯など、放電を伴う機器の近く
 - ・空気清浄機やエアコンなど、ノイズを発生する機器の近く
 - ・天井、壁、床下に配線されたノイズを発生するケーブルの近く

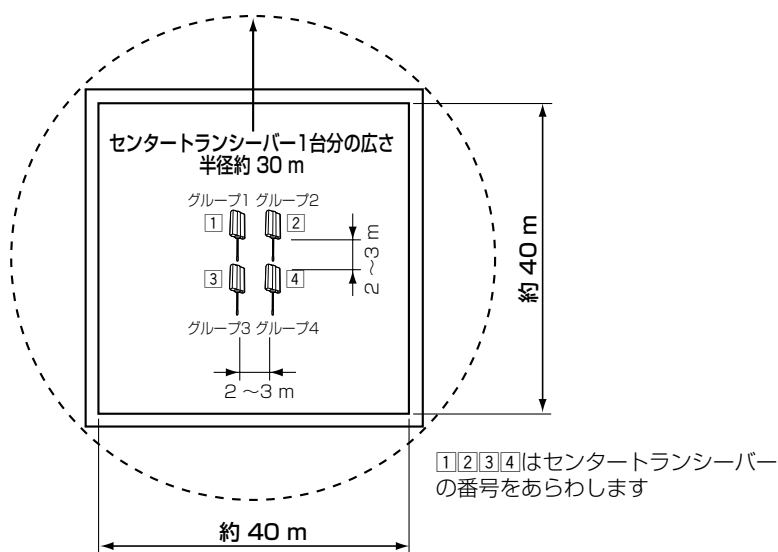
設置例

ワイヤレスインターカムシステムの設置例とシステム構成例です。システム構成については設定が必要となりますので、システム構成例以降のページをお読みのうえ、使用環境に合わせて設定してください。

●センタートランシーバー1台毎に1グループを構成する場合



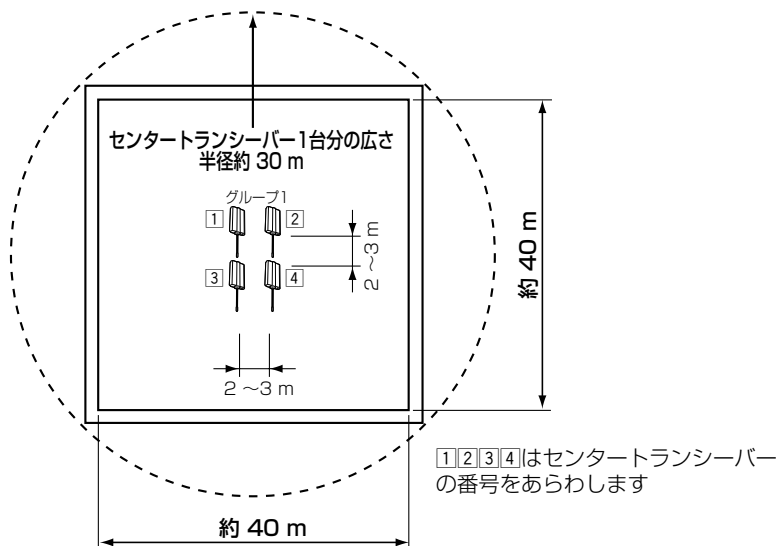
- グループとは、ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。下図は、4つのグループを同一エリアで運用する設置例です（※設定例は50～51ページ）。
- 各グループのセンタートランシーバー間は、2 m～3 mにしてください（室内40 m×40 mの場合）。



●ポータブルトランシーバー間で同時通話システムを構成する場合



- グループとは、ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。下図は、1つのグループに4台のセンタートランシーバーを使うことで、4台のポータブルトランシーバーまで同時に通話できる設置例です（設定例は52～53ページ）。
- グループ内のセンタートランシーバー間は、2 m～3 mにしてください（室内40 m×40 mの場合）。

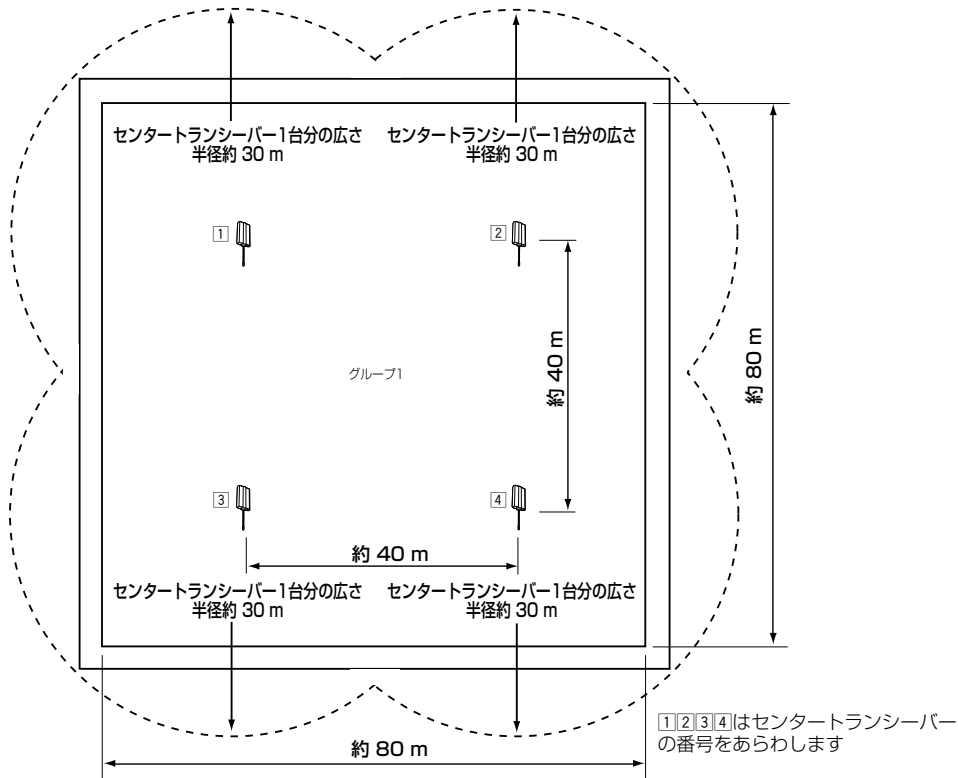


設置を始める前に（つづき）

●エリア拡大（エリアを拡大するシステムを構成する場合）



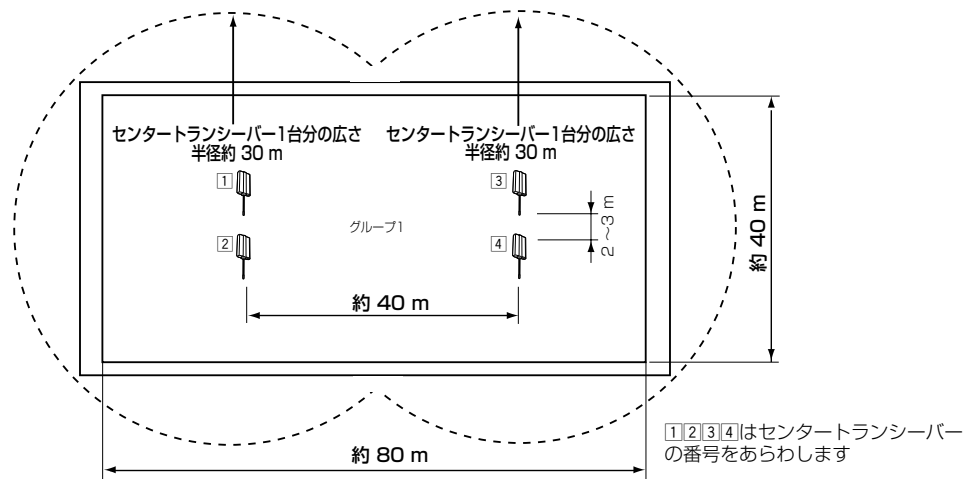
- エリア拡大とは、複数のセントラートランシーバーを用いて1つのグループが通話可能な範囲（広さ）を拡大することをあらわします。グループとは、ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。下図は、1つのグループに4台のセントラートランシーバーを使うことで、エリアを拡大する設置例です（設定例は※54～55ページ）。
- グループ内のセントラートランシーバー間は、約40 m以内にしてください（室内80 m×80 mの場合）。



●エリア拡大+同時通話（エリアの拡大とポータブルトランシーバーの同時通話を実現するシステムを構成する場合）



- エリア拡大とは、複数のセントラートランシーバーを用いて1つのグループが通話可能な範囲（広さ）を拡大することをあらわします。グループとは、ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。下図は、1つのグループに4台のセントラートランシーバーを使うことで、エリアの拡大と、ポータブルトランシーバーの同時通話で運用する設置例です（設定例は※56～57ページ）。
- グループ内のセントラートランシーバー間は、約40 m（エリア拡大）と、2 m～3 m（同時通話）にしてください（室内80 m×40 mの場合）。



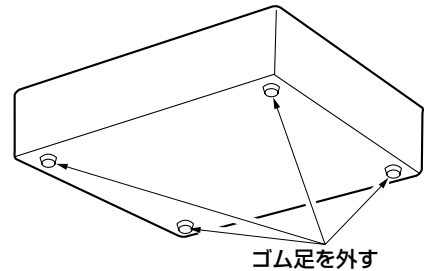
設置のしかた

ラックへの取り付けかた

付属のラックマウント金具、ラックマウント金具取付ねじとラック取付ねじを使用して、EIA規格相当（EIA19型、奥行き450 mm以上）のラックに取り付けます。

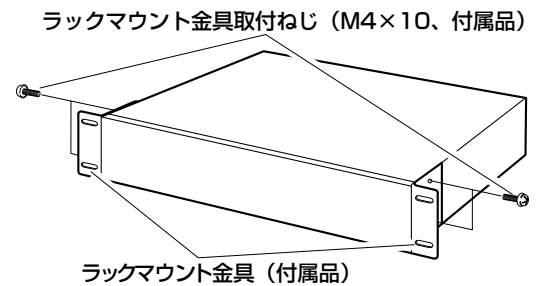
1 底面のゴム足を外す

- マイナスドライバーで、ゴム足を固定しているねじを外してください。



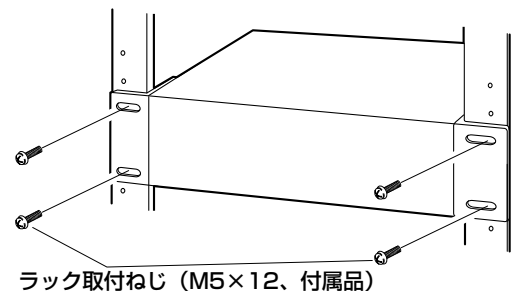
2 本機の両側面にラックマウント金具を取り付ける

- ラックマウント金具取付ねじ（4本）で確実に固定してください。
- 本機両側面にねじ隠しラベル（4ヶ所）が貼ってある場合は、はがしてから取り付けてください。



3 本機をラックに取り付ける

- ラック取付ねじ（4本）で確実に固定してください。

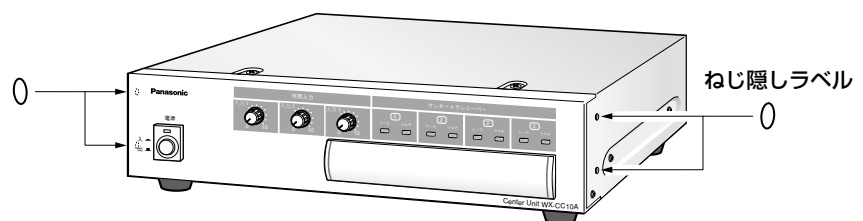


重要

- ラック内の温度は、45℃以上にならないようにしてください。
- パワーアンプなど発熱量の多い機器と一緒に取り付けるときは、1U以上の間隔をあけて、本機を下側に取り付けてください。

据置型として使用する場合

本機両側面のねじ部4か所に、付属のねじ隠しラベルを貼り付けてください。



接続のしかた

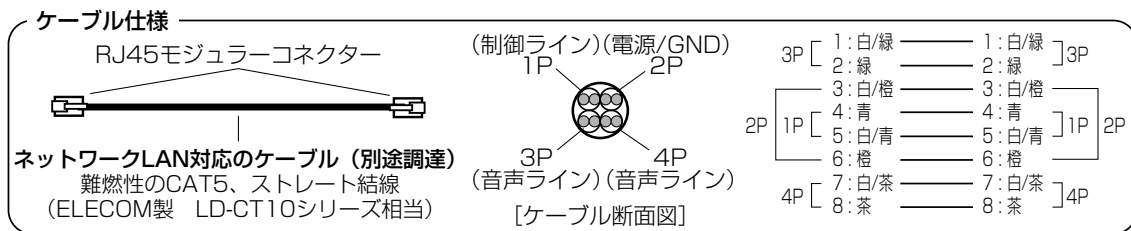
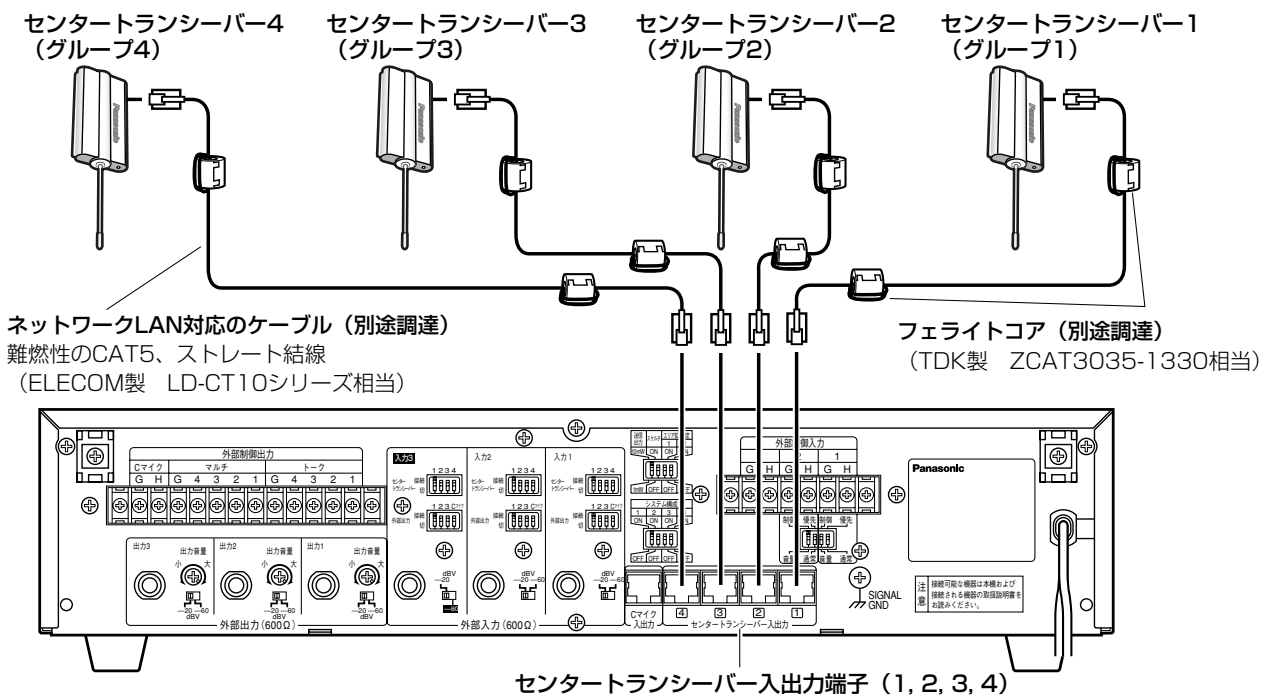
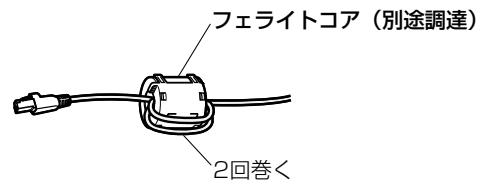
センタートランシーバーを接続する

- センタートランシーバーは4台まで接続できます。
- ケーブルは付属していません。

難燃性のCAT5、ストレート結線のネットワークLAN対応のケーブル（ELECOM製 LD-CT10シリーズ相当）を別途ご用意ください。ケーブル長は100 m以内にしてください。（ACアダプター接続時は300 m以内まで延長できます）

- ノイズの強い環境下などでは、ケーブルの両端にフェライトコア（別途調達）を2回程度巻くことをお奨めします。

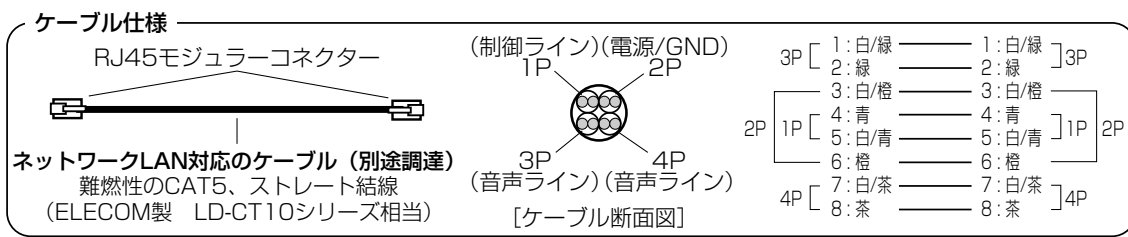
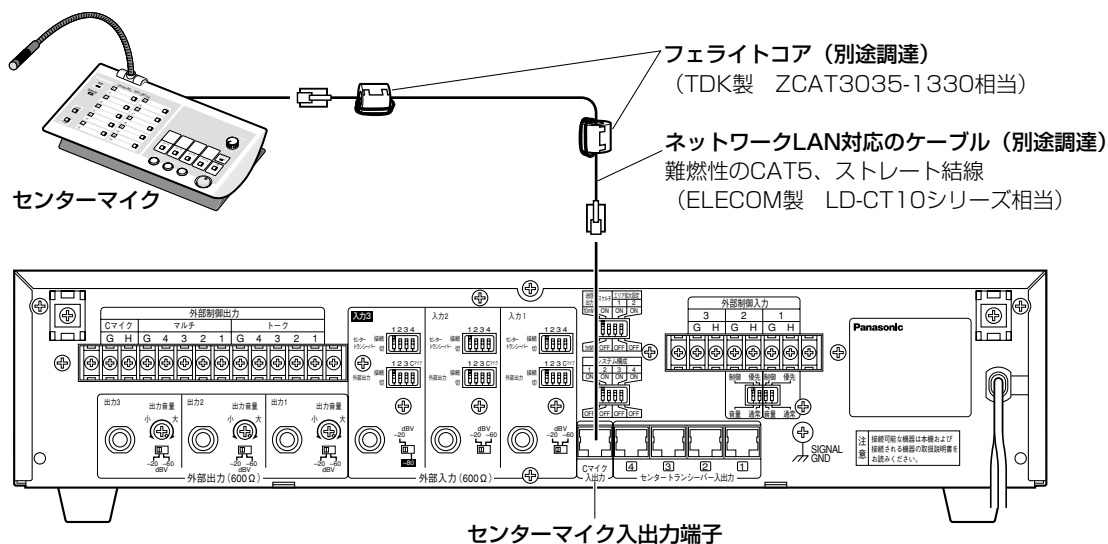
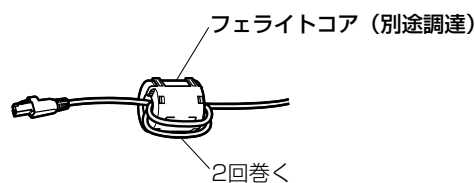
推奨フェライトコア：ZCAT3035-1330（TDK製）



センターマイクを接続する

- ケーブルは付属していません。
難燃性のCAT5、ストレート結線のネットワークLAN対応のケーブル（ELECOM製 LD-CT10シリーズ相当）を別途ご用意ください。ケーブル長は50 m以内にしてください。（ACアダプター接続時は150 mまで延長できます）
- ノイズの強い環境下などでは、ケーブルの両端にフェライトコア（別途調達）を2回程度巻くことをお勧めします。

推奨フェライトコア：ZCAT3035-1330（TDK製）

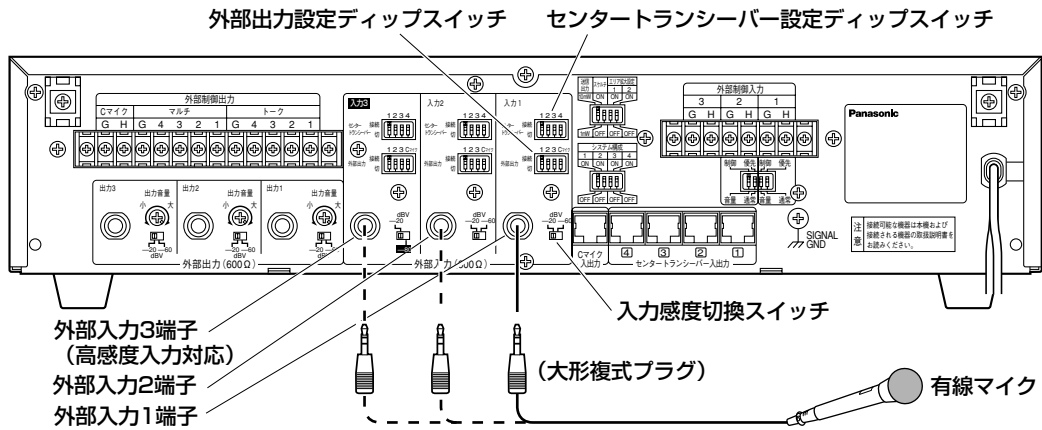


外部入力を接続する

- 外部入力端子1～3に有線マイクやCDプレーヤーなどを接続できます。
外部入力3端子のみ高感度入力“-80 dBV”に対応しています。
- 接続した機器の音声出力先をディップスイッチで設定します。また外部制御入力端子にて、入力した音声の送信開始方法（外部制御／音声検出）を設定できます。(P.46ページ。外部入力3端子は外部制御のみです。)



● 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



設置・工事

1

外部入力機器を接続する

- 有線マイクやCDプレーヤーなどを接続します。

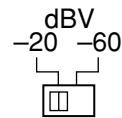
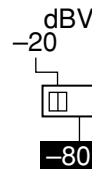
2

入力感度を設定する

- 接続する機器に合わせ、入力感度設定スイッチ（-20 dBV / -60 dBV / -80 dBV）を切り換えてください。
工場出荷時の設定は“-20 dBV”です。
- 音量は、前面パネルの外部入力1,2,3音量調節つまみで調節します。

(外部3入力端子)

(外部1,2入力端子)



-20 dBV : CDプレーヤーなど
-80 dBV : 有線マイク

-20 dBV : CDプレーヤーなど
-60 dBV : 有線マイク

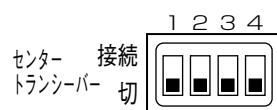


3 接続した機器の音声出力先を設定する (センタートランシーバー)

- センタートランシーバー設定ディップスイッチで出力先のセンタートランシーバーを設定します。

接続：音声をグループに所属するポータブルトランシーバーへ出力します。

切：音声は出力しません。



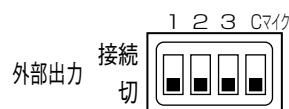
- 1番：センタートランシーバー-1
- 2番：センタートランシーバー-2
- 3番：センタートランシーバー-3
- 4番：センタートランシーバー-4

4 接続した機器の音声出力先を設定する (外部出力)

- 外部出力設定ディップスイッチで外部出力先を設定します。

接続：音声を外部出力端子に接続した機器およびセンターマイクへ出力します。

切：音声は出力しません。



- 1番：外部出力1端子
- 2番：外部出力2端子
- 3番：外部出力3端子
- Cマイク：センターマイク

外部入力を使用する

●送信開始方法の設定

外部制御入力端子のホット（H）とグラウンド（G）をメイク（制御）して送信開始、または外部入力の音声を検出（音量）して送信開始の選択を行います（外部制御入力端子3は制御のみ）。

制御：端子間がメイクされると、外部入力の音声を出力先（☞44ページ）に送信を開始します（工場出荷時設定）。

音量：外部入力の音声を検出すると送信を開始します。

●外部通話状態の設定

外部入力が入力された場合のポータブルトランシーバー間の通話状態を設定します。

優先：外部入力の音声が優先されるため、ポータブルトランシーバー間の会話は聞こえなくなります（工場出荷時設定）。

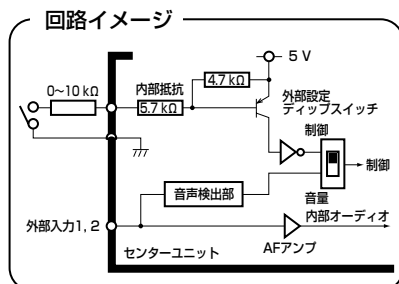
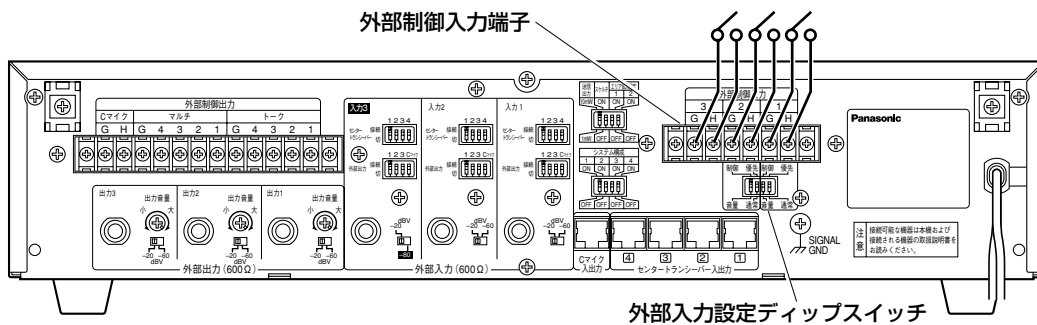
通常：ポータブルトランシーバー間の会話に外部入力の音声をミキシングするため、両方の音声が聞こえます。



●設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



●外部入力からポータブルトランシーバーに送信できるようになるまでの時間は、0.5秒～2秒程度かかります。外部制御に設定しているときは、制御信号は出力音声までの余裕を持たせてください。音声検出に設定しているときは、出力音声の最初にコールサインを流すなどして出だしの音声が途切れることのないようにしてください。

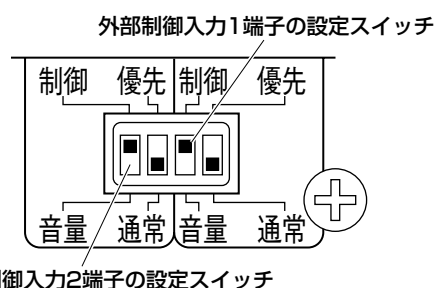


●外部制御の場合

1

外部入力の送信開始方法を設定する

- 外部入力設定ディップスイッチを“制御”に設定します。



外部制御入力2端子の設定スイッチ

2

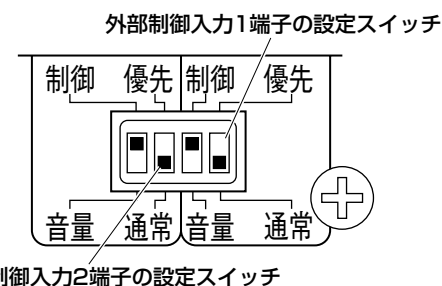
外部制御入力端子を接続する

- 外部制御を行う場合は、前ページ図のように外部制御入力1, 2, 3端子のH（ホット）とG（グラウンド）にそれぞれ接続します。

3

外部入力音声を送信したときの通話状態を設定する

- 外部入力設定ディップスイッチを“優先”または“通常”のいずれかに設定します。
- エリア拡大の設定の場合は、本ディップスイッチでの設定は無効となり、“優先”の動作になります。



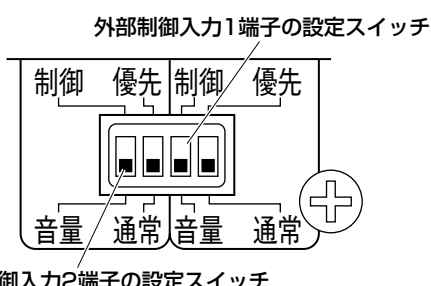
外部制御入力2端子の設定スイッチ

●音声検出の場合

1

外部入力の送信開始方法を設定する

- 外部入力設定ディップスイッチを“音声”に設定します。

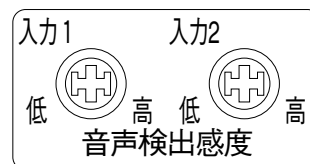


外部制御入力2端子の設定スイッチ

2

音声検出感度を設定する

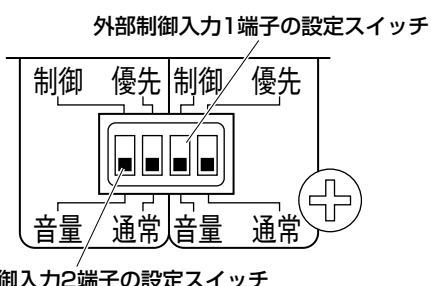
- 前面パネルの設定部内にある音声検出感度ボリュームで調整します。工場出荷時は“中”に設定されています。



3

外部入力音声を送信したときの通話状態を設定する

- 外部入力設定ディップスイッチを“優先”または“通常”のいずれかに設定します。
- エリア拡大の設定の場合は、本ディップスイッチでの設定は無効となり、“優先”の動作になります。



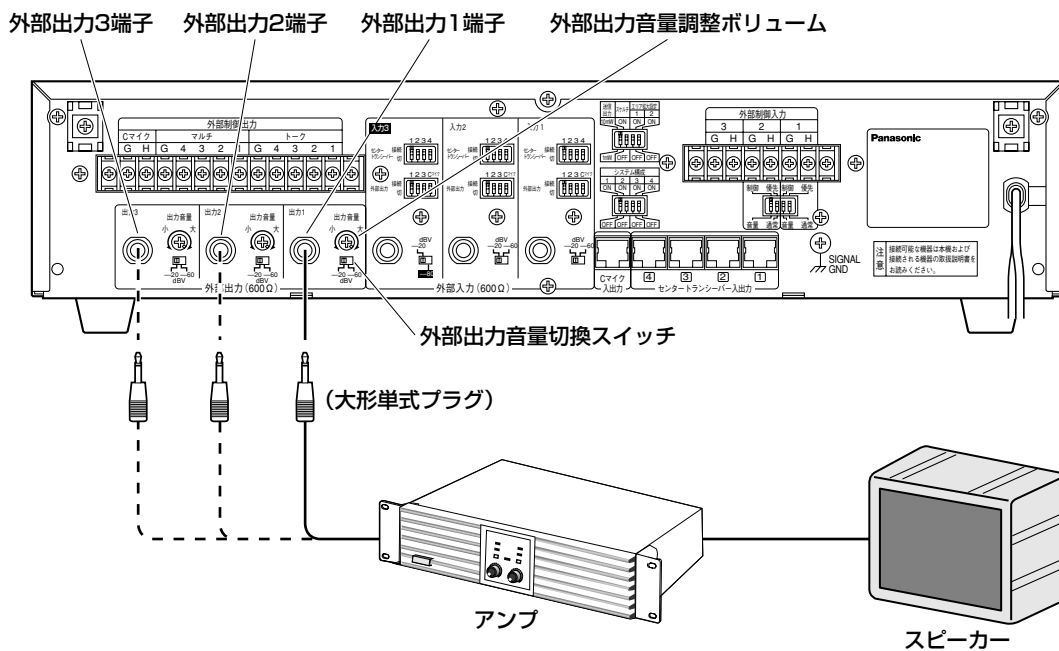
外部制御入力2端子の設定スイッチ

スピーカーを接続する (外部出力)

- 外部出力1～3にアンプを接続します。用途に合わせ“事務所用”“1Fフロア用”“2Fフロア用”のように外部出力端子1～3を使い分けると便利です。
- 前面パネルのディップスイッチ設定により、ポータブルトランシーバーの会話内容を外部出力1～3に接続したアンプへ出力することができます (☞28ページ)。また、背面の外部出力設定ディップスイッチにより、外部入力を各外部出力へ出力することができます (☞44ページ)。



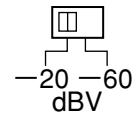
● 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。



1 アンプ、スピーカーを接続する

2 外部出力の音量を設定する

- 接続する機器に合わせ、外部出力音量設定スイッチ (−20 dBV / −60 dBV) を切り換えてください。
- 工場出荷時の設定は“−20 dBV”です。



−20 dBV : アンプなどのライン入力へ接続する場合
−60 dBV : アンプなどのマイク入力へ接続する場合

3 音量を調整する

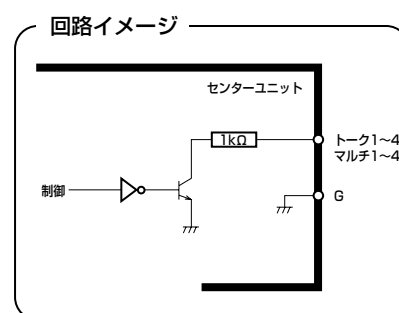
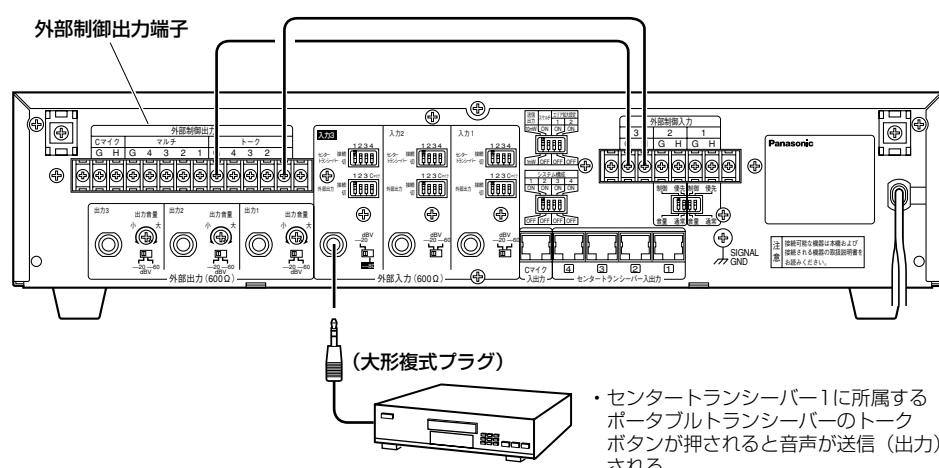
- 外部出力音量調整ボリュームを回して、出力する音量を調整します。
- 調整の際は、付属の小型ドライバーをお使いください。
- 工場出荷時の設定は“小”です。



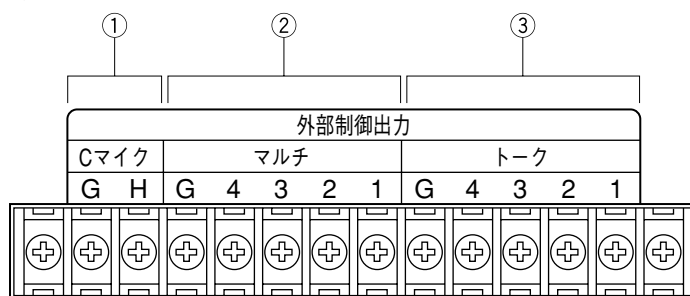
外部制御出力を使用する

- センターマイクおよびポータブルトランシーバーにより、外部入力 of 音声を制御するときの接続です。例えば、ポータブルトランシーバーのトークボタンON/OFFで外部入力に接続した機器の音声をON/OFFさせることができます。
- 下記接続例は、センタートランシーバー1に所属するポータブルトランシーバーのトークボタンを押したときに、外部入力3端子に接続した機器の音声をセンタートランシーバーおよび外部出力の設定先へ送信（出力）させる場合です。

- 重要**
- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。
 - センターマイクから本機の外部制御出力を使用すると、センターマイクの音声は、外部出力3に反映されます。



外部制御出力端子について



- ① **センターマイク外部制御出力端子**
センターマイクの外部出力3ボタンを押して、送信状態になったときにメイク出力する接点端子です。
- ② **マルチボタン外部制御出力端子**
ポータブルトランシーバーのマルチボタンを押して、送信状態になったときにメイク出力する接点端子です。端子番号1, 2, 3, 4はセンタートランシーバー1, 2, 3, 4を示しています。
- ③ **トークボタン外部制御出力端子**
ポータブルトランシーバーのトークボタンを押して、送信状態になったときにメイク出力する接点端子です。端子番号1, 2, 3, 4はセンタートランシーバー1, 2, 3, 4を示しています。

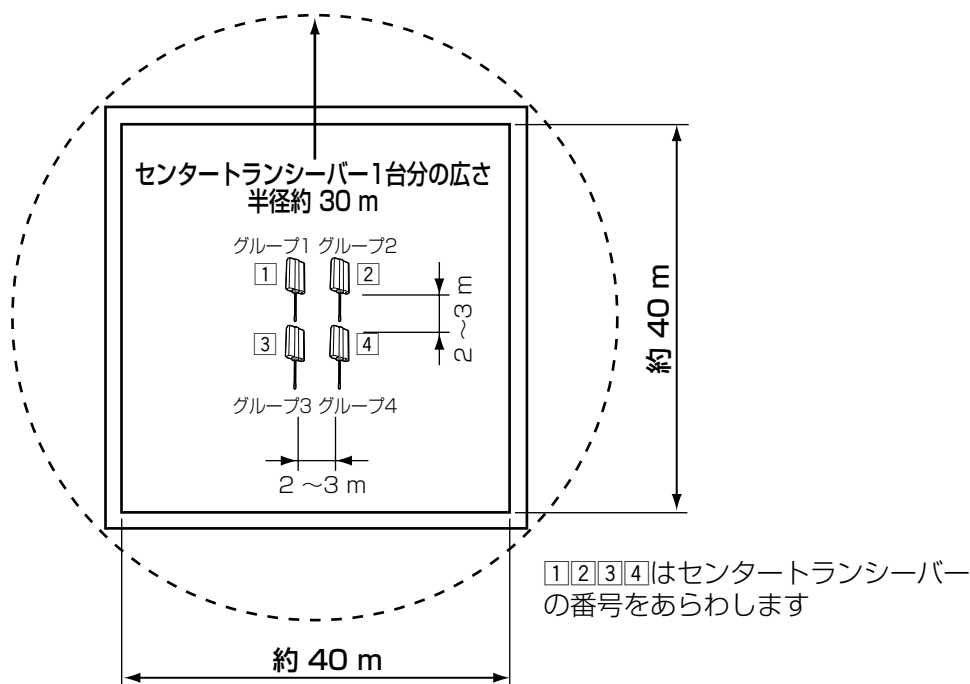


- 外部制御出力端子の最大定格（プルアップ電圧）は、電圧7 V以内にしてください。

システム構成例

●センタートランシーバー1台毎に1グループを構成する場合

- センタートランシーバーの数により、1～4グループまで構成できます。
- ポータブルトランシーバー間は、交互通話になります。
- 1グループのエリアは、センタートランシーバー1台分の広さになります。
- ポータブルトランシーバーの使用台数に制限はありません。



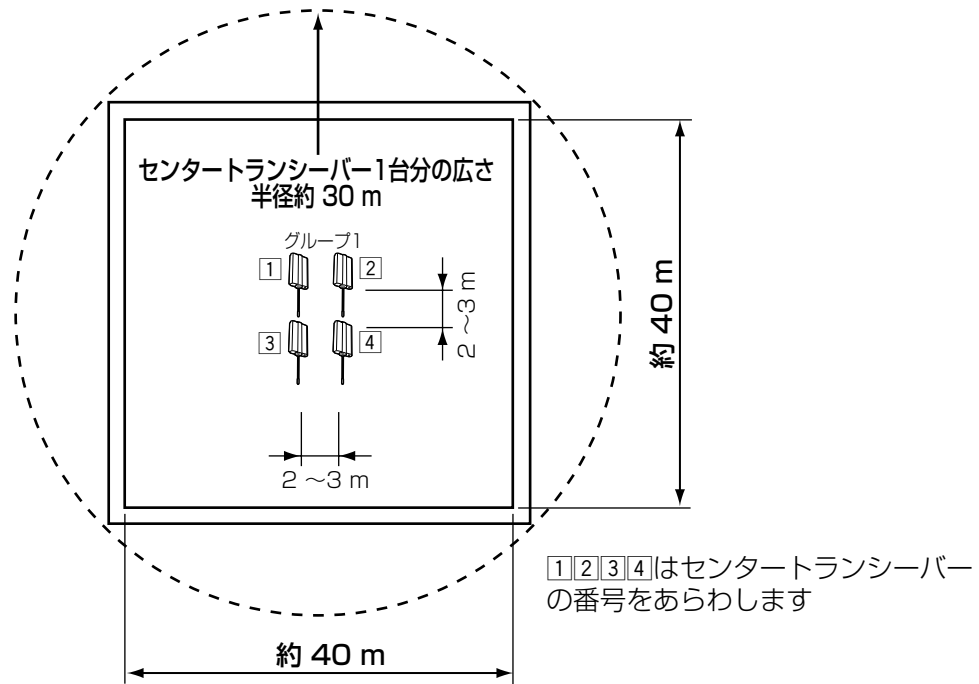
下記構成例での設定のしかたを右ページに説明します。

	構成例	説明
グループ数など	4グループのシステム	グループとは、ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。右ページ例では、4つのグループを同一エリアで運用する場合を示します。 センターユニットのシステム構成ディップスイッチは、接続しているセンタートランシーバーに対応しているディップスイッチを“ON”にします。
センターマイク	有	センターユニットで、トークボタン、マルチボタンの送信先としてセンターマイクを選択します。 センターマイクで、グループ選択ボタンの送信先として、各グループ選択ボタンごとに、各々のセンタートランシーバーを選択します。
トークボタン	グループ内通話	センターユニットで、トークボタンの送信先として各グループのセンタートランシーバーを選択します。
マルチボタン	全グループへの一斉通話	センターユニットで、マルチボタンの送信先として各グループのセンタートランシーバーを選択します。

システム構成例（つづき）

●ポータブルトランシーバー間で同時通話システムを構成する場合

- センタートランシーバーの数により、1～4台までポータブルトランシーバー間の同時通話が可能になります。
- エリアは、センタートランシーバー1台分の広さになります。
- ポータブルトランシーバーの使用台数に制限はありません。

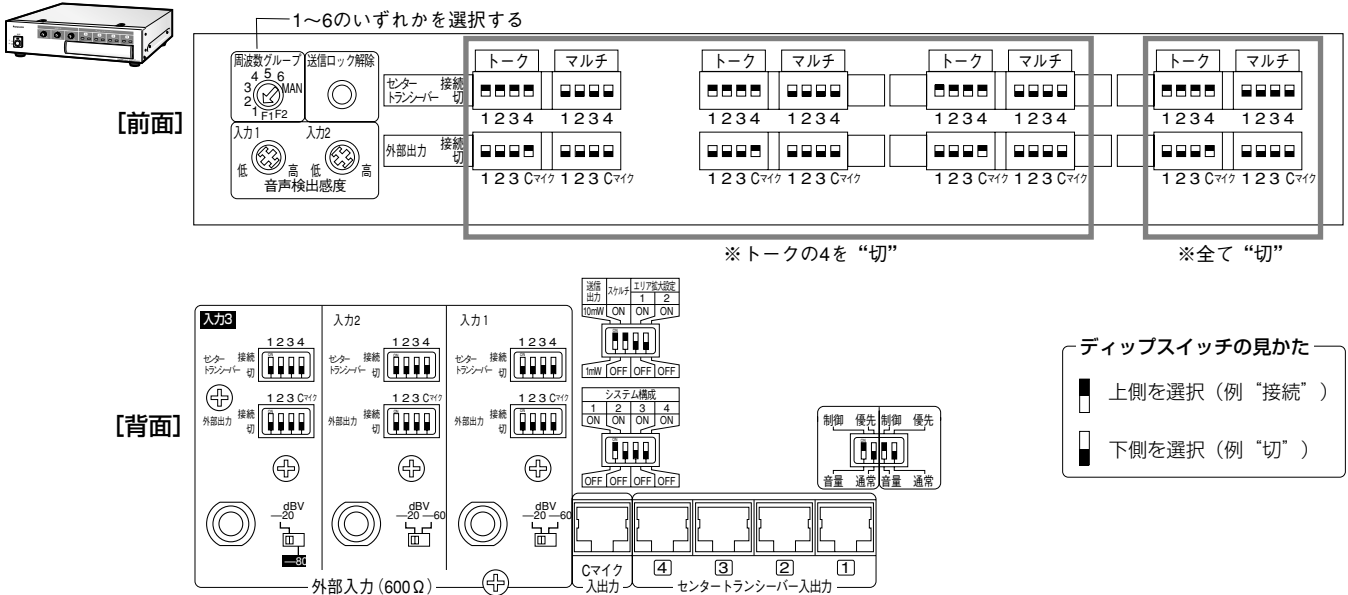


下記構成例での設定のしかたを右ページに説明します。

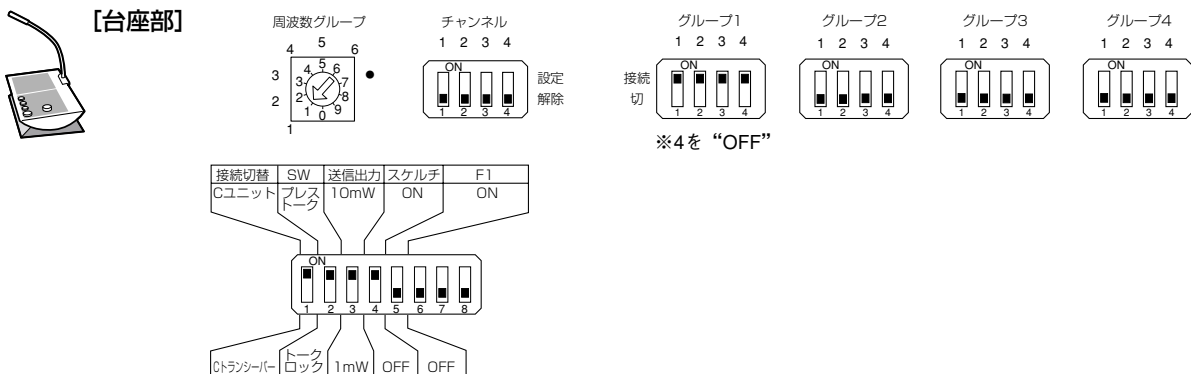
構成例		説明
グループ数など	1グループ4人同時通話のシステム	グループとは、ポータブルトランシーバーを業務単位で区切った集まりをあらわします。右ページ例では、1つのグループに4台のセンタートランシーバーを使うことで、4台のポータブルトランシーバーまで同時に通話できる場合を示します。センターユニットのシステム構成ディップスイッチは、1番のディップスイッチを“ON”に、2～4番を“OFF”にします。
センターマイク	有	センターユニットで、トークボタンの送信先としてセンターマイクを選択します。センターマイクで、グループ選択ボタンの送信先として、グループ1のボタンに全てのセンタートランシーバーを選択し、グループ2～4を全て“OFF”にします。
トークボタン	使用する	センターユニットで、トークボタンの送信先として全てのセンタートランシーバーを選択します。
マルチボタン	使用しない	センターユニットで、マルチボタンの送信先を全て“OFF”にします。

左ページ構成例の場合の設定例です。※は応用例としてセンタートランシーバー3台で3人同時通話システムにする場合の設定。

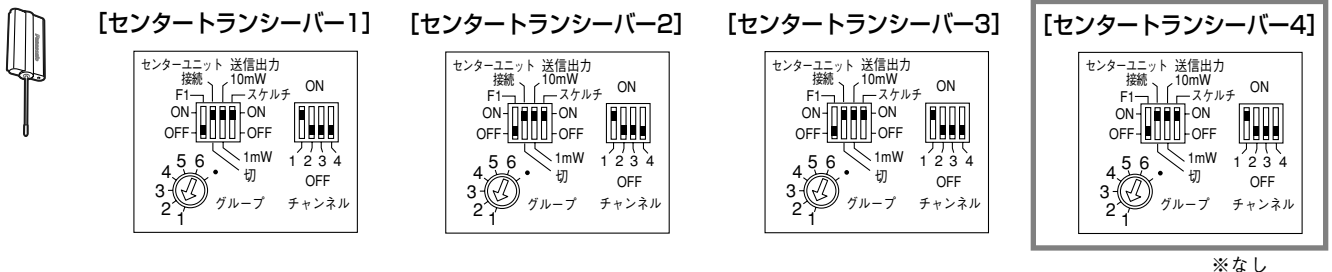
センターユニットの設定



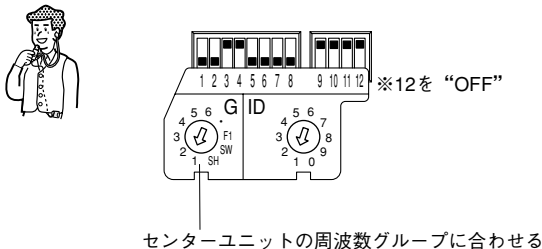
センターマイクの設定



センタートランシーバーの設定



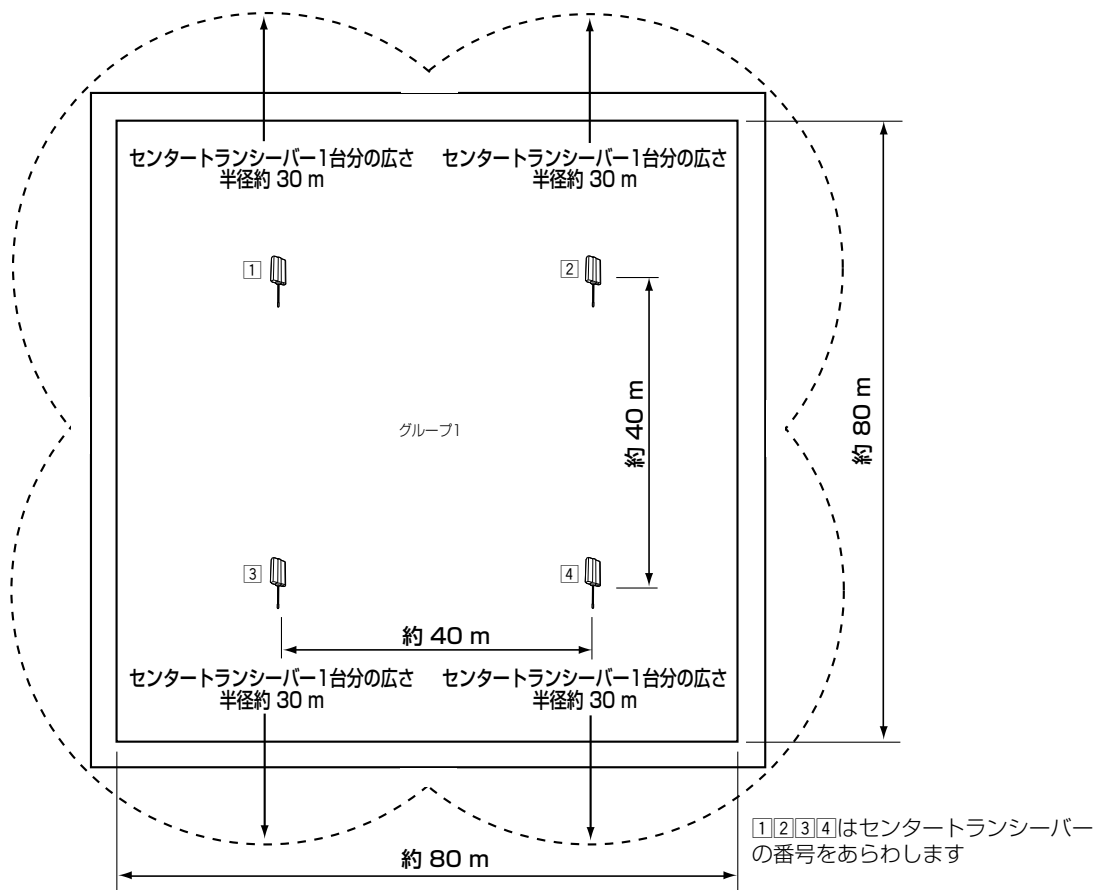
ポータブルトランシーバーの設定



システム構成例（つづき）

●エリア拡大を構成する場合

- センタートランシーバーの数（3～4台）に従ってエリアの拡大が可能になります。
- 外部入力・センターマイク⇄ポータブルトランシーバー間およびポータブルトランシーバー間、交互通話になります。
- エリアは、センタートランシーバーの台数分の広さになります。
- ポータブルトランシーバーの使用台数に制限はありません。

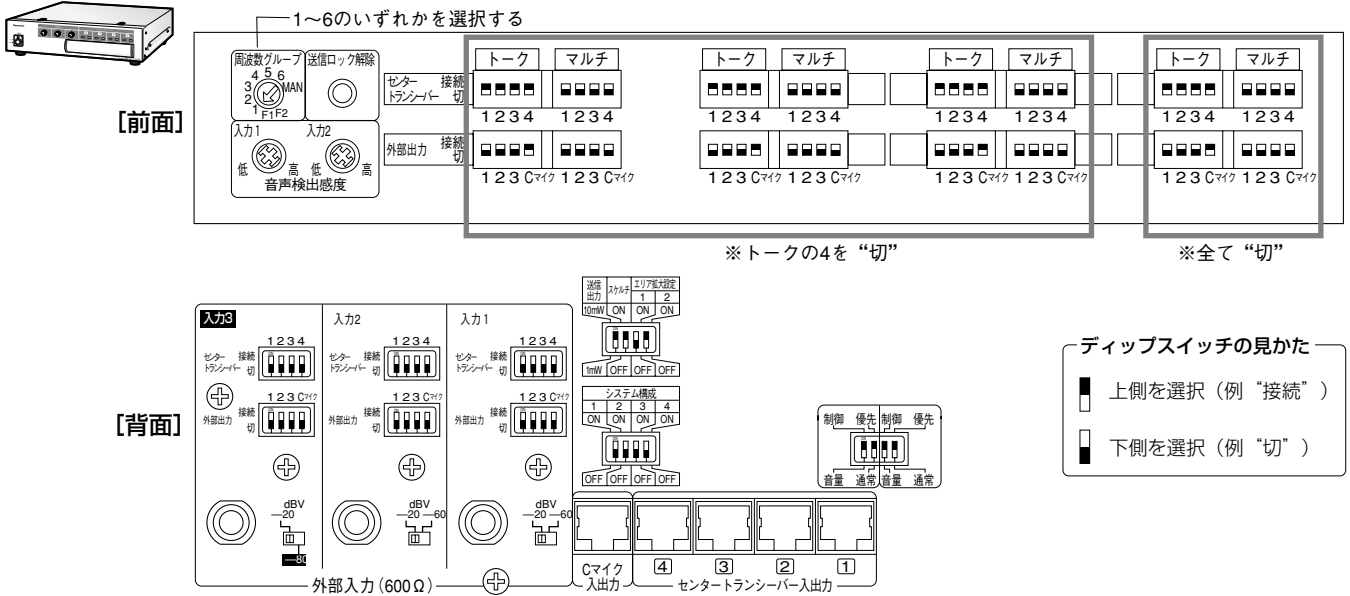


下記構成例での設定のしかたを右ページに説明します。

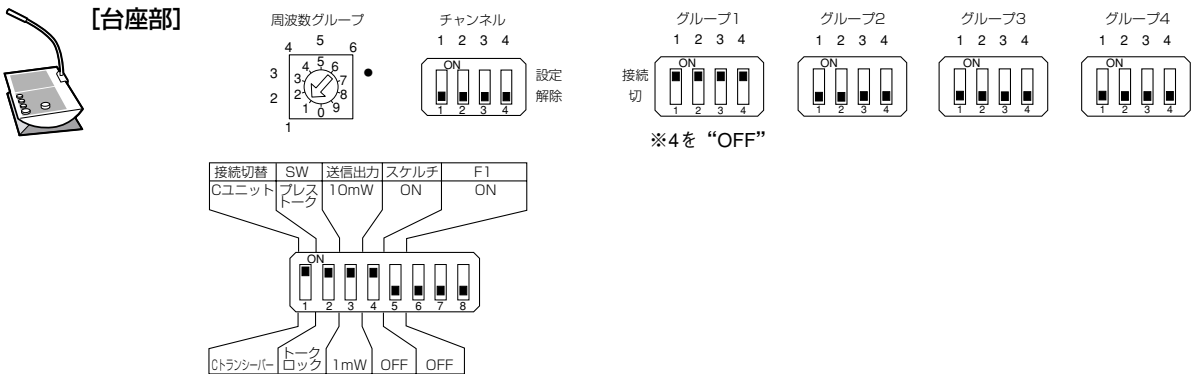
構成例	説明
グループ数など	1グループで4台のセンタートランシーバーを使ったエリア拡大のシステム
センターマイク	有
トークボタン	使用する
マルチボタン	使用しない

左ページ構成例の場合の設定例です。※は応用例としてセンタートランシーバー3台でのエリア拡大をする場合の設定。

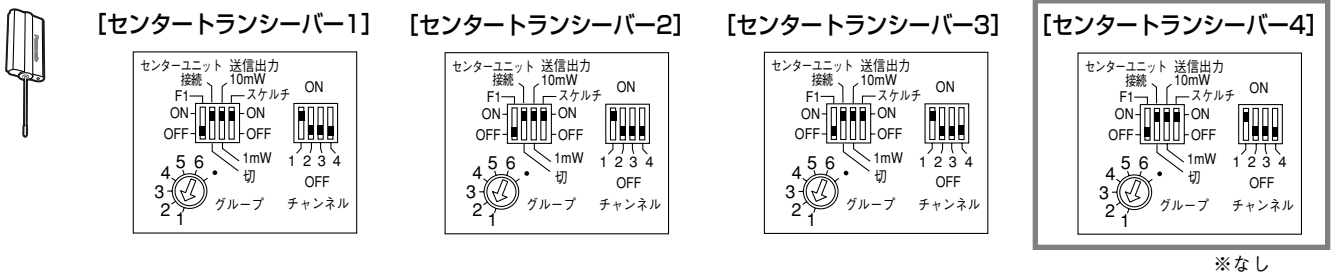
センターユニットの設定



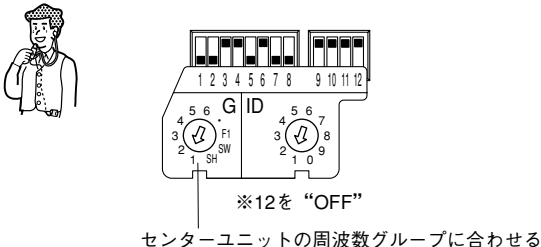
センターマイクの設定



センタートランシーバーの設定



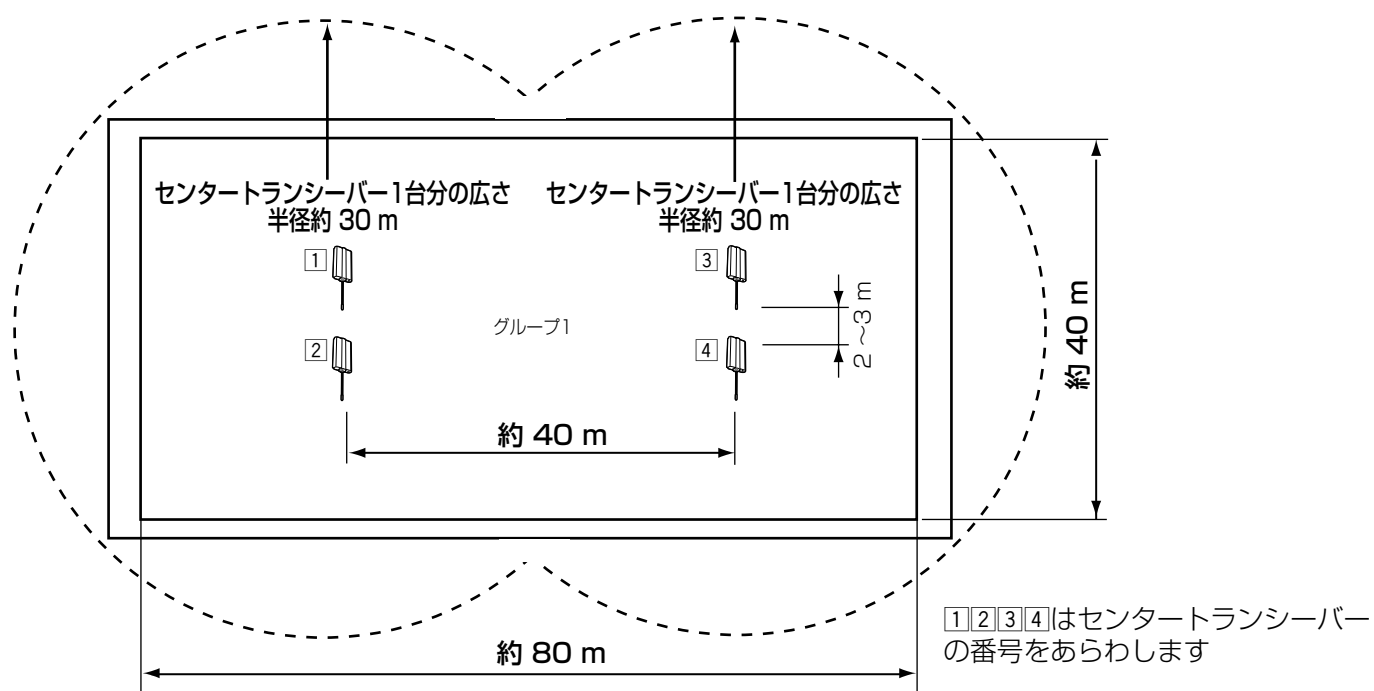
ポータブルトランシーバーの設定



システム構成例（つづき）

●エリア拡大+同時通話（エリア拡大とポータブルトランシーバーの同時通話を 実現するシステム）を構成する場合

- 外部入力・センターマイクが第一話者の場合は、ポータブルトランシーバーは、一人まで通話可能になります。
- エリアは、センタートランシーバー2台分の広さになります。
- センタートランシーバーは4台必要です。
- ポータブルトランシーバーの使用台数に制限はありません。

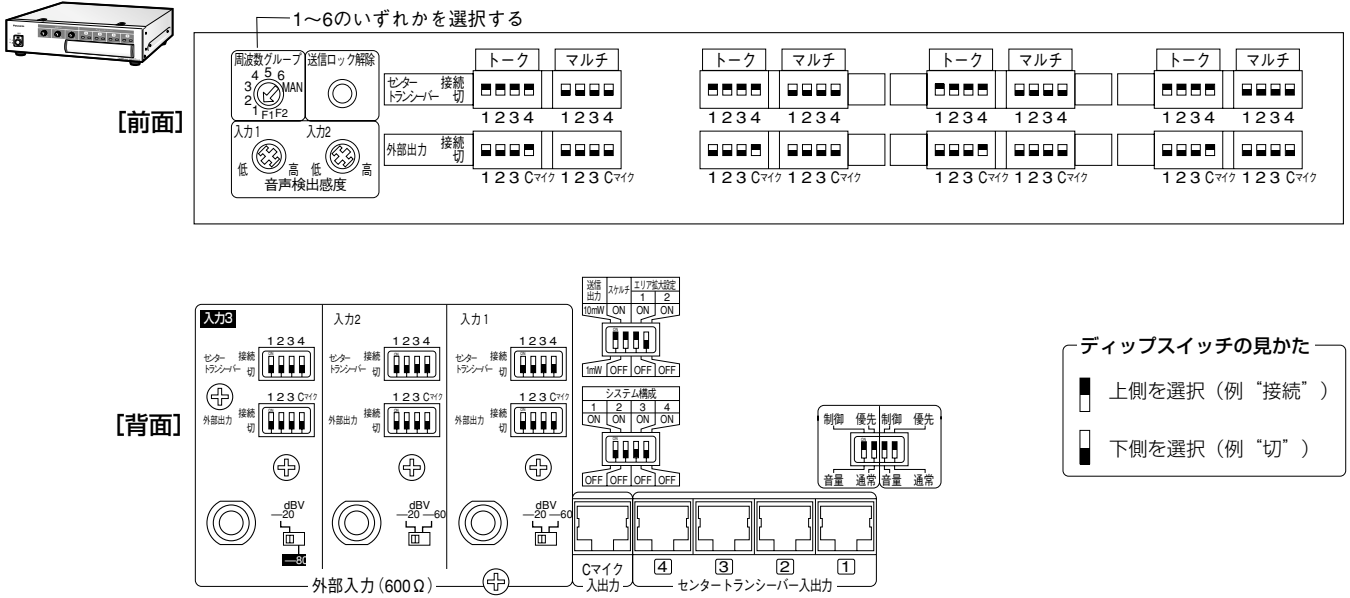


下記構成例での設定のしかたを右ページに説明します。

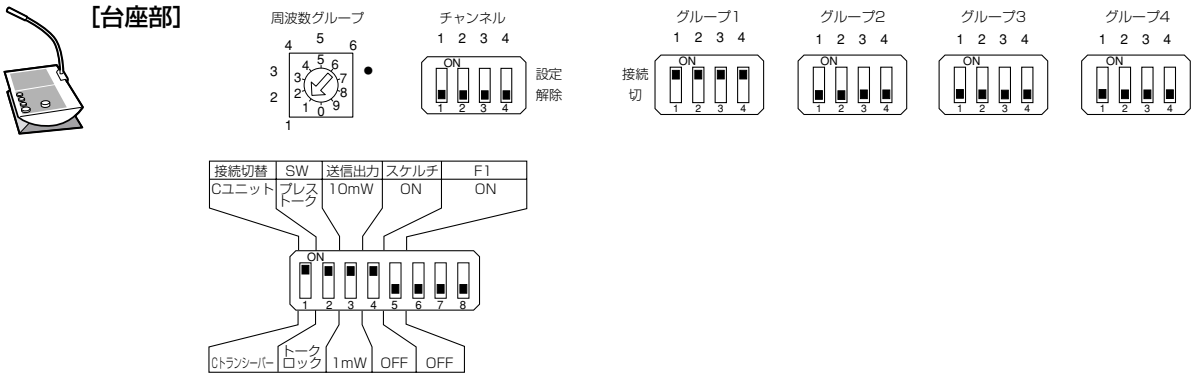
構成例	説明
グループ数など	1グループで4台のセンタートランシーバーを使ったエリア拡大と同時通話のシステム
センターマイク	有
トークボタン	使用する
マルチボタン	使用しない

左ページ構成例の場合の設定例です。

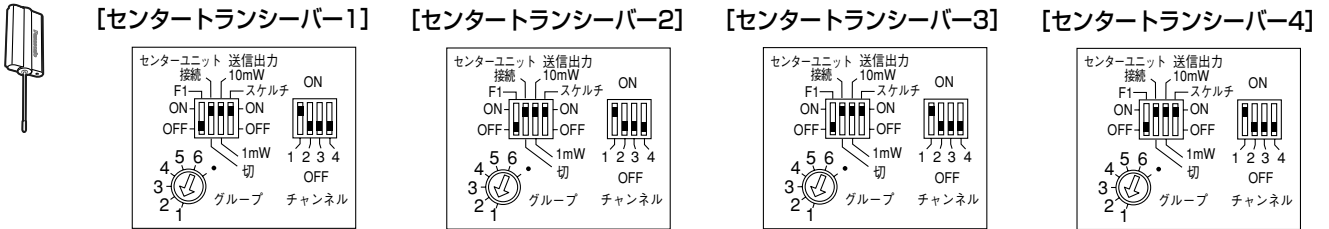
センターユニットの設定



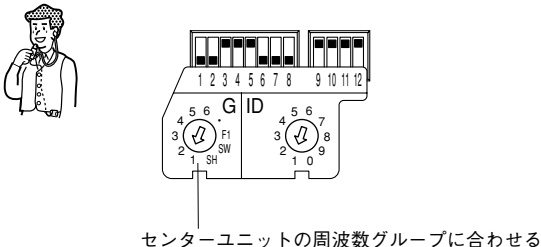
センターマイクの設定



センタートランスミッターの設定



ポータブルトランスミッターの設定



カスケードシステムについて

本機を2台または3台接続して下記の設定を行うと、エリア拡大よりさらに広いエリアで運用することができます。ポータブルトランシーバーはWX-CT12が必要です（WX-CT11Aは、カスケードシステムでのご使用はできません）。また、従来システム（WX-C10シリーズ）との接続では、カスケードシステムでのご使用はできません。

- 設定のしかた ❷ 下記参照
- センタートランシーバー8台で1グループを構成する場合 ❷ 59～63ページ
- センタートランシーバー12台で1グループを構成する場合 ❷ 64～69ページ

●カスケードシステムの設定しかた



- 設定後または変更後は、必ず電源を再投入してください。再投入しないと、設定が反映されません。

1

電源スイッチが“切”の状態、周波数グループ設定ロータリースイッチを“F2”に設定する



矢印を“F2”に合わせる

2

送信ロック解除ボタンを押しながら、電源スイッチを“入”にする



3

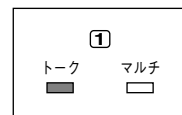
設定する

- 送信ロック解除ボタンを押してカスケードシステムを選択してください。押すたびにカスケードシステム→通常システム→カスケードシステム→…と切り換わります。

- 設定状態は、トーク表示灯またはマルチ表示灯で確認できます。

トーク表示灯点灯：通常システム
（工場出荷時設定）

マルチ表示灯点灯：カスケードシステム



4

電源スイッチを“切”にする



5

周波数を設定する

- 1台目、2台目、3台目を順に1、3、5または2、4、6に設定します。



1,3,5または2,4,6に合わせる

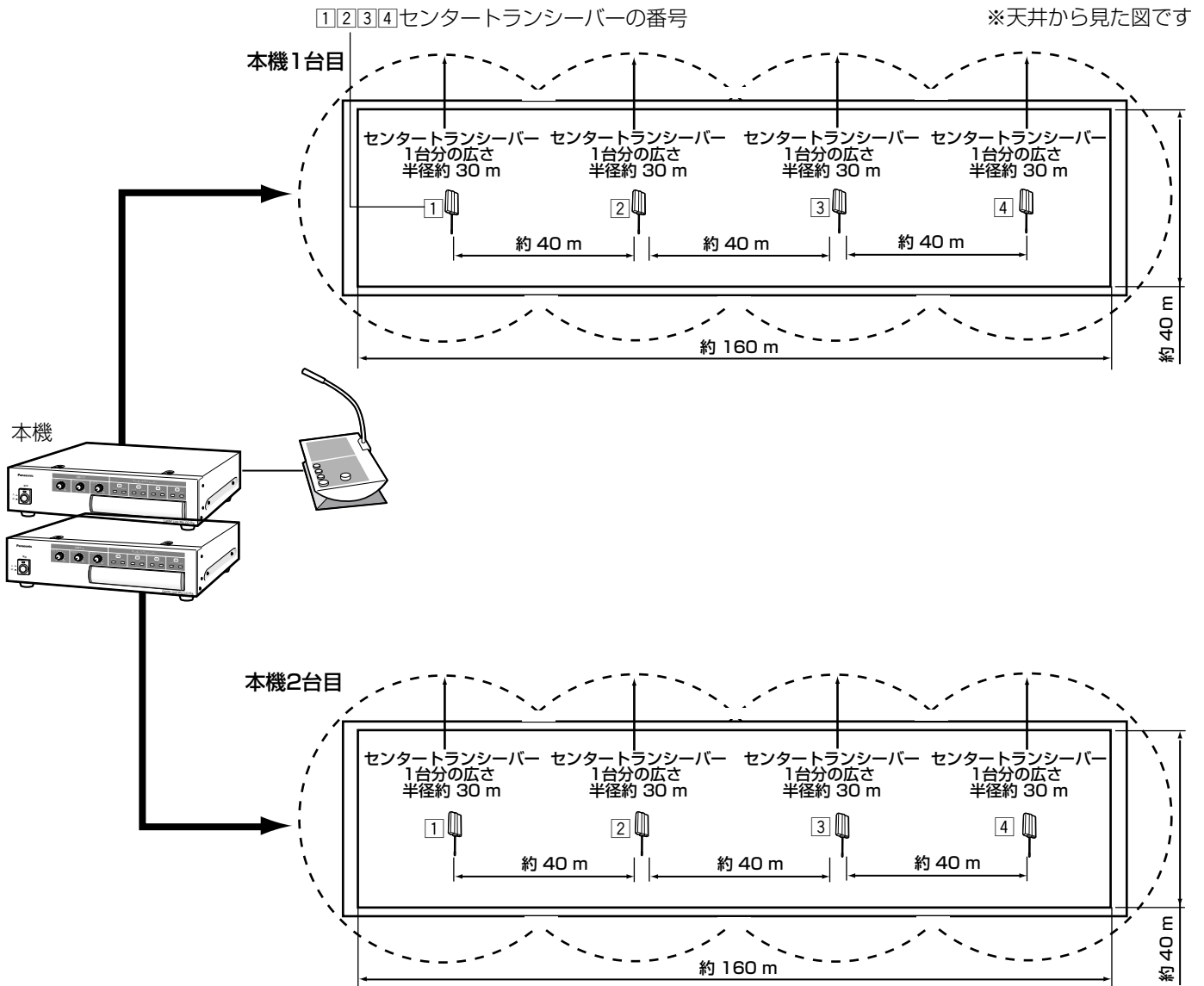
●センタートランシーバー8台で1グループを構成する場合 [広範囲設置]

- 各センターユニットでのセンタートランシーバー間は、約40 mにしてください（室内160 m×40 mの場合）。
- センターマイクの接続は1台のみです。接続する場合は、本機の1台目に接続してください。

●周波数グループの設定

周波数グループ設定ロータリースイッチは、次の2通りの組み合わせのいずれかを選択してください（※26ページ）。

- 本機1台目：“1”、本機2台目：“5”
- 本機1台目：“2”、本機2台目：“4”
- 通話するグループは1グループです。ポータブルトランシーバーからの通話先は、全てのポータブルトランシーバーおよびセンターマイクになります。
 - センターマイクで通話する場合 ※15ページ



カスケードシステム（つづき）

●センターランシーバ8台で1グループを構成する場合 [多層設置]

- 多層設置する場合は、センターランシーバの並び順を下図のように階ごとにかえてください。
- 各センターユニットでのセンターランシーバ間は、約40 mにしてください（室内160 m×40 mの場合）。
- センターマイクの接続は1台のみです。接続する場合は、本機の1台目に接続してください。

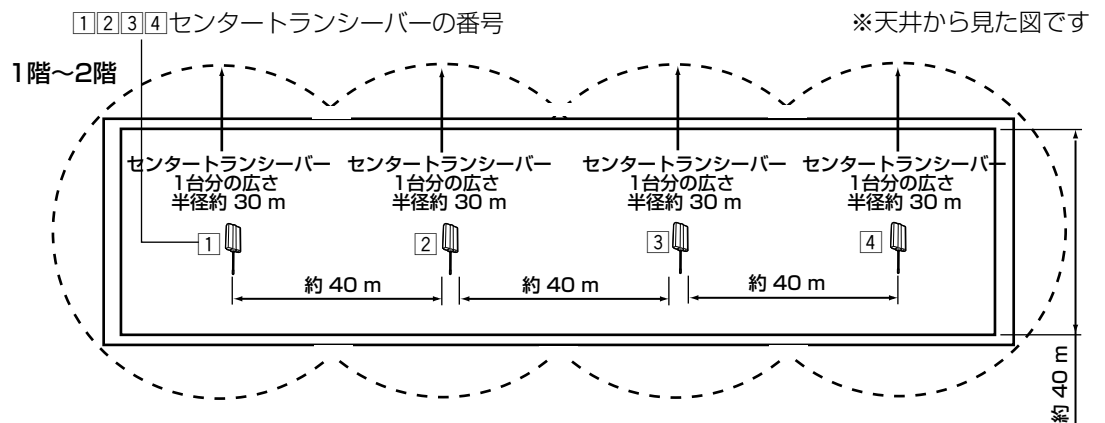
●周波数グループの設定

周波数グループ設定ロータリースイッチは、次の2通りの組み合わせのいずれかを選択してください（※26ページ）。

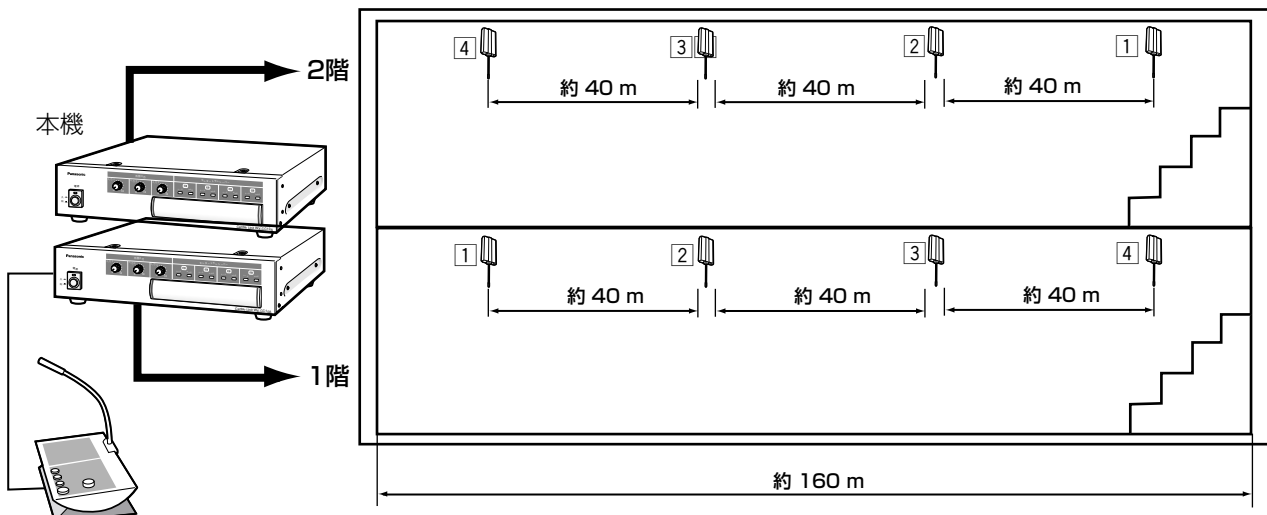
- ・1階：“1”、2階：“5”
- ・1階：“2”、2階：“4”

- 通話するグループは1グループです。ポータブルランシーバからの通話先は、全てのポータブルランシーバおよびセンターマイクになります。

- ・センターマイクで通話する場合 ※15ページ

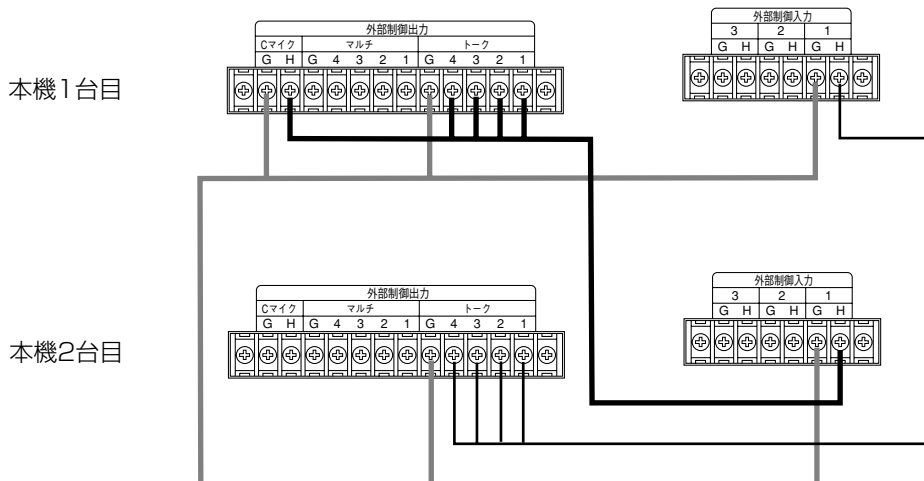


※側面から見た図です



●制御配線（センターユニット2台接続時）

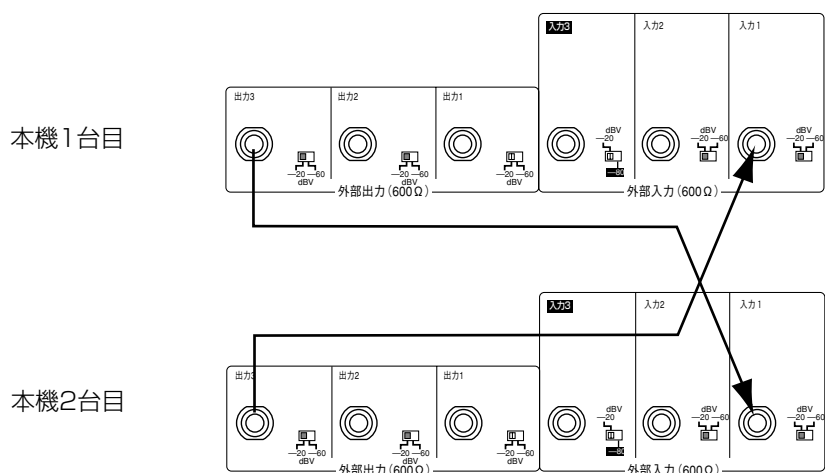
下図のように、各センターユニットの外部制御出力から、相手のセンターユニットの外部制御入力1に接続します。また、各グラウンド（G）を接続します。



●音声配線（センターユニット2台接続時）

下図のように、お互いのセンターユニットの外部出力3から、外部入力1に接続します。また、各音量を調整してください。

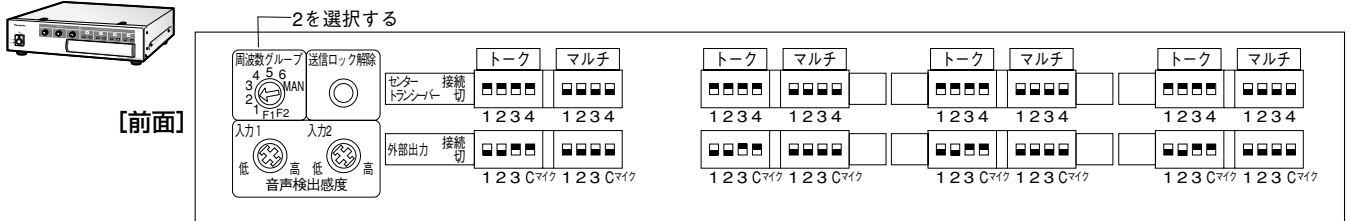
- 外部出力3の音量：外部出力音量調整ボリューム（[P.48](#)ページ）
- 外部入力1の音量：外部入力音量調節つまみ（[P.17](#)ページ）



カスケードシステム (つづき)

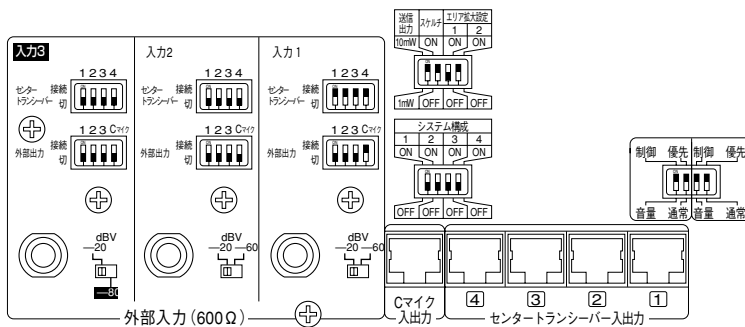
●本機1台目の設定例 (センターユニット2台接続時)

センターユニットの設定



[前面]

[背面]

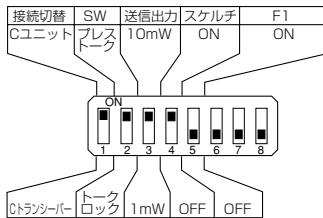


ディップスイッチの見かた

- 上側を選択 (例 "接続")
- 下側を選択 (例 "切")

センターマイクの設定

[台座部]



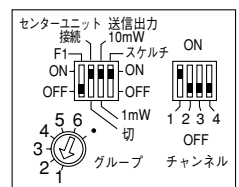
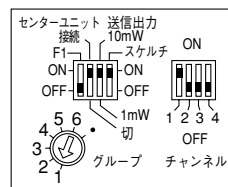
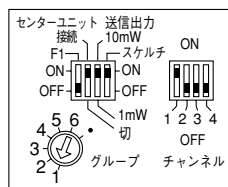
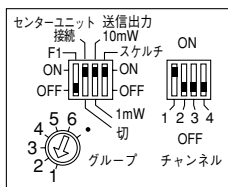
センタートランシーバーの設定

[センタートランシーバー1]

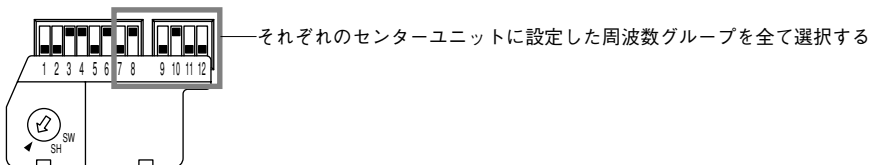
[センタートランシーバー2]

[センタートランシーバー3]

[センタートランシーバー4]

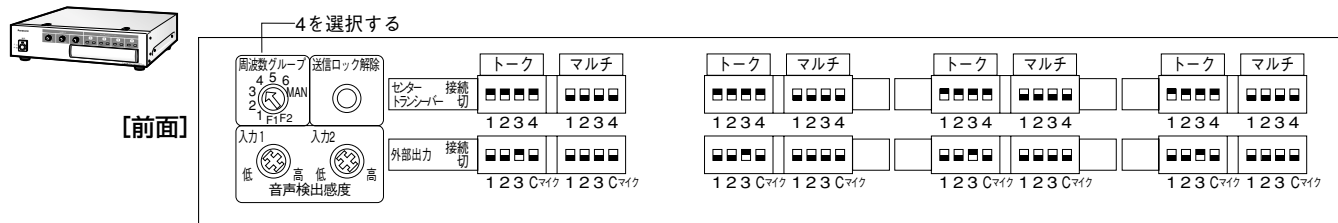


ポータブルトランシーバーの設定 (ポータブルトランシーバーは全て同じ設定)

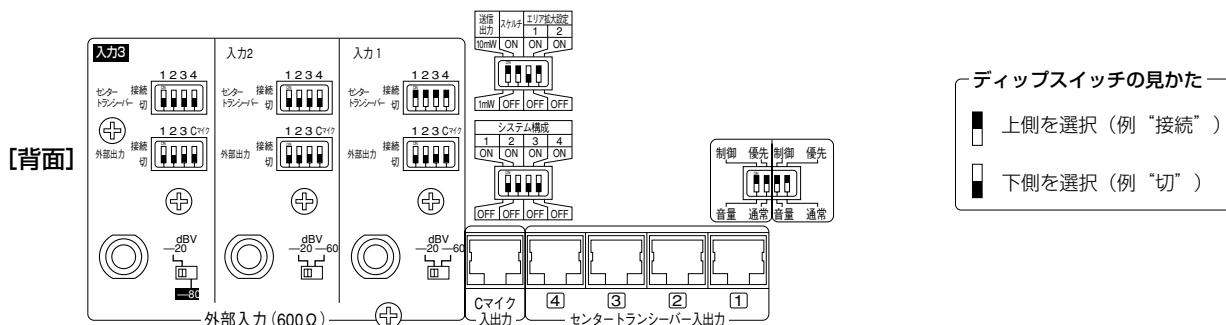


●本機2台目の設定例（センターユニット2台接続時）

センターユニットの設定



【前面】



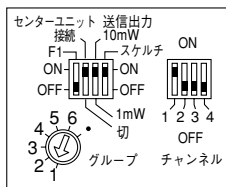
【背面】

ディップスイッチの見かた
 上側を選択 (例“接続”)
 下側を選択 (例“切”)

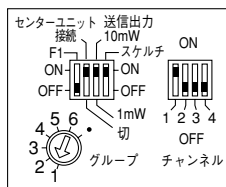
センタートランシーバーの設定



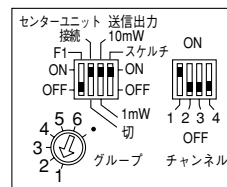
【センタートランシーバー1】



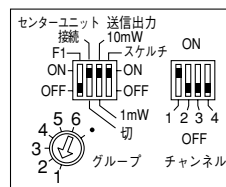
【センタートランシーバー2】



【センタートランシーバー3】



【センタートランシーバー4】



- センタートランシーバーの接続台数が7台以下の場合、接続しないセンタートランシーバーの番号にあたるディップスイッチを“切”にしてください。
 例えば、2台目のセンターユニットに3台のセンタートランシーバーを接続し、“センタートランシーバー一入出力4”を接続しない場合は、本機2台目の設定を上図に対して、下記のように変更してください。
 - ・前面パネル設定部の各“トーク”の4 : “切”
 - ・前面パネル設定部のセンタートランシーバーの4 : 全て“切”
 - ・背面パネルの外部入力1のディップスイッチの4 : “切”

カスケードシステム（つづき）

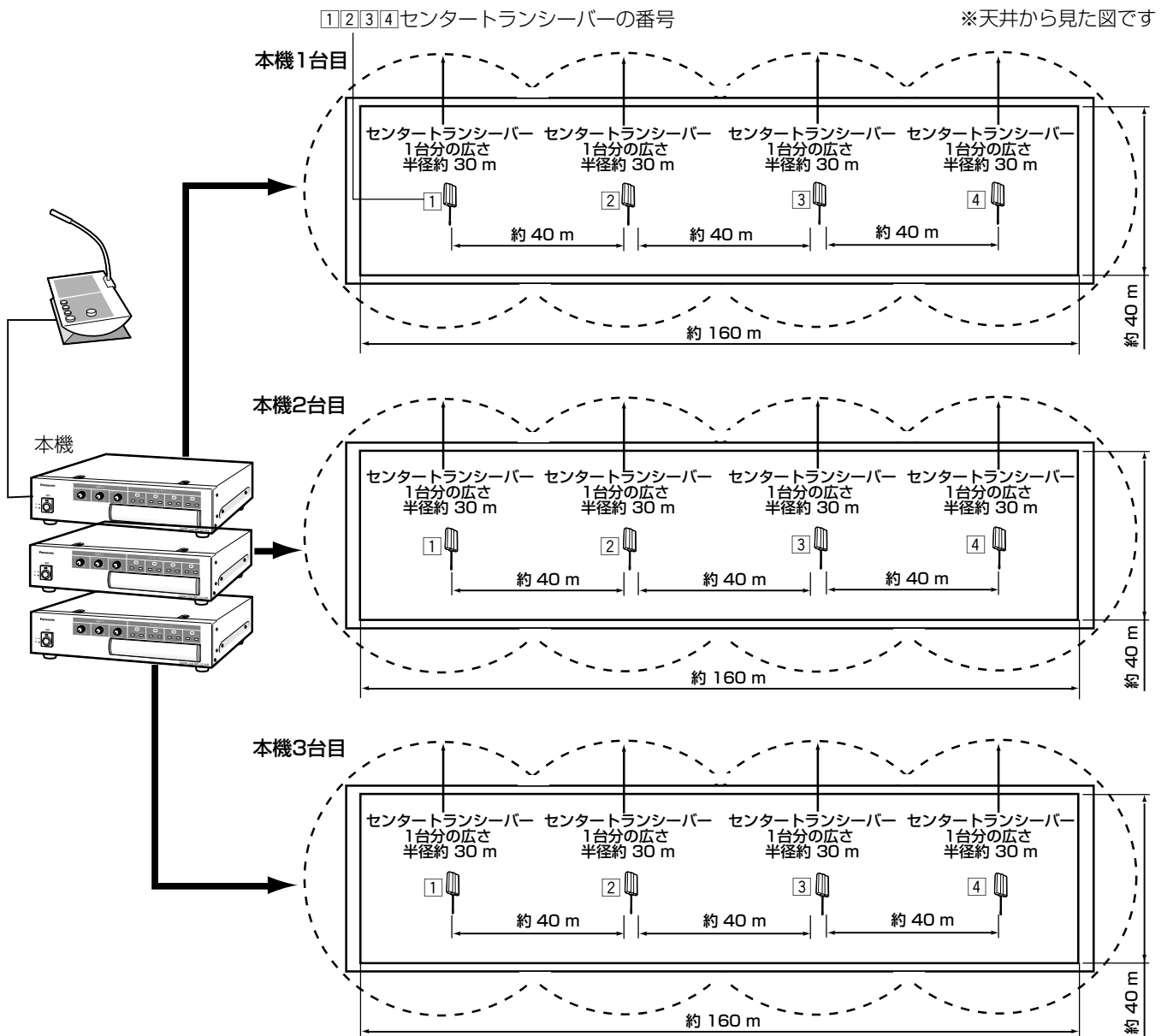
●センタートランシーバー12台で1グループを構成する場合【広範囲設置】

- 各センターユニットでのセンタートランシーバー間は、約40 mにしてください（室内160 m×40 mの場合）。
- センターマイクの接続は1台のみです。接続する場合は、本機の1台目に接続してください。

●周波数グループの設定

周波数グループ設定ロータリースイッチは、次の2通りの組み合わせのいずれかを選択してください（☞26ページ）。

- 本機1台目：“1”、本機2台目：“5”、本機3台目：“3”
- 本機1台目：“2”、本機2台目：“4”、本機3台目：“6”
- 通話するグループは1グループです。ポータブルトランシーバーからの通話先は、全てのポータブルトランシーバーおよびセンターマイクになります。
 - センターマイクで通話する場合 ☞15ページ



●センターランシーバー12台で1グループを構成する場合 [多層設置]

- 多層設置する場合は、センターランシーバーの並び順を下図のように階ごとにかえてください。
- 各センターユニットでのセンターランシーバー間は、約40 mにしてください（室内160 m×40 mの場合）。
- センターマイクの接続は1台のみです。接続する場合は、本機の1台目に接続してください。

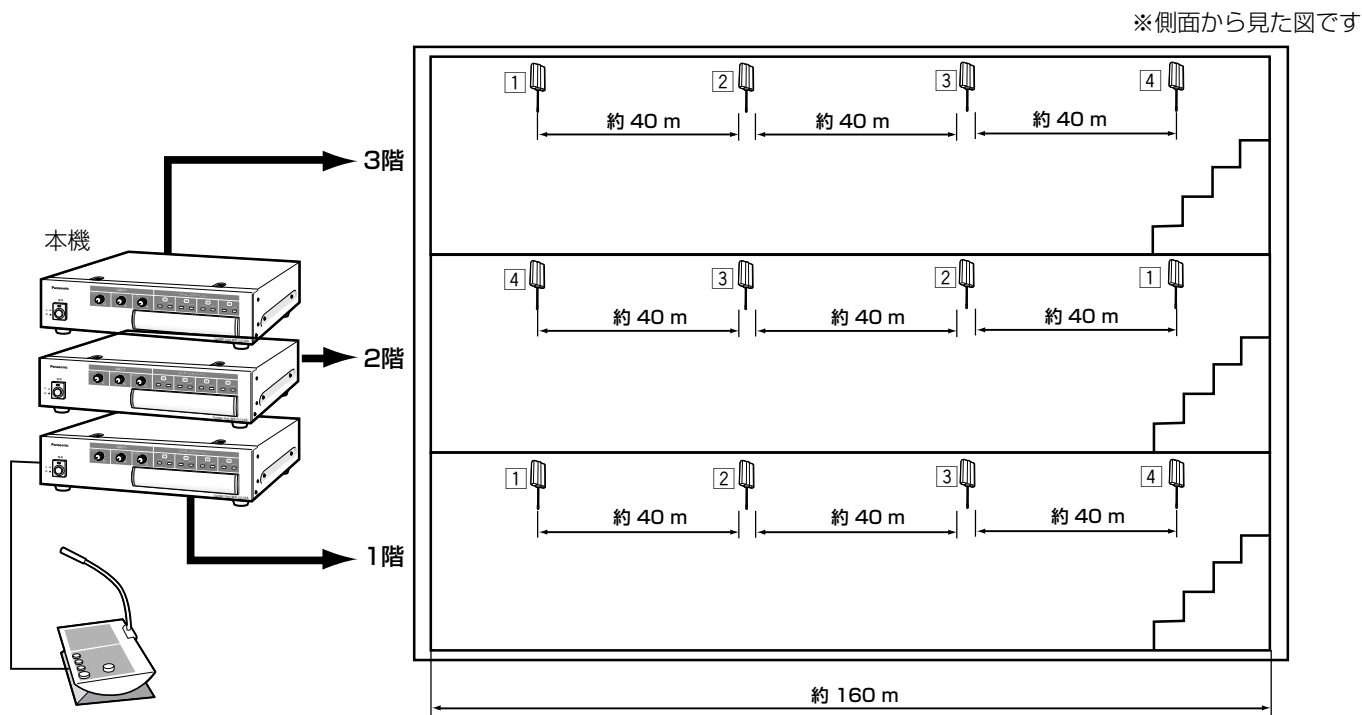
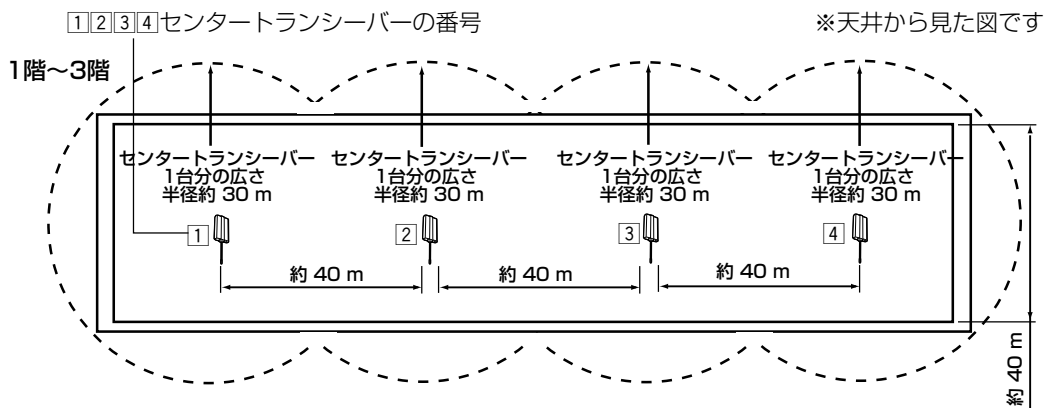
●周波数グループの設定

周波数グループ設定ロータリースイッチは、次の2通りの組み合わせのいずれかを選択してください（☞26ページ）。

- ・1階：“1”、2階：“5”、3階：“3”
- ・1階：“2”、2階：“4”、3階：“6”

- 通話するグループは1グループです。ポータブルランシーバーからの通話先は、全てのポータブルランシーバーおよびセンターマイクになります。

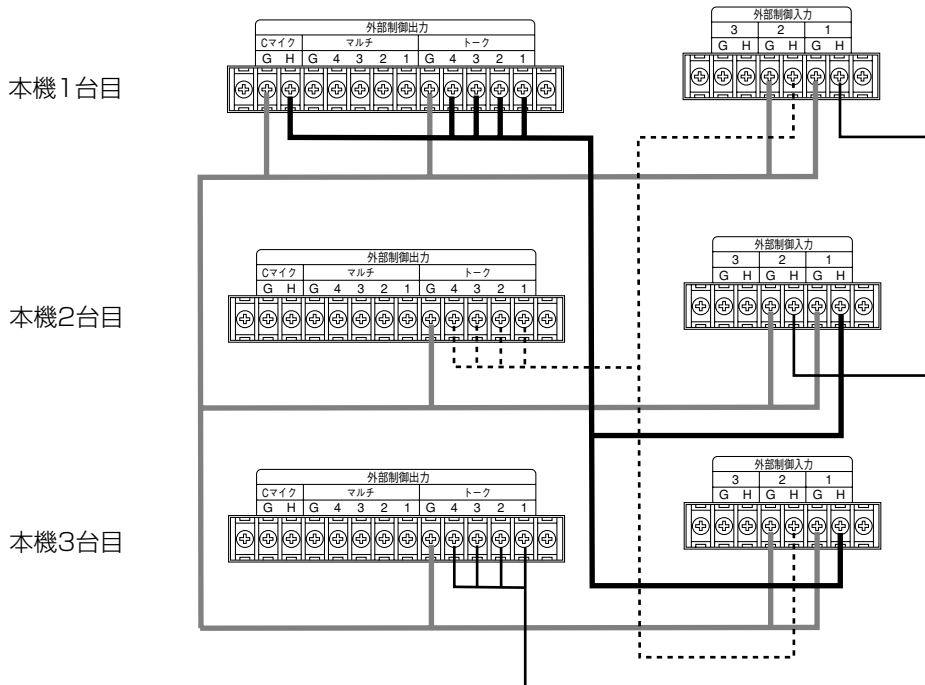
- ・センターマイクで通話する場合 ☞15ページ



カスケードシステム (つづき)

●制御配線 (センターユニット3台接続時)

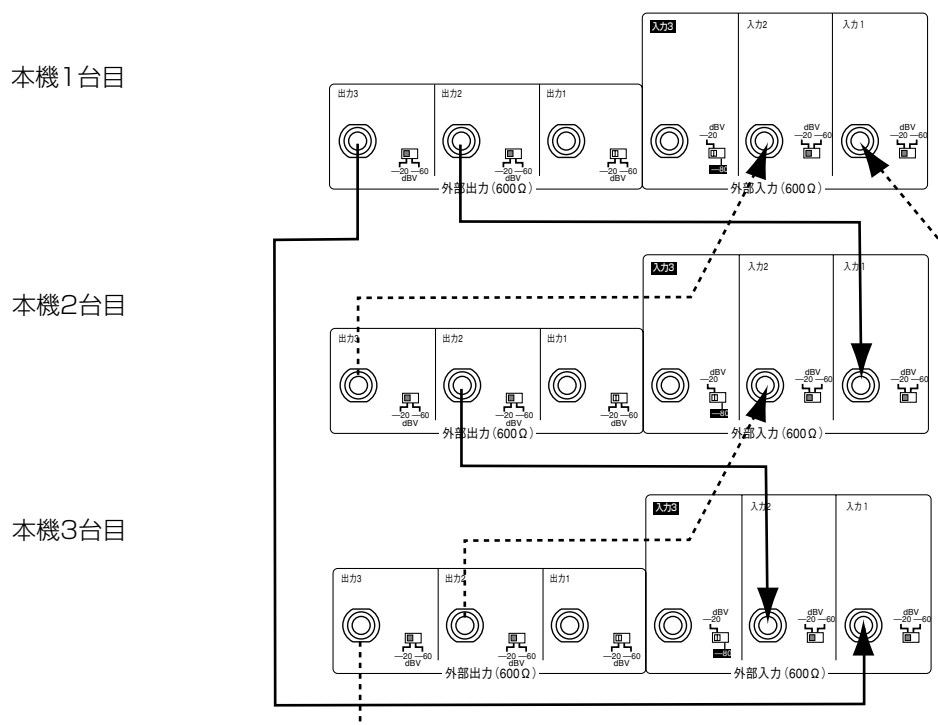
下図のように、各センターユニットの外部制御出力から、相手のセンターユニットの外部制御入力1および外部制御入力2に接続します。また、各グラウンド (G) を接続します。



●音声配線 (センターユニット3台接続時)

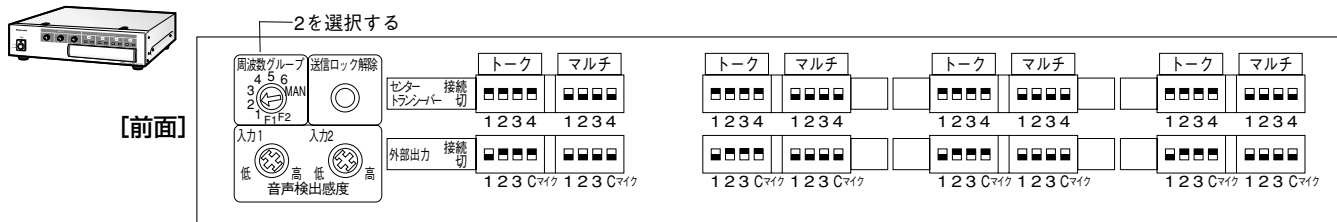
下図のように、お互いのセンターユニットの外部出力2,3から、外部入力1,2に接続します。また、各音量を調整してください。

- 外部出力2,3の音量：外部出力音量調整ボリューム (P.48ページ)
- 外部入力1,2の音量：外部入力音量調節つまみ (P.17ページ)



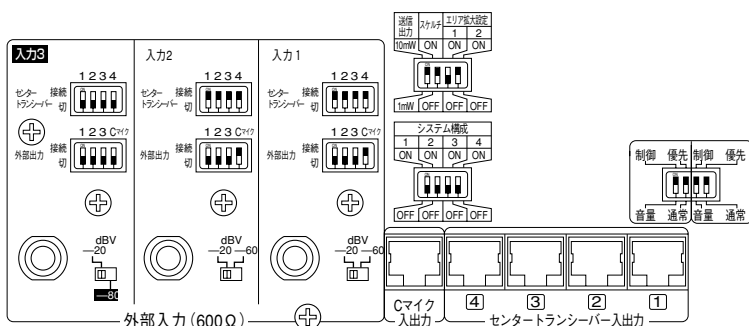
●本機1台目の設定例（センターユニット3台接続時）

センターユニットの設定



【前面】

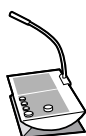
【背面】



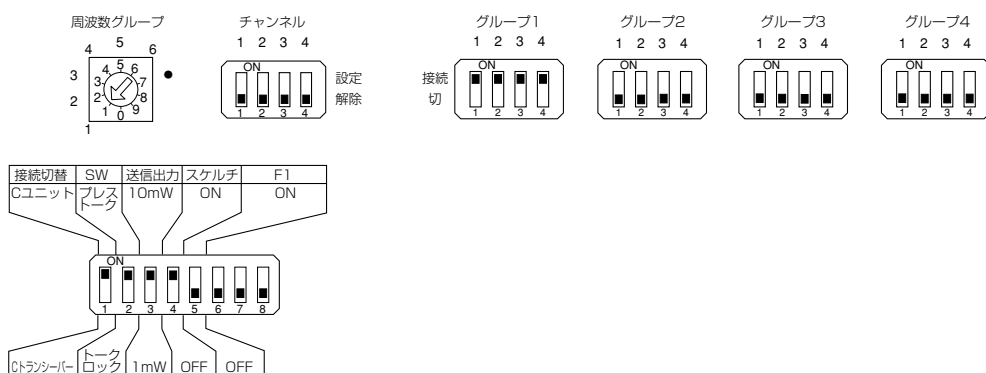
ディップスイッチの見かた

- 上側を選択（例“接続”）
- 下側を選択（例“切”）

センターマイクの設定



【台座部】



センタートランシーバーの設定

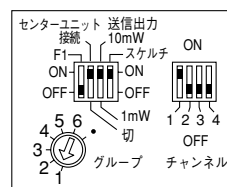
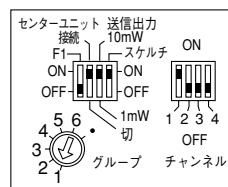
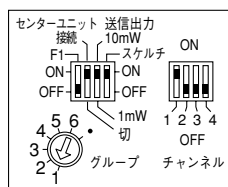
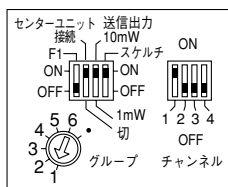


【センタートランシーバー1】

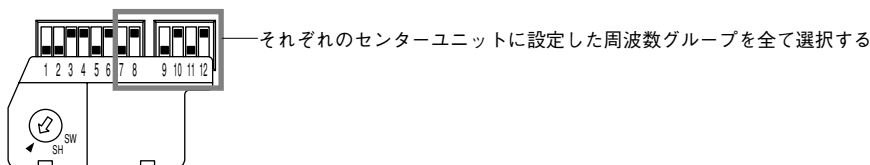
【センタートランシーバー2】

【センタートランシーバー3】

【センタートランシーバー4】



ポータブルトランシーバーの設定（ポータブルトランシーバーは全て同じ設定）



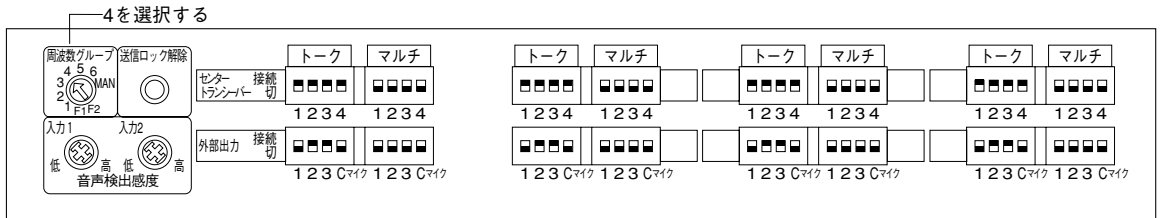
カスケードシステム (つづき)

●本機2台目の設定例 (センターユニット3台接続時)

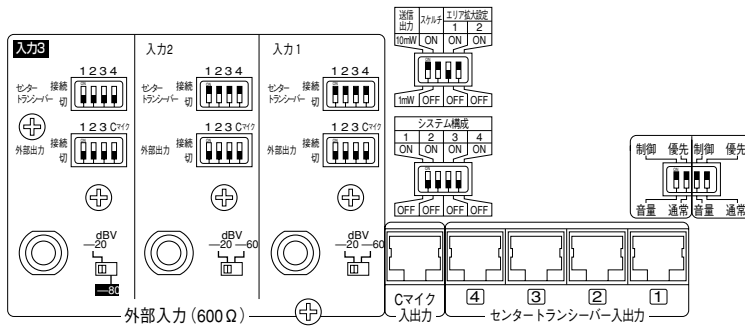
センターユニットの設定



[前面]



[背面]



ディップスイッチの見かた

- 上側を選択 (例 “接続”)
- 下側を選択 (例 “切”)

センタートランスミッターの設定

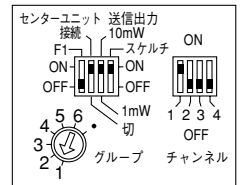
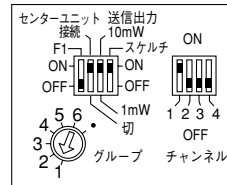
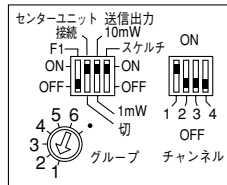
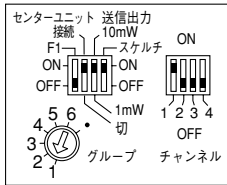


[センタートランスミッター-1]

[センタートランスミッター-2]

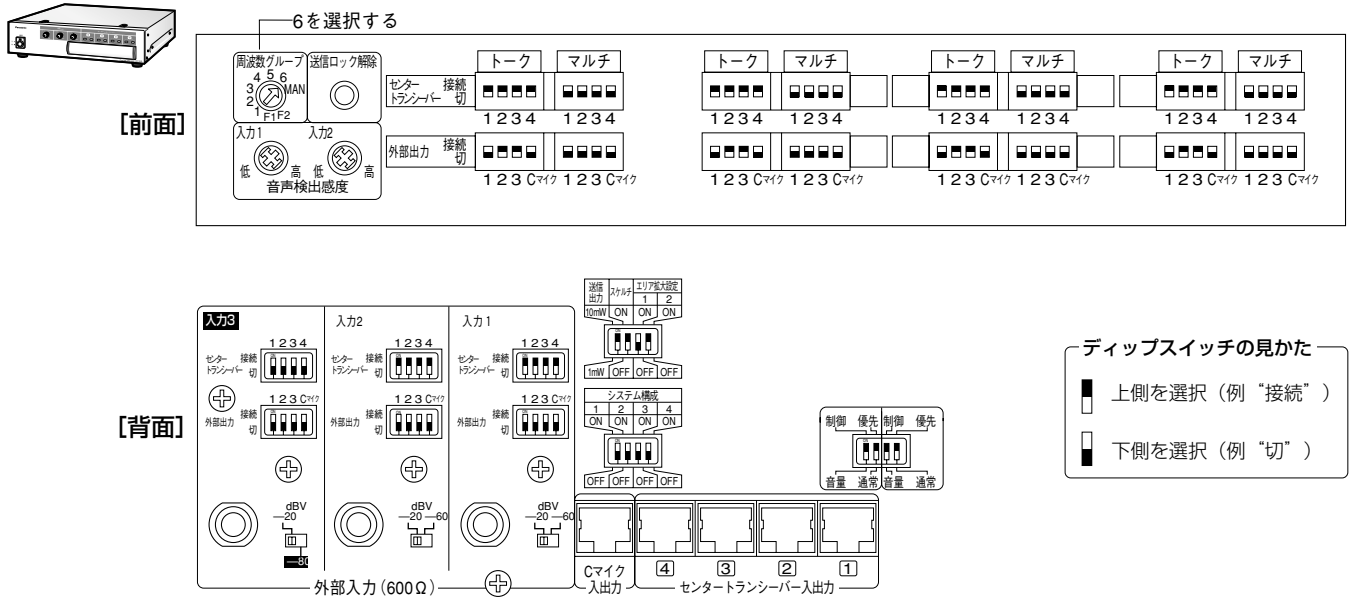
[センタートランスミッター-3]

[センタートランスミッター-4]



●本機3台目の設定例（センターユニット3台接続時）

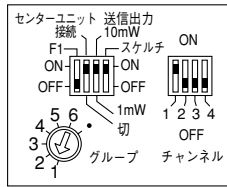
センターユニットの設定



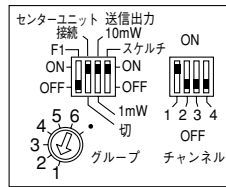
センタートランシーバーの設定



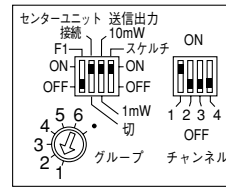
【センタートランシーバー1】



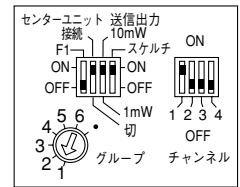
【センタートランシーバー2】



【センタートランシーバー3】



【センタートランシーバー4】



- センタートランシーバーの接続台数が1台以下の場合、接続しないセンタートランシーバーの番号にあたるディップスイッチを“切”にしてください。
- 例えば、3台目のセンターユニットに3台のセンタートランシーバーを接続し、“センタートランシーバー入出力4”を接続しない場合は、本機3台目の設定を上図に対して、下記のように変更してください。
 - ・前面パネル設定部の各“トーク”の4 : “切”
 - ・前面パネル設定部のセンタートランシーバーの4 : 全て“切”
 - ・背面パネルの外部入力1,2のディップスイッチの4 : “切”

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグがACコンセントに確実に接続されていますか？ →接続されているか確認してください。 	—
トーク表示灯、マルチ表示灯が交互に点滅を繰り返し、通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ●センタートランシーバーに接続されているケーブルが外れていませんか？ →接続されているか、確認してください。 ●ケーブルの配線を間違えていませんか？ →配線を確認してください。 ●ケーブルが断線していませんか？ →ケーブルを確認してください。 ●使用しない（接続されていない）センタートランシーバーを設定していませんか？ →設定を確認してください。 ●センタートランシーバーの「センターユニット接続スイッチ」が「切」になっていませんか？ →「接続」にしてください。 ●センタートランシーバーとのケーブル長が100 m以上300 m以内のとき、センタートランシーバーにACアダプターを接続していますか？ →ACアダプターを接続してください。 	<p>42</p> <p>42~43</p> <p>42~49</p> <p>27~29</p> <p>☞センタートランシーバー説明書</p> <p>☞センタートランシーバー説明書</p>
トーク表示灯、マルチ表示灯が同時に点滅を繰り返し、通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ●周波数グループロータリースイッチが“1,2,3,4,5,6,MAN”以外に設定されていませんか？ →“1,2,3,4,5,6,MAN”のいずれかに設定してください。 	26
電源ON時からセンタートランシーバー1のトーク表示灯とマルチ表示灯が点灯したまま、通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ●スケルチの設定は有効（スケルチスイッチ「ON」）になっていますか？ →スケルチスイッチを「ON」にしてください。 	30~31
従来システム（WX-C10シリーズ）と組み合わせてシステムを構築したときに、トーク表示灯、マルチ表示灯が交互に点滅を繰り返し、通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ●従来システムとの接続設定をしていますか？ →確認してください。 	<p>33~34</p> <p>☞センタートランシーバー説明書</p> <p>☞センターマイク説明書</p>
混信することがある	<ul style="list-style-type: none"> ●外来からの電波の影響を受けていませんか？ →別の周波数を選択してください。 	26

症 状	原 因 ・ 対 策	参 照 ペ ー ジ
ポータブルトランシーバー同士の同時通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● システム構成ディップスイッチの設定は合っていますか？ → 設定を確認してください。 ● ポータブルトランシーバーに、シフトボタンの設定をしていませんか？ → 設定を確認してください。 	35～36 <small>☞</small> ポータブルトランシーバー説明書
場所によって、ポータブルトランシーバー同士の同時通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● センタートランシーバーの設置間隔が遠くなっていませんか？ → 設置間隔を確認してください。 	39
通話できないポータブルトランシーバーがある	<ul style="list-style-type: none"> ● センターユニットと各ポータブルトランシーバーの周波数は合っていますか？ → 周波数を確認してください。 ● エリア拡大の設定などの設定は、センターユニットと合っていますか？ → 設定を確認してください。 ● 従来システムとの組み合わせの場合、従来システムとの接続設定をしていますか？ → 接続設定を確認してください。 ● 外来からの電波の影響を受けていませんか？ → 別の周波数を選択してください。 	26 <small>☞</small> ポータブルトランシーバー説明書 32 <small>☞</small> ポータブルトランシーバー説明書 33～34 <small>☞</small> センターマイク説明書 <small>☞</small> センタートランシーバー説明書 <small>☞</small> ポータブルトランシーバー説明書 26
センターマイクからの通話ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● センターマイクに接続されているケーブルが外れていませんか？ → 接続されているか、確認してください。 ● ケーブルの配線を間違えていませんか？ → 配線を確認してください。 ● ケーブルが断線していませんか？ → ケーブルを確認してください。 ● センターマイクの接続切替スイッチが「Cトランシーバー」になっていませんか？ → 設定を確認してください。 ● センターマイクとのケーブル長が50 m以上150 m以内のとき、センタートランシーバーにACアダプターを接続していますか？ → ACアダプターを接続してください。 ● 従来システムとの組み合わせの場合、従来システムとの接続設定をしていますか？ → 接続設定を確認してください。 ● 外来からの電波の影響を受けていませんか？ → 別の周波数を選択してください。 	43 43 42～49 <small>☞</small> センターマイク説明書 <small>☞</small> センターマイク説明書 33～34 <small>☞</small> センターマイク説明書 26

故障かな!? (つづき)

電源コード・コネクター・電源プラグは、ときどき点検してください。

症 状	原 因 ・ 対 策
電源コードの被ふくが傷んでいる	<ul style="list-style-type: none">●電源コード・コネクター・電源プラグが傷んでいます。そのままの状態を使い続けると、感電や火災の原因になります。直ちに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
使用中、電源コード・コネクター・電源プラグの一部が熱い	
使用中、電源コードを曲げたり伸ばしたりすると、暖かくなったり、ぬるくなったりする	

ユーザー通知一覧

本機では下記の内容について、トーク表示灯およびマルチ表示灯の点灯・点滅で動作状態をお知らせします。

●起動時

分類	内 容	トーク表示灯・マルチ表示灯表示状態
通知	センタートランシーバー検索中、未接続	トーク表示灯・マルチ表示灯が交互に点滅 (0.5秒間隔)
通知	センタートランシーバー接続確立	トーク表示灯・マルチ表示灯が同時に点滅 (0.5秒間隔)
通知	システム正常起動	トーク表示灯・マルチ表示灯が同時に点灯 (約3秒間)
通知	センタートランシーバー接続設定なし	トーク表示灯・マルチ表示灯が消灯

●運用時

分類	内 容	トーク表示灯・マルチ表示灯表示状態	
通知	通話中	トークボタンによる通話時	該当するトーク表示灯が点滅 (0.5秒間隔) マルチ表示灯は消灯
		マルチボタンによる通話時	該当するマルチ表示灯が点滅 (0.5秒間隔) トーク表示灯は消灯
		センターマイクなどからの放送中	該当するトーク表示灯・マルチ表示灯が点灯
警告	周波数グループロータリスイッチが “1,2,3,4,5,6,MAN” 以外に設定されている	トーク表示灯・マルチ表示灯が同時に点滅 (0.5秒間隔)	
警告	通信異常、または制御ラインの異常、または 音声ラインの異常 →ケーブル接続および配線を確認してください	トーク表示灯・マルチ表示灯が同時に点滅 (0.5秒間隔) を3回繰り返し、システムが再起動します。 (以降は、起動時の通知に従ってください)	

仕様

●基本仕様

電源	AC100 V 50 Hz/60 Hz
消費電力	約20 W
使用温度範囲	-10 °C~+50 °C (ラック取付時-10 °C~+45 °C)
寸法	幅420 mm 高さ88 mm 奥行き230 mm (ゴム足、突起部含まず)
質量	約4.0 kg
仕上げ	パネル：AVアイボリー色焼付塗装 (マンセル7.9Y6.8/0.8近似色) カバー：AVアイボリー色塗装鋼板 (マンセル7.9Y6.8/0.8近似色)

●音声入出力

センタートランシーバー接続コネクタ	4系統 8ピンモジュラージャック ケーブル長最大300 m ※1
センターマイク接続コネクタ	1系統 8ピンモジュラージャック ケーブル長最大150 m ※2
外部入力1, 2端子	平衡入力 大形複式ジャック 600 Ω ・入力調整つまみ付き (前面) ・入力感度切換スイッチ付き -20 dBV/-60 dBV切換 (背面) ・音声検出感度調整つまみ付き (前面)
外部入力3端子	平衡入力 大形複式ジャック 600 Ω ・入力調整つまみ付き (前面) ・入力感度切換スイッチ付き -20 dBV/-80 dBV切換 (背面)
外部出力1~3端子	3系統 不平衡出力 大形単式ジャック 600 Ω ・出力調整つまみ付き (背面) ・出力音量切換スイッチ付き -20 dBV/-60 dBV切換 (背面)
周波数特性	センタートランシーバー入出力：300 Hz~3 kHz センターマイク入出力：100 Hz~15 kHz 外部入出力：100 Hz~15 kHz

※1：ケーブル長が100 m以上の場合は、センタートランシーバーにACアダプターを接続する必要があります。

※2：ケーブル長が50 m以上の場合は、センターマイクにACアダプターを接続する必要があります。

●制御・設定

(前面)	
センタートランシーバー出力設定スイッチ	8回路 4系統
外部出力設定ディップスイッチ	8回路 4系統
周波数設定スイッチ	ロータリースイッチ (1~6、MAN)
送信ロック解除スイッチ	タクトスイッチ
(背面)	
センタートランシーバー設定スイッチ	4回路 3系統
外部出力設定ディップスイッチ	4回路 3系統
機能設定ディップスイッチ	4回路 1系統
システム構成設定ディップスイッチ	4回路 1系統
外部制御入力	3系統 メイク接点入力
外部制御出力	9系統 オープンコレクタ方式 (トーク4系統、マルチ4系統、センターマイク1系統)

●周波数表

(CT：センタートランシーバー、PT：ポータブルトランシーバー)

チャンネル番号	CT：受信周波数 PT：送信周波数	CT：送信周波数 PT：受信周波数	周波数グループ							
			G1	G2	G3	G4	G5	G6	G・	
1	421.5750 MHz	440.0250 MHz	①							
2	421.5875 MHz	440.0375 MHz		①						
3	421.6000 MHz	440.0500 MHz								①
4	421.6125 MHz	440.0625 MHz	②							
5	421.6250 MHz	440.0750 MHz		②						
6	421.6375 MHz	440.0875 MHz			①					
7	421.6500 MHz	440.1000 MHz				①				
8	421.6625 MHz	440.1125 MHz					①			
9	421.6750 MHz	440.1250 MHz						①		
10	421.6875 MHz	440.1375 MHz	③							
11	421.7000 MHz	440.1500 MHz			②					
12	421.7125 MHz	440.1625 MHz				②				
13	421.7250 MHz	440.1750 MHz					②			
14	421.7375 MHz	440.1875 MHz						②		
15	421.7500 MHz	440.2000 MHz		③						
16	421.7625 MHz	440.2125 MHz								②
17	421.7750 MHz	440.2250 MHz	④							
18	421.7875 MHz	440.2375 MHz								③
19	421.8000 MHz	440.2500 MHz	-	-	-	-	-	-	-	-
32	421.8125 MHz	440.2625 MHz		④						
33	421.8250 MHz	440.2750 MHz			③					
34	421.8375 MHz	440.2875 MHz				③				
35	421.8500 MHz	440.3000 MHz					③			
36	421.8625 MHz	440.3125 MHz						③		
37	421.8750 MHz	440.3250 MHz			④					
38	421.8875 MHz	440.3375 MHz				④				
39	421.9000 MHz	440.3500 MHz					④			
40	421.9125 MHz	440.3625 MHz						④		

※周波数グループの①～④チャンネルは、センターユニットに接続されるセンタートランシーバー1～4に相当します。周波数グループG・は①～③チャンネルまでです。

※周波数グループG・はセンターユニットでは設定できません。(周波数グループを“MAN”にしたときにセンタートランシーバー側で設定可能)

保証とアフターサービス よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このセンターユニットの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼される時

70～72ページの表に従ってご確認のあと、なお異常のあるときは、電源を切ってから、電源プラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

品名	センターユニット
品番	WX-CC10A
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WX-CC10A
	販売店名	電話 () -				

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410